

社会福祉法人 三徳会

令和2年度事業報告書

令和2年4月1日～令和3年3月31日

(2020.4.1～2021.3.31)

介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム）（成幸、戸越台、荏原、平塚橋）
通所介護事業所（デイサービス）（成幸、戸越台、荏原、小山）
短期入所生活介護事業所（ショートステイ）（成幸、戸越台、荏原、平塚橋）
居宅支援事業所（在宅介護支援センター）（成幸、戸越台、杜松、荏原、小山、小山台）
高齢者多世代交流支援施設（ゆうゆうプラザ）（平塚橋）

目 次

	(頁)
1 概 要	1
2 役員会	2
3 施設整備の主なもの	5
4 法人事務局	7
1. 法人事務局運営	7
2. 総合的運営方針	7
1) 個人と組織の活性化の仕組みづくり	7
2) 生産性の向上に向けた人材育成	7
3. 総合・事務総務等管理	9
1) 職員等の状況	9
2) 公正・納得性の高い人事管理・賃金制度の運用促進	10
3) 健康経営の促進体制の整備	11
4) 安定した労使関係の維持と働く環境整備の推進	11
5) 採用促進および採用に係る管理	13
4. 労務管理	15
1) 勤怠システムの効率的運用と電子化促進	15
2) 安定的な法令改正の対応および合理的な給与支払の監理	15
3) 税・社会保険手続きおよび届出の効率化	16
5. 会計・財務管理	16
1) 法人単位会計業務・出納業務および財務管理の促進	16
2) 内部管理体制の不整備	17
6. 運営管理	17
1) 法人運営管理	17
2) 施設運営会議	18
5 施設運営局	19
1. 介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム）（成幸・戸越台・荏原・平塚橋）	19
1) 生活全般の支援サービス	21
2) その他のサービス	22
3) 相談・情報提供	22
4) その他	23
5) 各施設の取り組み	24
6) 各施設共通（栄養・医務訓練）	28
2. 通所介護事業（デイサービス）（成幸・戸越台・荏原・小山）	31
1) 基本デイサービス（予防通所事業・介護給付）	32
2) 地域密着型認知症対応型デイサービス	32
3) 介護予防事業（身近でトレーニング）	33

4) その他	33
5) 各センターの取り組み	36
3. 短期入所生活介護事業（ショートステイ）	40
1) 各施設の取り組み	41
4. 在宅介護支援センター（居宅介護支援事業、老人介護支援センター、 地域包括支援センター）（成幸・戸越台・杜松・荏原・小山・小山台）	44
6 高齢者多世代交流支援施設（ゆうゆうプラザ）	47
1) 感染症のため中止した内容	47
2) 新たな視点による支援	47
7 研修報告	49
1) 国内外研修	49
2) 施設外研修	49
3) 施設内研修	49
8 地域活動	50
1) 生と死を見つめる懇談会（地域公益活動）	50
2) 広報紙「三徳だより」の発行	50
3) ホームページの活用	50
4) 地域交流会（地域公益活動）	50
5) 高齢者と介護者のための料理教室	50
6) ボランティア懇談会	50
7) 地域行事への参加	50
9 その他	51
1) 実習生・研修生	51
2) 防災対策	51
3) 感染症対策	51
10 業績	51
11 新型コロナウイルス感染症の対応	52

資料編

1. 介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム）	55
1) 令和2年度の利用者動向	55
2) 利用者の入退所状況	58
3) 利用者の日常生活能力（ADL）	67
4) 家族などの訪問(面会)者数・外泊状況	70
5) 三徳懇談会	71
6) セルフチェックシート（自己評価表）	72
栄養・調理	
7) 個別の栄養状態に着目した栄養ケアマネジメントに基づいた特別な対応	76
8) 残菜・嗜好調査	77

9) 選択食、団らん食、お楽しみ食、その他	78
10) 栄養出納表（年間平均）	82
健康管理	
11) 受診状況	83
12) 利用者の診断病名	84
13) 入院・退所状況	85
14) 入院者病名および件数	85
15) その他	86
16) 機能訓練	87
2. 在宅サービス	88
1) 年間利用者状況	88
①通所介護施設（デイサービス）	88
②短期入所生活介護施設（ショートステイ）	104
2) 機能訓練	107
3) 食事サービス（ショートステイ・デイサービス・配食）	107
4) 健康管理	108
5) 栄養調理	109
3. 在宅介護支援センター（在宅介護支援センター）	110
1) 年間利用者状況	110
2) 介護保険利用者状況	122
3) 認知症サポーター養成事業・認知症サポーターレベルアップ事業	134
4. 高齢者多世代交流支援施設（ゆうゆうプラザ）	135
1) 各事業参加状況	135
2) 地域ミニデイ実施状況	135
3) 利用者状況	136
5. 防災	138
1) 防災委員会の開催	138
2) 防災訓練の実施	140
6. 委員会活動	142
1) 苦情解決・サービス向上委員会	142
2) 安全衛生委員会	144
3) 給食委員会	146
7. その他	148
1) 研修報告	148
2) 実習生受入れ	156
3) 見学	157
4) 近隣との交流	159
5) ボランティア事業報告	159
6) 令和2年度行事表	161
8. 事例報告	163

1 概 要

令和2年度は世界的な流行となった新型コロナウイルス感染症により甚大な影響を受けた年度であった。感染症の拡大は2度にわたる緊急事態宣言や国をあげて蔓延防止対策を講じても功を奏することなく、未だ収束が見えない状況である。

この一年、利用者サービスにおいては行事や地域交流等の中止、面会をリモートで実施するなど、随時、感染状況に合わせた対応を行った。また、新入所の受け入れ延期や感染症の長期化も相まって、法人の経営は非常に厳しい状況に陥った。荏原ホームでは9月と1月に特養ホーム利用者および職員が新型コロナウイルス感染症に罹患し、併設のショートステイやデイサービスも大きな影響を受けた。他施設においても感染者との濃厚接触者や発症した職員がみられ、拡大は防げたものの、事業運営が停滞したことは否めない。その結果、年間を通して特養利用者の減少や在宅サービスの利用控えが生じ稼働率に影響して決算状況は大幅な減益となった。

このような状況下、法人への経営支援として、東京都から新型コロナウイルス感染症緊急包括支援事業や感染症強化事業等の交付を受け、感染対策物品や設備、職員のPCR検査等の費用に充当した。さらに介護従事者の支援として、品川区では東京都の慰労金交付事業を待たず、特例措置としていち早く業務継続支援金が交付され、事業に関わる全従業員（委託、派遣職員を含む）へ見舞金を支給した。

介護人材の多岐にわたる課題が続くなか、追い打ちをかけるような新型コロナウイルス感染症の流行はこの先、職員の確保や定着、処遇にも大きく影響を及ぼすと考えられる。今後はますますメンタルケア対策や処遇改善、安心して働ける職場環境づくりが重要となるであろう。法人では法改正に伴い、セクシャルハラスメント防止規程を廃止し、パワーハラスメント等に対応する「職場におけるハラスメント防止に関する規程」を制定し、新たに相談窓口を設置した。令和元年度より運用している法人内部と外部に設置したコンプライアンス通報・相談窓口と併せて、職員が相談しやすい体制を構築した。

また、働き方改革の一環として進められた同一労働同一賃金に合わせ、常勤職員と非常勤職員との待遇を対比して見直しを図り、休暇や手当、福利厚生等の改善を行った。介護職員の処遇改善としては、業務の効率化、省力化に向けて積極的に機器類の導入を行っている。令和2年度は「見守りセンサー」を増設し、新たに携帯端末でも確認できるシステムを取り入れ、業務効率化とともに安全対策の向上に努めた。今後も補助金等を活用し、人材確保や雇用の安定、処遇改善を目指して機器類を導入していく。また、これから主流となる、オンラインによる新しい会議や研修を始めとした効率化への取り組みにも着手した。

戸越台大規模改修工事は、最終工程の7階・8階の工事が9月に完了し、各階で事業を再開した。また戸越台中学校との共有施設や、設備の更新に着工した。

平塚橋ゆうゆうプラザは感染症の影響を受け、6月まで休館とし、それ以降も日祝日、夜間は閉館している。言語聴覚相談室は1回目の緊急事態宣言が解除されてからは感染対策を講じながら通常どおり運営したが、その他のイベント等はほとんど実施できなかった。

2 役員会

1) 令和2年度評議員会の開催状況および審議の概要は、次の通りである。

開催日時	審議事項
第65回定時評議員会 令和2年6月27日(土) 荏原ホーム 2階 会議室	1. 平成31年(令和元年)度決算報告および監事監査報告について ※報告事項 ①平成31年(令和元年)度事業報告書について ②戸越台ホーム大規模改修工事進捗状況について その他
第66回評議員会 令和2年12月5日(土) スクエア荏原 3階 会議室	1. 令和2年度収支補正予算(案)について ※報告事項 ①新型コロナウイルス感染症にかかる対応報告(荏原ホーム)
第67回評議員会 令和3年3月13日(土) スクエア荏原 3階 会議室	1. 令和2年度第二次収支補正予算(案)について 2. 令和3年度事業計画(案)について 3. 令和3年度収支予算(案)について 4. 役員、評議員および顧問の報酬ならびに費用負担に関する 規程の一部改正(案)について ※報告事項 ①新型コロナウイルス感染症にかかる対応報告(荏原ホーム)

2) 令和2年度理事会の開催状況および審議の概要は、次の通りである。

開催日時	審議事項
第208回理事会 令和2年6月6日(土) 荏原ホーム 2階 会議室	1. 職場におけるハラスメントの防止に関する規定(案)について 2. 就業規則の一部改正(案)について 3. 非常勤職員就業規則の一部改正(案)について 4. 嘱託職員就業規則の一部改正(案)について 5. 法人車輛の売却について 6. 平成31年度(令和元年度)事業報告書(案)について 7. 平成31年度(令和元年度)決算報告書(案)および監事監査 報告について 8. 定時評議員会の開催について ※報告事項 ①改修工事(戸越台)の進捗状況について その他

開催日時	審 議 事 項
第209回理事会 令和2年8月1日(土) 書面実施	1. 戸越台在宅サービスセンター運営管理の一部変更(案)について 2. 戸越台在宅サービスセンター運営管理規程(品川区介護予防・日常生活支援総合事業)の一部変更(案)について ※報告事項 ①令和2年度5月末収支状況について
第210回理事会 令和2年10月31日(土) 成幸ホーム 1階 会議室	1. 令和2年度収支補正予算(案)について 2. 第66回評議員会の開催について ※報告事項 ①新型コロナウイルス感染症にかかる対応報告(荏原ホーム) ②法人車輛売却の報告
第211回理事会 令和2年12月5日(土) スクエア荏原 3階会議室	1. 育児・介護休業規程の一部改正(案)について 2. 経理規程の一部改正(案)について 3. 釣銭準備金・立替金取扱管理規程の一部改正(案)について 4. 役員、評議員および顧問の報酬ならびに費用負担に関する規程の一部改正(案)について 5. 第67回評議員会の開催について ※報告事項 ①介護サービス従事者PCR検査の実施について(品川区)
第212回理事会 令和3年3月13日(土) スクエア荏原 3階会議室	1. 定款の一部変更(案)について 2. 第68回評議員会の開催について
第213回理事会 令和3年3月13日(土) スクエア荏原 3階会議室	1. 令和2年度第二次補正予算(案)について 2. 令和3年度委託業務契約について 3. 特別養護老人ホーム運営管理規程の一部改正(案)について 4. 特別養護老人ホーム(指定老人短期入所事業)・老人短期入所施設運営管理規程の一部改正(案)について 5. 在宅サービスセンター運営管理規程の一部改正(案)について 6. 在宅サービスセンター(認知症対応型)運営管理規程の一部改正(案)について 7. 在宅サービスセンター(品川区介護予防・日常生活支援総合事業)運営管理規程の一部改正(案)について 8. 在宅介護支援センター運営管理規程の一部改正(案)について 9. 令和3年度事業計画(案)について 10. 令和3年度収支予算(案)について ※報告事項 ①新型コロナウイルス感染症対応報告(荏原ホーム) ※協議事項 65歳までの確実な雇用確保の取組み(定年引上げ等)について その他

3) 役員等名簿

理事長	内野滋雄	医療福祉関係者
理事	内野京子	施設長代表
〃	鈴木恂子	医療福祉関係者
〃	井上幸彦	学識経験者
〃	内野正隆	医療福祉関係者
〃	村和男	学識経験者
〃	小林光俊	医療福祉関係者
〃	山口由美子	施設長代表
〃	野村寛	医療福祉従事者
〃	本城善之	法人事務局長
任 期	令和元年6月22日～令和3年定時評議員会	

【令和2年4月1日就任】

評議員	酒井隆	医療福祉関係者
〃	阿世知堯	地域の代表者
〃	武藤健一	医療福祉関係者
〃	戸田光則	地域の代表者
〃	國分幹郎	地域の代表者
〃	宮坂衛	家族代表
〃	高橋初美	家族代表
〃	谷口政隆	学識経験者
〃	宮良恵美子	家族代表
〃	片岡玲子	学識経験者
〃	平田実	学識経験者
任 期	平成29年4月1日～令和3年定時評議員会	

監 事	銅谷勝子	医療福祉関係者
〃	碓井憲男	学識経験者
任 期	令和元年6月22日～令和3年定時評議員会	

3 施設整備の主なもの

1) 成 幸

【工 事】	(単位：千円)
1 給湯器設備工事	4, 400
2 屋上自家発電用バッテリー交換工事	341
3 浴槽用循環洗浄装置部品交換工事	305
4 雑排水槽部品交換工事	216
計	<u>5, 262</u>

【備品購入】	(単位：千円)
1 見守りシステム 13台	4, 640
2 厨房機器ブラストチラー 1台	3, 019
3 入浴用バスリフト 1台	2, 993
4 厨房冷凍冷蔵庫・冷凍庫 2台	2, 740
5 業務用洗濯機 1台	2, 073
計	<u>15, 465</u>

2) 戸越台

【工 事】	(単位：千円)
1 大型乾燥機修理	132
計	<u>132</u>

【備品購入】	(単位：千円)
1 送迎車 1台	3, 933
2 見守りシステム 6台	2, 237
3 低床ベッド 4台	1, 430
4 床走行式リフト 1台	343
5 交互牽引滑車運動器	299
6 清拭車 1台	234
計	<u>8, 476</u>

3) 荏原

【工 事】	(単位：千円)
1 特養床一部補修他工事	796
2 自動ドア駆動装置等取替工事	635
3 中央監視装置監視用PCおよびUPS修繕	630
4 吸収冷温水機部品交換工事	507
5 空調ドレン管掃除口取付その他工事	360
6 中央監視装置バッテリー等交換工事	359
7 地下1階出入口ナンバー錠取付	200
8 小規模維持補修	1,492
9 小山の家 床等改修工事	2,310
10 小山の家 緊急通報システムおよび照明器具等修繕工事	508
計	<u>7,797</u>

【備品購入】	(単位：千円)
1 特殊浴槽 (在宅)	7,045
2 パソコン 6台	720
3 空気清浄機 3台	417
計	<u>8,182</u>

4) 平塚橋

【工 事】	(単位：千円)
1 給湯用循環ポンプ交換 2台	303
2 中央監視装置UPSバッテリー交換	138
計	<u>441</u>

【備品購入】	(単位：千円)
1 見守りシステム 8台	2,464
2 ノートパソコン 16台	2,290
3 床走行式リフト 2台	532
4 車いす 1台	125
計	<u>5,411</u>

4 法人事務局

1. 法人事務局運営

令和2年に入り、全世界で新型コロナウイルス感染症が広がり、事務職員の業務内容や働き方、研修等の学習のあり方を含め、その進め方も大きく様変わりしてきた。感染症の収束が見通せない状況のなか、今後の事務局体制のあり方にどのような変化をもたらすかについて模索しながら、総合的運営方針に沿った「各係のガイドライン（指針）と行動計画書」の作成や業務マニュアルの作成を作成し、電子的な情報連携や相談体制を促進強化することで、効率的な業務執行を行ってきた。

また、業務継続の観点からも、事務局機能を維持していくための「事務所における感染予防対策指針」を明文化し、陽性者等の発生時における衛生上の職場の対応ルールを取りまとめた。前年度より行ってきた「情報セキュリティ体制およびネットワーク環境整備」をもとに、オンライン面会・会議、さらにはテレワークなどが実施できるようになり、事務局内にとどまらず一定の生産性向上に功を奏した。

2. 総合的運営方針

1) 個人と組織の活性化の仕組みづくり

コロナ禍、経験のない弾力的対応や臨時的な業務や不確実性の高い業務が増加したことにともない、今までの業務分掌では太刀打ちできず、そのなかに潜むリスクの識別、評価と適切な対策の明確化する必要があった。

(1) 総合的な人材育成のための充実した「調整会」

① 係内業務理解のための調整会と係別研修の充実

係における調整会においては、効率化と平準化のための育成指導・OJTの充実・内部研修機能の充実を図り、補完的に安全な研修受講に配慮し、イーラーニングやオンラインセミナーの活用促進を図った。係別の研修計画は、行動計画との整合性・連動性を持たせ、実施時期・内容等の具体化した。

② 業務分掌や職務権限を定める際のリスクの識別、評価と適切な対策の明確化

業務ごとの進捗・スケジュール・品質等のプロセス管理を組織的に行い、複数職員チェック体制のもと業務の細やかに実践するとともに、過去のヒヤリハット等の振り返りとリスク管理を講じた。

2) 生産性の向上に向けた人材育成

当会における情報化の進展と相まって、コロナ禍により「非対人的な仕事」「創意工夫の余地が大きい仕事」「より専門性の高い仕事」が増えた。解決する手段と

して、サイボウズOffice等の活用促進をもって「施設間コミュニケーションの円滑化や情報の共有化」を図った。

(1) 職員の役割分担および責任・権限の明確化の推進

①各系の等級別業務内容の明確化

分掌表の作成およびこれに則った業務プロセスの適正化

②係間・担当者間連携のためのマニュアル化・文書化による「見える化」促進

調整会を主軸に業務が切れ間なく継続・更新できるよう積極的な俗人化を排除、係に立脚しながらノウハウの効率的な伝承促進(マニュアル化・文書化含む)に努めた。

(2) 職員のワーク・エンゲージメントの向上

①eラーニング研修(11月～3月)の実施

職員同士の接触機会の減少を鑑みて対人関係能力(コミュニケーション能力やコーチングなど)等の向上を図るため、イーラーニングによる研修を行った。

②A Iとの協働に向けた取組

勤怠システムの通信処理の自動化とOCR(iPad)によるデータ入力等の効率化を図った。

(3) 人材定着の推進

①事務担当職員1名退職があったが、役割の明確化と業務プロセスの共有化により、切れ間なく業務継続ができた。

②人事評価制度における評価内容の適切なフィードバックの実施

(4) 職場環境改善の実施

①ワーク・ライフ・バランスの実現

いわゆる「定型的な仕事」について、一部自動化・情報の一元化したうえで、業務進捗管理上の最適な業務完遂時間の目安と目標を示した。

②ダイバーシティとインクルージョン

当会の情報化の進展とコロナ禍の特殊的な対応を求められるなか、人材の活躍推進のため「業務の性質」に適した業務分担の設計と分掌整理を行った。

③安全衛生の向上

ア) 感染予防対策指針とルールの設定

「事務所における新型コロナウイルス感染予防対策指針」を明文化、これにもとづく「陽性者等の発生時の衛生上の職場の対応ルール」を定めた。

イ) 柔軟な働き方

職員を守る労務管理についての検討を重ね、爆発的な感染拡大防止のための「柔軟な働き方の採用」と「事業継続のあり方」について模索するなか、「時差出勤」および「事務局在宅勤務手続要領」を取りまとめたうえで「在宅勤務・テレワーク」を行った。

3. 総合・人事総務等管理

1) 職員等の状況

(1) 職員の在籍状況：令和3年3月31日

正職員	226名
嘱託職員(契約職員含む)	15名
非常勤職員(非常勤医師除く)	123名

(2) 職員の採用実績

オンライン等個別に就職の説明を行うなど工夫しながら広報に努め、就職面接会は年度内に32回実施した。中途正職員採用者は7名(非常勤より正職員になった者2名を含める)であった。

正職員

(単位：人)

採用実績(正職員)	介護職員	介護補助等職員	看護職員	訓練指導員	相談員	事務職員	計
対象年度中途採用	4		0	1	0	2	7
令和3年4月1日採用	4		0	1	1	1	7
計	8	0	0	2	1	3	14

非常勤職員

(単位：人)

採用実績(非常勤職員)	介護職員	介護補助等職員	看護職員	訓練指導員	相談員	事務職員	計
対象年度中途採用	5	4	1	0	0	0	10

(3) 職員の退職

年度内の正職員離職率 4.4%

(単位：人)

雇用形態	介護職員	介護補助等職員	看護職員	訓練指導員	相談員	事務職員	計
正職員	6	—	0	1	1	2	10
嘱託職員	1	—	0	0	0	0	1
非常勤職員	3	5	2	0	1	0	11
計	10	5	2	1	2	2	22

(4) 職員永年勤続表彰

令和2年4月、同一労働同一賃金改正対応ならびに離職防止策等を加えた「永年勤続表彰(内規)」改正を行った。非常勤職員、正職員関わらず、すべての職員を表彰対象とし、新たに「勤続年数5年および30年」以上の職員を表彰対象に含めた。

合計：43名 支給総額：926,000円

(5) 育児・介護休業取得の状況

年度内育児・介護休業からの職場復帰者は5名、6か月以上育児等休業をしていた職員は5名であった。

育児休業取得者数 女性：1名 男性：1名 介護休業取得者数1名

(6) 高年齢等の雇用状況

定年到達者の総数は3名（2名）であり、全員継続雇用に至った。なお、年齢区分ごとの状況は以下のとおりであった。

	総数	～44歳	45～49歳	50～54歳	55～59歳	60～64歳	65～69歳	70歳～
常用労働者数	319人	145人	57人	40人	26人	18人	15人	18人
（うち女性）	(200人)	(89人)	(29人)	(23人)	(19人)	(13人)	(13人)	(14人)

高年齢者雇用状況報告書（抜粋）令和2年6月1日時点の状況

(7) 障害者の雇用状況

令和2年度中の障害者実雇用率は1.81%と増加したが、法定雇用率には及ばなかった。また、特例給付金にかかる特定短時間労働者（週労働時間10時間以上20時間未満の雇用障害者の数）は、同年度内合計で57人であった。

2) 公正・納得性の高い人事管理・賃金制度の運用促進

(1) 人事審査委員会への参加

法改正対応、人事評価制度の適正な運用・人事評価最終評語確定審査委員会の運営および考課者訓練研修内容の改善、フィードバック面接のあり方、その他人事管理上の重要事項について審査・協議を行った。

(2) 令和2年度 新任考課者訓練実施

適正な新任考課者を対象とした訓練（研修）の機会を設け、フィードバック面接実施に際する面接技法等の確認を行う目的で実施した。

令和2年5月14日（木）16時30分～19時 荏原ホーム

(3) 昇格候補者推薦・審査等に係る様式調製および適正化の取り組み

昇格降格ガイドラインに即した推薦・審査等の手続に向けて、その審査にかかる様式等を明らかにした。

(4) 人事評価と評価反映（成長と配分の好循環の実現）

①最終評語確定審査会の開催

職員を対象に年2回人事考課を実施した。

令和2年4月8日（水） 令和元年度 下期および年間最終評語確定審査会

令和2年10月22日（木） 令和2年度 上期最終評語確定

②定期更改

給与規程に則り、令和2年度給与更改を行った。

年間考課対象者 227名、定期更改対象職員 221名 平均定期更改額 6,453円

③賞与

ア) 賞与の支給（支給日：令和2年6月25日／令和2年12月10日）

賞与については、以下の表のとおりであった。

	夏期賞与	冬期賞与
支給対象者数	244人	243人
評価反映原資の割合	10%	
平均支給月数	1.94ヶ月	1.9ヶ月

イ) 非常勤職員慰労金（賞与）の支給

異なる就業形態間の待遇差および均衡待遇をさらに検討し、非常勤職員就業規則第37条に則り、非常勤職員に対して、初めて慰労金（賞与）を支給した。

	夏期賞与	冬期賞与
支給対象者数	122人	119人

3) 健康経営の推進体制の整備

(1) 職員の健康課題の把握と必要な対策の検討

産業医による面接指導、健康管理、労働災害防止等、労働安全衛生法に基づいた職場の安全衛生の維持・向上に努め、安全衛生委員会ならびに一般健康診断を弾力的に実施した。また、コロナ禍における「メンタルヘルスケアの推進」にあたっては、「事業場における心の健康づくり計画およびストレスチェック実施計画」を周知し、活用した。

(2) 実践に向けた基礎的な土台づくりとワーク・エンゲージメント

有給休暇の取得、長時間労働について安全衛生委員会等で状況を報告し、対策を考えて実施している。長時間労働者には、必要な場合は産業医との面談を促進した。

4) 安定した労使関係の維持と働く環境整備の推進

(1) 公平性・透明性・納得性の高い人事制度の確立と説明責任

同一労働同一賃金の実現等の取り組みが推進され、特に手当面の支給要件や休暇制度等の均等待遇が見直されたなか、積極的な運用促進のための「説明書」を作成した。

(2) 女性をはじめとする多様な職員が活躍できる就業環境の整備

女性をはじめとする多様な職員が活躍できる就業環境の整備は不可欠である。女性をはじめとする多様な職員が活躍できる就業環境を整備するため、実態分析を行い法人ホームページにて情報公表（令和2年6月）した。

(3) ハラスメント対策および環境整備

女性活躍推進法の一部改正施行に伴い、労働施策総合推進法の規定に基づき、就業規則その他の職場における服務規律等を定めた規程「職場におけるハラスメントの防止に関する規程」における必要な改正等を行った。また、当該規程に基づくマニュアル整備ならびに社内報等を作成し、周知に努めた。

(4) 育児・介護と仕事の両立支援策のさらなる充実

「育児休業、介護休業等育児又は家族介護を行う労働者の福祉に関する法律施行規則」等の改正に伴い、介護休暇ならびに子の看護休暇について、柔軟に取得することができるようするため、育児・介護休業等を定めた規程における必要な改正等を行い、労務管理上の相談を受けた。

(5) 時間外労働および休日労働の実態分析

新型コロナウイルス感染拡大の収束が見通せないなか、時間外・休日出勤等の増大を見越し、来年度、令和3年度36協定届に「特別条項」を付設する必要性の検証を行った。（対象期間：令和2年4月1日～令和3年3月31日）

月平均所定外労働時間 ※1)	1.53時間
法定年次有給休暇の平均取得日数 ※2)	11.66日

※1) 正職員より申請がなされた所定外総労働時間÷在籍人数(途中退職者含む)

※2) 年次有給休暇総取得日数÷在籍人数(4月基準日の職員であって育児休業等により付与されない職員を除く)

(6) 新型コロナウイルス感染症拡大防止にともなう「備え」と「生活の安定」に資する弾力的事務等

① 小学校休業等対応助成金ならびに両立支援等助成金計算および支給申請事務

子どもの世話を保護者として行うことが必要となった職員に対し、特別有給の休暇を取得させた場合における勤怠管理上の取り扱いを検討し、当該助成金申請事務を行った。

算定対象期間 令和2年4月1日～令和3年3月31日

助成金受給額 雇用保険被保険者分 633,395円

雇用保険被保険者以外分 199,918円

② 品川区介護・障害福祉サービス業務継続支援金交付事業に係る法人申請事務

支援金交付申請額 11,211,000円(手数料除く)(支給月：令和2年7月)

③ 介護サービス事業所・施設等に勤務する職員に対する慰労金支給事務

令和2年度東京都新型コロナウイルス感染症緊急包括支援事業(介護分)に係る事業のうち補助対象事業である「介護サービス事業所・施設等に勤務する職員に対する慰労金の支給事業」の支援対象者470名に慰労金を支給した。

慰労金支給総額 23,500,000円(手数料除く)(支給月：令和2年11月)

④ 「新型コロナウイルス感染症手当」算定および支給事務

介護サービス事業所等に対するサービス継続支援事業に基づき、令和3年に法

人において発生した新型コロナウイルス感染症への対応事案において、特例的な措置として「新型コロナウイルス感染症手当」を支給した。

支給対象者計 88名（荏原・平塚橋）

総支給額 4,215,550円（支給日：令和3年3月25日）

（7）就業規則等の諸規程・要綱の改正および整備（働くルールの整備）

①就業規則等の整備

- ・「職場におけるハラスメントの防止に関する規程」(施行日:令和2年6月6日)
- ・「就業規則」「非常勤職員就業規則」「嘱託職員就業規則」(施行日:令和2年6月6日)
- ・「育児休業等および介護休業等に関する規程」(施行日:令和3年1月1日)

②労使協定等の整備状況

- ・「育児・介護に係る労使協定」(一部改正:令和3年1月1日)

③人事関連要綱等の整備

- ・新型コロナウイルス感染症に係る「特別休暇」の適用について（令和2年5月26日策定／同年8月26日一部改訂）
- ・新型コロナウイルス感染症対策 特例措置 品川区介護サービス業務継続支援交付金に基づく見舞金支給要綱（令和2年6月23日より、令和2年度中に限り適用）
- ・介護サービス事業所等に対するサービス継続支援事業に基づく新型コロナウイルス感染症手当支給要綱（特例措置）令和3年1月9日より、令和2年度中に限り適用
- ・永年勤続表彰（内規）[第70回人事審査委員会(令和2年9月15日)]

5）採用促進および採用に係わる管理

（1）的確な採用計画の樹立

①公正な就職面接（採用選考）会の運営

中途採用職員の人材確保に資するため、定例の採用面接会を含め随時面接会を開催した。

ア) 新規学卒者等の面接会エントリー状況

(単位：人)

面接回数	被面接者数	新卒	既卒	非常勤
32回	33人	4	14	15

イ) 職種別面接会エントリー状況

(単位：人)

介護職員			看護職員		訓練指導員		
正規		非常勤	正規	非常勤	正規	非常勤	
新卒	既卒		既卒		既卒		
2	7	5	0	4	2	0	
介護支援専門員		事務職員		その他の職員		宿直	
正規	非常勤	正規		非常勤	正規	非常勤	
既卒		新卒	既卒		既卒		
2	1	2	3	0	0	4	1

ウ) 性別および高年齢者の面接会エントリー状況

(単位：人)

性別		高年齢※	
女性	男性	女性	男性
23	10	6	1

※高年齢雇用安定法の高年齢者の年齢（55歳以上）

②年齢・性別等を理由とした差別の完全排除

近年の女性、高年齢者等の就労の拡大に伴い、引き続き計画的な環境整備を図っていく必要がある。被面接者は、約70%が女性であり（内訳 女性：23名／男性10名）、女性のうち約20%が高年齢者であった。

③積極的な求人広報活動の推進

緊急事態宣言下においては、学校訪問等に出向いた形での広報ができなくなった。その渦中、採用面接および施設見学会のあり方を検討し、施設見学の一部については、オンライン化を導入した。しかし、実態上は施設の雰囲気等を「自分の目で確認したい」との要望が多かった。

(2) 多様な人材の参入・活躍促進

①女性の活躍推進や高齢者の雇用促進

女性活躍推進法にかかる一般事業主行動計画を次世代育成支援対策推進法の行動計画と一体のものとして、5か年の計画書：WE Action Plan（愛称：ウィプラ）を作成した。

②障害のある人のニーズに応じた就業支援と定着

令和2年6月1日時点の障害者実雇用率は、1.34%であった。障害の有無にかかわらず誰もが活躍できる社会の実現のため、就労移行支援等の障害福祉サービスとの連携を強化し、就業促進とその定着に努めた。

③高齢者の活躍促進

老齢厚生年金の報酬比例部分の支給開始年齢が段階的に引き上げられることを勘案し、さらに令和7年度より「高年齢者雇用継続給付」の縮減が予定されていることに照らして、定年引上げ・継続雇用制度の充実を図る必要がある。来年度に向けて、65歳までの確実な雇用確保を目指し、高年齢者就業確保措置の充実を図る予定である。

(3) 採用時の労働条件、就業規則、福利厚生等に関する説明の徹底

非常勤職員等を雇い入れや契約の更新、職員から求めがあったときは、その待遇を決定するにあたって考慮した事項の説明など個別に説明を行った。

(4) 新人研修等の開催と実施要領の検討

積極的に中途正職採用を実施し、人材確保に努めた。近年、採用職員の経歴等も多様化している。それに伴い、新人研修のあり方も変わってきている。さらには、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため所要な措置を講じなければならず、少ない

回数や時間であっても、効果的な研修のメニューの構築を目指した。

事前オリエンテーション 開催日程：令和3年3月22日（月）

体験勤務 開催日：令和3年3月22日（月）～25日（木）

内部研修 開催日：令和3年3月26日（金）

（５）職場情報・事業情報の見える化と広報促進

①人事管理等制度および各事業情報に関する定量的・定性的調査分析

オンライン化に準じて、施設PR動画の制作や就業状況等のインフォグラフィックなど分かりやすい表現方法を選択し、小さな画面のスマホ等の最適化・修正を加えた。

②求人広報の計画的・効果的实施（採用チャネル等の調査および活用推進を含む）

近年ますます介護福祉士等の養成校の学生数減が顕著になっており、中途および非常勤採用促進を図るため「介護」に特化した「中途」採用媒体に移行した。

（６）職員による人材確保推進の勸奨・奨励制度の充実

令和元年7月より「奨励金支給額」を増額し、所要な会議等にて周知に努めた。その結果、年度内の支給対象者は3名であった。

4. 労務管理

1) 勤怠システムの効率的運用と電子化促進

（１）勤怠管理・給与支給にかかる業務プロセスの標準化

施設間の事務取扱の調整および統一化、進捗・スケジュール管理等の業務プロセスの標準化（省力化）を図った。また、「新型コロナウイルス感染症にかかわる労務管理」のマニュアルを配布し、その適正化と合理化に努めた。

（２）労働関係帳票の管理・保管方法の最適化

欠勤控除・勤務実態確認・手当支給算定シートなど法人内部処理にかかる管理表（計算書も含む）を統廃合し、労働関係保管対象帳票の特定および労働関係保管方法の検討を適正に行った。

2) 安定的な法令改正の対応および合理的な給与支払の監理

（１）「均等均衡待遇」等による各システム（付属計算書も含む）改修

令和2年度改正された「年末年始勤務手当」および「慰労金の個々の配分方式」等の計算付属明細書の統一化を図るなど適時修正を行い、合理的な説明と支給に努めた。

(2) 「子の看護休暇・介護休暇の時間単位取得」の改正に伴う事務

勤怠管理業務のマニュアル作成と申請様式を調製した。

(3) 変更にもなうシステム操作ならびに法制理解

令和2年税制改正を含めた外部研修に参加し、係間連携をもって適正化に努めた。

3) 税・社会保険手続および届出の効率化

(1) 施設間の調整および勤怠・給与支給を適正に行うためのルールの設定

次年度外部連携API対応システム等の導入を鑑みて「電子申請」に耐えうるよう、人事データについて登録形式や状態を整えた。

職員コードの付番方式の調整・税関係登録情報・社会保険等に係る整理番号等。

(2) 各施設にて発生する事務取扱および文書(届出)保管ルールの作成

文書管理の主体を各係の事務分掌のもと定義づけ、保管・保存する文書の範囲ならびに保管・保存方法等を設定し、効率的かつ迅速な事務取扱・個人情報の安全な取り扱いに資するため、文書管理ルールを作成した。

5. 会計・財務管理

改正社会福祉法が施行され4年、社会福祉法人が求められている財務会計は、透明性・健全性を担保するため内部統制と権限・責務が明確である仕組みが求められている。

新型コロナウイルス感染症に対応する助成事業の会計処理に多忙を極め、調整会を適時開催し、体制維持に邁進した。

また、コロナ禍で、業務の制約も余儀なくされ、感染症拡大対策にインターネットバンキング運用をフル活用するため運用指針を定め、経理規程の整備を図り、その実効性を強化した。

1) 法人単位会計業務・出納業務および財務管理の推進

(1) 業務プロセスの標準化と相互チェック機能の充実

会計処理に伴う情報(事務取扱・マニュアル・進行等を含む)および福社会計等の指導等を踏まえ、管理表・計算書等の一元化を推進し、内部統制機能を有効に働かせるために調整会にて協議を重ねて意思決定するものとした。さらに、一元作業により、拠点間での会計処理の誤差調整および月次試算表等の提出期日の明確化を図った。

(2) 会計処理の根拠資料の適正保管・整理

法令および法人規則に則した支払行為に基づき、会計処理の妥当性が事後的に検証可能となるよう保管ルールおよび体制等の構築を進めた。また、データファイル

の格納先を定義づけ、情報共有と破損等のセキュリティに努めた。

(3) 固定資産台帳等の適正化

実棚および資産付番は、係を超え協働して取り組んだ。なお、コロナ助成金で取得した資産が混在し、その台帳管理および事業の共に要する期間設定については、調整会で共有・相互的チェックを行い、適正な会計処理を行うものとした。

(4) 運営会議への参加

執行機関としての理事会、議決機関としての評議員会を機能させ、主体的な法人経営を行うため、毎月2回、定例的に、理事長、総施設長、施設長、事務局職員等で構成する運営会議に参加し、経営方針・財務状況等の重要案件を協議するとともに、各施設の利用状況を検証し、必要に応じて対応策について検討した。

2) 内部管理体制の不整備

改正社会福祉法により会計監査人の導入が義務づけられ、一部改正により令和4年度までに導入する必要性がある。当該年度のコロナ禍の助成金事業の実践により売上高が30億円を超えた場合は、令和4年度を迎える前に特定社会福祉法人に転化する必要性が生じる場合があったが、令和2年度においては体制基盤が整わず、次年度以降の課題となった。

6. 運営管理

1) 法人運営管理

(1) 信頼と協力を得るための情報発信とホームページセキュリティ管理

法人の取り組み報告や、施設での生活や職員の活躍のようすなど、多くの法人情報を積極的に法人ホームページにて公開し、その更新性を向上させた。さらには、セキュリティ強化策として、セキュリティレベルのバージョンアップし、SEO対策の充実を図った。

(2) 法人のPCクライアントにおけるセキュリティ体制の更新

昨年度には情報セキュリティの安定稼働体制を構築してきたところであるが、運用サービスの終了に伴い後継サービスの乗り換えを行った。(令和2年11月)

(3) 感染症対策に要する物品選定（ICT機器等）ならびに発注・購入事務

令和2年度「東京都新型コロナウイルス感染症緊急包括支援事業」等における感染症対策に要する物品選定（ICT機器等）ならびに発注・購入事務を随時行った。

(4) 感染予防対策にかかるリスクマネジメント体制の充実

①品川区内社会福祉法人災害時等相互応援協定の締結

大規模災害、感染症の流行等により、単独での運営が困難でない法人が友愛的精神に基づき、相互に救援協力し、当該法人の応急対策および復旧対策等が円滑に遂行できるよう応援するために、品川区内社会福祉法人と本協定を締結した。

②感染症の拡大を防止するための実施状況の確認

職場における感染症の拡大を防止するための基本的な対策の実施状況について確認する目的として「感染症の拡大を防止するためのチェックリスト」を配布した。

2) 施設運営管理

(1) 固定資産の一貫した管理基準の設定

施設の管理と共に、介護機器などの各種固定資産について「固定資産管理台帳」上の耐用年数と現在の状況の相違がないように管理番号ラベル化し、正確な把握に努めた。

(2) 施設内ネットワークの維持管理及び保守委託業者との連携・協働

コロナ禍におけるオンライン化に即して、パソコン等機器の管理、ネットワーク状況把握を行い、施設内外を問わない運用体制の構築および維持を図った。

また、施設内ネットワークおよびアプリケーション、ハード・ソフトウェアの安定運用を維持するため、保守実施状況の管理、施設別に対象設備の一覧管理の推進を図った。作成した管理表は、「管理対象サーバー一覧」「管理対象端末一覧」「管理対象周辺機器一覧」「保守対象システム一覧」「ネットワーク機器一覧」である。

(3) 移転等に伴う設備およびネットワーク環境整備

- ・戸越台複合施設大規模改修工事に伴う法人ホームページの更新（令和2年9月）
- ・戸越台複合施設・小山在宅サービスセンターの無線LAN等の設定および移動等。

5 施設運営局

1. 介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム）

（成幸・戸越台・荏原・平塚橋）

平成30年10月から始まった戸越台ホームの大規模改修工事は、中学校部分と共有施設・設備を残し令和2年9月に完了した。特別養護老人ホームおよびデイサービスは通常のサービスを提供できるようになった。荏原ホームは大規模改修工事に向けて併設する保健センターと打ち合わせを重ねている。今後の工事に関しても、感染予防を行いながら、安全に実施していく。

今年度は世界規模での新型コロナウイルスの猛威にさらされ、今までにない事業運営を行わざるを得なくなった。利用者にとっては、イベントやレクリエーションの中止、オンラインによる面会などにより、生活の中での楽しみが減少した。職員にとっては、今まで以上の感染対策、オンラインでの研修などで、例年以上に負担のかかる1年であった。今後も続くと思われる感染対策に重点を置かざるを得ない、新たな事業運営が課題である。

（1）感染症対策

令和2年から始まった新型コロナウイルスにより、利用者、家族、職員にとっては通常より負担がかかる1年となった。発熱時の対応には細心の注意を払って対応した。職員は、都や区の助成によりPCR検査を実施し、安心して事業を運営できた。衛生用品が品薄になり、入手することが困難な時期もあったが、東京都や品川区、企業からなどさまざまな助成をいただくことで乗り切ることができた。

（2）安定した稼働率の維持とサービスの向上

稼働率向上検討会議を開催しているが、新型コロナウイルスによる緊急事態宣言など、これまでに経験したことがない感染症により、入所の手続きに手間取る日々が続いた。また、施設内でのコロナウイルス発生により、入所を制限しなければならない期間もあった。年度末からは、新入所者にPCR検査を実施することにより、感染対策を強化した入所システムが構築され、利用者、職員ともに安心して対応できるようになった。

（3）職員の資質向上と人材育成

今年度も法人勉強会を行い、職員が学び、切磋琢磨する機会となった。各施設で必要な勉強会を随時開催することで、職員のスキルアップ、モチベーションの向上につなげた。また、人権、権利擁護、感染症などの必須の勉強会は年間計画に定めて開催した。

例年実施してきた集合型の研修や勉強会は、新型コロナウイルスの影響により、オンラインでの研修や資料配布などで実施した。今後もこのような形で実施することが

予想されるので、令和3年度にはオンライン動画研修を取り入れ、職員のスキルアップに努めることになった。

(4) 看取り介護の充実

コロナ禍により面会がオンラインに切り替わったが、看取り介護の際には感染対策を充分に行ったうえで面会を行った。ご家族からも、このような時期なので会うことは叶わないと思っていたが、最後に会うことができ感謝しているというお言葉をいただいている。今後も、人生の最後を迎えるということに真摯に向き合って対応していきたい。

(5) 介護保険法改正への対応

令和3年度に大幅な報酬改定が予定されており、新しい加算の取得や、LIFE（科学的介護情報システム）への登録などの準備を進めた。各種加算を取得することによるサービスの質の向上に期待したい。

表① 利用者状況（令和3年3月31日現在）

区分	性別	定員 (人)	最高年齢 (歳)	平均年齢 (歳)	平均 要介護度	年度内 総入所者 (人)	平均 稼働率 (%)
成 幸	男性	15	93	83.7	3.6	6 (5)	96.6
	女性	65	103	90.0	3.8	12 (9)	
	計	80	—	88.7	3.7	18 (14)	
戸 越 台	男性	12	95	85.6	4.1	12 (4)	79.3
	女性	60	104	89.8	4.0	29 (20)	
	計	72	—	87.7	4.0	41 (24)	
荏 原	男性	15	94	87.7	3.8	11 (5)	87.5
	女性	105	104	90.4	3.7	61 (31)	
	計	120	—	90.2	3.8	72 (36)	
平 塚 橋	男性	30	98	89.4	3.4	22 (7)	93.3
	女性	70	103	90.6	3.5	25 (14)	
	計	100	—	89.8	3.4	47 (21)	

※（ ）内の数字は実入所者数。一時利用含む

※詳細は55～65頁を参照

1) 生活全般の支援サービス

(1) 介護サービス

①食事

コロナ禍においてさまざまなイベントが中止されるなかで、食事は利用者の大きな楽しみの一つである。美味しく、楽しく、安全な食事を提供することに努めるとともに、給食委託業者と連携し、食品衛生法に基づき衛生的で安全な食事提供に努めた。また、多職種連携により栄養ケアマネジメントを実施し、適切な食事サービスを目指した。

②入浴

利用者個々の状態に合わせて介助浴や機械浴などの方法を検討した。また、季節を感じる行事として菖蒲湯、柚子湯を実施した。

③排泄

利用者個々のリズムに合わせることができるよう支援すると同時に、身体状況に合ったオムツの使用、回数なども検討した。また、よりよい排泄介助のために、オムツ業者の選定も行っている。

④その他サービス

施設の状況に応じて、外部業者により理美容サービスを提供し、本人の要望に応じたヘアスタイルを提供した。また、爪切りや耳垢清掃、髭剃りなども定期的に行った。

(2) 健康管理

今年度は新型コロナウイルス感染症の全国的なまん延に伴い、例年以上に感染症対策に取り組んだ。だが、荏原ホームでは9月、1月に新型コロナウイルス感染症が発生した（9月職員4名、利用者2名 1月職員1名、利用者11名）。平塚橋ホームは1月に派遣職員1名の発症あり、入所者が濃厚接触者となり、感染拡大防止に努めた。また、感染症対策を行ったことにより、ノロウイルスやインフルエンザウイルス感染症の発症はなかった。

入所者の加齢、重度化により、嚥下機能、身体的機能の低下に伴い医療行為や処置件数が増加傾向にある。皮膚トラブルを起こしやすく、褥瘡のリスクも高くなっている。

(3) 機能訓練

利用者それぞれのADL(日常生活動作)の維持・安定を目的に、機能訓練を実施した。具体的には、ベッドでの起居動作・立ち座り動作・歩行動作訓練などを訓練指導員が実施したり「生活リハビリ」として実際の生活の中で、多職種連携で取り組んだ。

また、利用者ごとに福祉用具(杖・歩行器・車いすなど)の選定を行い、定期的に安全性や使いやすさの見直しを行った。その他、誤嚥性肺炎の予防を目的に嚥下

体操やマッサージを行い、より安全な食事姿勢の確保に努めた。

感染予防対策として、利用者同士の間隔を確保した訓練を実施し、使用する器具の徹底した消毒を行った。また、換気を十分にできる場所での訓練と、利用者に触れる前の手指消毒の徹底などに努め環境を整えた。

(4) レクリエーション

新型コロナウイルスにより、さまざまな行事やレクリエーションを中止せざるを得ない状況であった。集合型のレクリエーションが難しいため、園芸や外気浴など個別でできることを中心に実施した。

①行事

新型コロナウイルスの影響で一部を除き中止。

②ボランティアによるイベント

新型コロナウイルスの影響で中止。

③フロアレクリエーション活動

新型コロナウイルスの影響で集合型ではなく個別で実施。

④外出

新型コロナウイルスの影響で実施できず、ベランダなどで外気浴を実施。

2) その他のサービス

(1) 三徳懇談会

毎月、サービス向上を目的とし、利用者への情報提供と意見交換や要望などを聞く機会を設けた。

表②

区 分	参加延べ人数
成 幸	290人
戸 越 台	217人
荏 原	95人
平 塚 橋	72人

(2) クラブ活動への参加

感染対策を講じながら、利用者の希望する活動に参加していただき、単調になりがちな日常生活に活気のある生活を過ごしていただけるように努めた。

3) 相談・情報提供

(1) 相談サービス

①家族懇談会

例年は集合型の家族懇談会を実施していたが、新型コロナウイルスの影響で書面での開催に変更した。感染症対策、介護保険制度の情報提供などを行った。荏原ホームに関しては、3月に少人数での懇談会を数回に分けて実施した。

表③

区 分	実施月日	参加家族
成 幸	中止	書面送付
	中止	書面送付
戸 越 台	中止	書面送付
	中止	書面送付
荏 原	中止	書面送付
	3月28日	34
平 塚 橋	中止	書面送付
	中止	書面送付

②苦情相談窓口

苦情対応窓口や意見箱に寄せられた意見や提案などは迅速に対処して、定期的
に開催される苦情解決・サービス向上委員会に報告した。

(2) 生活だより

利用者の施設における生活状況を家族に伝えるものとして、各施設で広報紙を発行
した。特に新型コロナウイルスの影響で面会がオンラインに切り替わったこともあり、
例年より回数を増やして発行した。

4) その他

(1) 福祉サービス第三者評価

特養・ショートステイ全施設での第三者評価はなかったが、自己点検として各施
設で重点項目を掲げて点検した。改善が必要な個所については迅速に対応した。

(2) セルフチェックシート（自己評価）

品川区ではサービス向上の仕組みとして、施設サービス向上研究会で開発したセ
ルフチェックシートを用いて、施設サービスの評価を行った。評価結果をもとに改
善すべき課題を明確化して計画的に進めた。

5) 各施設の取り組み

成幸ホーム 事業報告

《重点目標》

1. 不適切ケアの防止とサービスマナーの向上
2. 基本をふまえた介護と習得した技術の実践
3. 住まいとしての環境づくり
4. 業務の効率化と省力化
5. 適正稼働率に向けた入所調整と加算の取得

ホームの日常生活は、感染対策を講じながら利用者が楽しく安心して、笑顔で過ごせる環境であるよう取り組んだ一年となった。

職員は感染症に対する知識や対応方法について理解を深め、例年以上に心身の負担が大きくなる状況において見守りセンサーカメラなど次世代機器を導入した。負担軽減や業務の効率化を図り、それにより映画鑑賞や手芸、家庭菜園などレクリエーションを実施した。楽しみにされる利用者の声が多く寄せられ、今後も笑顔で過ごしていただけるよう取り組んでいきたい。

1. 不適切ケアの防止とサービスマナーの向上

サービスマナー向上委員会にてマナー目標を設定し、朝礼の参加職員で読み上げを行うことで意識づけすることができた。

高齢者虐待防止や身体拘束適正化の研修は、コロナ禍により集団での勉強会を控え、パソコン内に資料を掲載した。今後も状況に応じてパソコンを使用するの周知方法を継続していく。

2. 基本をふまえた介護と習得した技術の実践

床走行用リフトやスライディングボードなどを活用し、腰痛を訴える職員は減少した。新しい介護補助機器の導入にあたり、使用方法詳細に伝えることで技術を習得。正しい使用方法が継続できるよう定期的な確認体制を構築していく。

3. 住まいとしての環境づくり

ホームの中で楽しく落ち着いて過ごせるようフロアのレイアウトを変更した。テーブルの更新や座席位置が変わることで新鮮な雰囲気となり利用者からも好評であった。環境の変化による不安感が生じないように考慮しながら利用者の生活の場がよりよい環境になるよう工夫していきたい。

4. 業務の効率化と省力化

職員や介護補助職員等の業務内容を見直し、課題解決に取り組む。

I C T活用促進事業として見守りセンサーを13台増設し業務効率化を図った。効率化、省力化を目指し今後も機器導入を検討していく。

5. 適正稼働率に向けた入所調整と加算の取得

年間平均稼働率は96.6%であった。複数名が入所調整を分担し、迅速な入所につげた。令和3年度は新たな加算項目の要件を確認し適切な算定していく。

戸越台ホーム 事業報告

《重点目標》

1. 利用者の個性や生活歴を尊重、その方らしい生活を支援
2. 事故予防や感染症対策に努める
3. 地域社会・家族との交流を図る
4. 人材育成を行い、根拠に基づいた介護を提供
5. 工事完了後のサービス・業務の再構築

コロナ禍でご家族との面会や外出がままならないなか、ストレスを溜めずに利用者が笑顔で過ごせるようにイベント内容の工夫や、屋上緑化園での外気浴を行った。

中学生や地域との交流、ボランティアの活用など戸越台ホームの特徴を生かした運営はむずかしかったが、ミニ勉強会の機会を多く設けて、利用者視点のケアのあり方を考え、個々に合わせたケアの提供に努めた。

1. 利用者の個性や生活歴を尊重、その方らしい生活を支援

施設ケア研修で「個人の有する能力を可能な限り発揮し、自分の身の周りのことを自分で行う姿」を目標とし、取り組みを行った。利用者の自発的な行動を引き出すことが意欲や自信につながり、その方らしい生活に近づいた。

2. 事故予防や感染症対策に努める

介護機器の活用で、利用者の行動予測を立て、優先順位を考えながら対応できるように努め、事故予防につながった。感染症対策は、利用者の体調管理を徹底し、体調不良時の対応はコロナ対策の情報更新に伴い随時検討を行い、多職種共通の認識で予防策を徹底、新型コロナウイルスなどの感染症を予防することができた。

3. 地域社会・家族との交流を図る

コロナ禍で地域イベントも中止となり、中学生との交流も制限された。施設内イベントは密に注意し代案を考えて新たな発想で行い、その姿をご家族に写真や動画、手紙や広報誌で伝え、直接面会が叶わないなかでリモート面会を取り入れた。

4. 人材育成を行い、根拠に基づいた介護を提供

ミニ勉強会を定期的に行い、意見交換することでケアに対する考え方の幅が広がり、全体のケアの質の向上につながった。勉強会をリモート開催にすることで参加者が増加した。

5. 工事完了後のサービス・業務の再構築

9月に改修工事が終了し、7階フロアが再稼働となった。業務マニュアルの見直しや新入所者の情報共有を行い、利用者が混乱せず安心して過ごせるように、コミュニティを大切にしながら業務の再構築に取り組んだ。

年間平均稼働率 79.3%

荏原ホーム 事業報告

《重点目標》

1. 利用者満足度の向上
2. 人材定着と人材育成
3. 業務効率化の促進
4. 地域との連携強化
5. 安定した事業運営

荏原ホームでは2度にわたり新型コロナウイルス感染症が発生し、保健所の指導のもと、フロア内のゾーニングや消毒の徹底など、感染拡大防止に努めた。また、感染対応のなかでも利用者の笑顔を絶やさないう利用者本位のケアを心がけ、新しい生活様式を取り入れながら業務にあたった。

1. 利用者満足度の向上

感染症対応中でも、利用者の過ごすスペースなどを工夫しながらケアを行なった。環境整備のための備品等を購入し、利用者が快適に過ごせるように配慮した。

また、家族に対しては利用者の状況を写真等で定期的に報告し、また、オンライン面会を導入した。

2. 人材定着と人材育成

感染症対応で厳しい勤務体制となったが、他セクションとの協力体制で、事業継続に努めた。また、職員間のコミュニケーション、情報共有方法を工夫し、職員個々の状態把握に努めた。

3. 業務効率化の促進

業務マニュアルの一部変更を行ない、課題解決に取り組んだ。また、見守りセンサー等の活用により業務の効率化を図った。

4. 地域との連携強化

今年度は感染症の影響もあり、地域との交流、防災等での地域との連携を十分に図ることができなかった。来年度に向けて新たな地域との連携方法を模索していく。

5. 安定した事業運営

感染症の影響で入所調整が行なえない時期があり、さらに看取りによるご逝去、入院が続いたため、稼働の安定には至らなかった。今後は利用者の健康状態の把握を重視し、できる限り利用者が健康に過ごせるように専門職が連携し、ケアの質をさらに高めていく。

6. その他

令和2年度の特記として、新型コロナウイルス感染症の発症があげられる。3月に実施した家族懇談会において経過報告を行なった。今回の経験を整理し、今後の運営に役立てていきたい。年間平均稼働率87.5%

平塚橋ホーム 事業報告

《重点目標》

1. 利用者主体の生活を着実に実現していく
2. 介護機器を活用し利用者の身体的サポート、職員の負担軽減を図る
3. 職員の定着とスキルアップを図っていく
4. 適正な事業運営を行う

令和2年度は新型コロナウイルスの影響で、イベントや散歩、理美容などの通常、提供していたことができず、思うような事業展開が難しい年になった。施設内でできる園芸活動や映画鑑賞などで、ご利用者に生活の中での楽しみを提供する形となった。家族の面会を直接面会からオンラインに切り替えたため、少しでも施設の様子をお知らせするためにホームページの更新を適宜実施した。感染予防に力を入れ、館内消毒、オンライン面会など例年以上に業務負担がかかった一年であった。

1. 利用者主体の生活を着実に実現していく

職員1名が新型コロナウイルスに感染したが、迅速な初動対応により拡大せずに収束することができた。ケアプランでは、プランが身体面に偏りがちなところを、生活面の課題を積極的に挙げるように検討し、修正した。

面会はコロナ禍によりオンラインに切り替えて実施したが、看取り対応の際に家族の面会を感染対策を施して直接面会できるように配慮し、家族の精神面に対応した。

2. 介護機器を活用し利用者の身体的サポート、職員の負担軽減を図る

見守りセンサーの台数を追加し、設置した。センサーの反応、確認により必要時に訪室できるようになり、シルエット認識による利用者のプライバシー保護と同時に、利用者の行動予測と対応により事故防止と職員の負担軽減につながった。

移乗用リフトを追加購入することで、利用者の移乗介助時、状況に合わせて必要な方に使用できるようになり、職員の活用促進も行われ腰痛防止にもつながった。

3. 職員の定着とスキルアップを図っていく

年度初めにユニットリーダーミーティングを開催し、事業計画および施設目標をふまえたうえでユニット目標を立案し、毎月評価を行った。集合型の勉強会開催が難しく、一部研修は資料の回覧での実施となった。

介護職の副主任以上の研修をリモートで複数回行い、リーダーシップ等について学んだ。

4. 適正な事業運営を行う

コロナ禍のため、プラスチックグローブなどの衛生用品の確保、価格高騰により支出が増えたが、販売ルートの開拓等を行い、また東京都助成金および品川区からの寄付物品を活用した。

稼働率に関しては、開設5年ということもあり、ご利用者のADL低下、ご逝去、また、緊急事態宣言なども重なり、年間平均93.3%と低迷した。

6) 各施設共通（栄養・医務訓練）

栄養室 事業報告

《重点目標》

1. 栄養ケアマネジメントを行い個別の栄養計画を策定する
2. 他セクションや委託業者と連携し安全な食事づくりに取り組む
3. 充実した食事への取り組み
4. 地域に向けた取り組み
5. 栄養室の業務や厨房の設備環境などを計画的に行い安定した運営

美味しく、楽しい食事を提供することに努めるとともに、給食委託業者と連携し、食品衛生法に基づき衛生的で安全な食事提供に努め、摂食・嚥下機能に合わせた食事形態で提供した。多職種連携により栄養ケアマネジメントを実施し、適切な食事サービスを目指した。また、令和2年度は各施設の状況に合わせ、新型コロナウイルス感染予防対策に配慮し食事を提供した。

1. 栄養ケアマネジメントを行い個別の栄養計画を策定する

食事形態や療養食など利用者の疾病、症状、嗜好に合わせた対応し、また、食事時間の変更や食器具など柔軟な対応を行なった。多職種連携のもと、個々の栄養状態安定を図り、低栄養や褥瘡、看取りの方へ個別対応をした。

2. 他セクションや委託業者と連携し安全な食事づくりに取り組む

給食委託業者と連携しHACCPに基づいた食事提供を行なった。併せて感染症対策の見直しと強化を図った。新・再入所時は、情報を共有し利用者に応じた食事提供を行なった。非常食の備蓄管理を行い、地域住民や職員への啓蒙に努めた。

3. 充実した食事への取り組み

旬の食材を使用し、季節感のある行事食を提供した。残菜調査を実施し、利用者のニーズに合わせた食事づくりへ反映させた。給食委員会を実施し、利用者の声を献立に取り入れた。

4. 地域に向けた取り組み

デイサービスおよび配食については栄養相談を行い、疾病や障害を考慮した食事を提供した。介護者教室の一環として継続していた「高齢者と介護者のための料理教室」は、感染拡大予防の見解から実施を見合わせた。在宅の利用者および家族へは、高齢者向けのレシピや情報提供として食へのアプローチを試みた。

5. 栄養室の業務や厨房の設備環境などを計画的に行い安定した運営

給食委託業者との契約内容に基づいた業務の見直しや、食事摂取基準改定に伴う献立の修正を行い、栄養ソフトについても検討した。そして、安全な厨房環境を整えるために、必要に応じて機器や備品交換を行なった。

成幸ホームでは、厨房の機能と衛生管理体制の維持のために、冷凍庫、冷凍冷蔵庫、プラスチックを更新した。戸越台ホームでは、大規模修繕工事や、特養利用者増員への対応、デイサービスが移転先から戻った後も安定した食事提供を行った。荏原ホームでは、介護食の調理を充実させるため高性能フードプロセッサを購入した。

医務訓練室（医務） 事業報告

《重点目標》

1. 利用者の重度化に伴い医療の充実を図る
2. 終末期においても安心した生活を送れるように支援する
3. 他職種間の連携・協働体制を進める
4. 職員の健康に留意し、相談や管理指導に努める

今年度は新型コロナウイルス感染症の蔓延に伴い、例年以上に感染症対策を強化した。だが、荏原ホームでは9月と1月に感染症が発症した（9月：職員4名、利用者2名。1月：職員1名、利用者11名）。平塚橋ホームは1月に職員1名の発症があり、利用者が濃厚接触者となったが、感染拡大はなく早期に収束した。

1. 利用者の重度化に伴い医療の充実を図る

利用者の健康診断は緊急事態宣言等で、時期を変更するも予定通り行った。感染症予防の徹底により、インフルエンザやノロウイルスの発症はなかった。緊急事態宣言中、医師の診察は、歯科往診や眼科往診の休止等調整しながら行った。服薬も管理ボックスを確認しやすいものを取り入れたり、チェック体制を強化するなど誤薬のないよう対応している。

2. 終末期においても安心した生活を送れるように支援する

コロナ禍においても、看取り介護は継続して行っている。医師や他セクションとの連携を図りながらホームで可能な処置を継続し、状況に合わせて在宅酸素を取り入れ苦痛の緩和に努めている。

緊急事態宣言のなか、遠方で来園できない家族への状態説明や看取りの同意など、電話やオンラインを駆使したケースもあった。

3. 他職種間の連携・協働体制を進める

利用者の体調変化に伴い、随時食事内容の検討や日常の対応について話し合い、介護用品や、必要時には医療的な助言や指導を行っている。感染症予防や対策、マニュアル作成については、中心になって行った。

4. 職員の健康に留意し、相談や管理指導に努める

利用者と同様に職員健診も日程を調整しながら行った。健診で異常があった職員については、再検査等を相談。産業医に報告し、指導、助言をいただいている。また、ストレスチェックで高ストレスになった職員へは状態の確認や産業医への面談を勧奨などの対応を速やかに行った。

《重点目標》

1. バランスの取れた「個別訓練」「集団訓練」の実施
2. 介護保険の基準に沿った訓練計画の立案と実施
3. 適切な福祉用具の導入による生活環境の改善
4. 嚥下障害への取り組み
5. 職員の腰痛予防への取り組み

利用者の加齢・疾病による心身の状況に応じて、よりよい心の健康を保ちながら日常生活を送れるよう、生活課題や身体機能を評価した。利用者を個別的に支援するために、他セクションの専門職との連携を図りながら取り組んでいる。

令和2年度は、新型コロナウイルス感染予防対策を強化し、サービスを継続した。

1. バランスの取れた「個別訓練」「集団訓練」の実施

新型コロナウイルス対策による行動制限等で、不活発な生活からくるADLの低下を招かないように計画し支援した。個別訓練（立ち上がり・立位・歩行訓練・関節可動域訓練・マッサージ等）と集団訓練（リハビリ体操・嚥下体操・レクリエーション等）を表情豊かな明るい生活が送れるよう実施した。

2. 介護保険の基準に沿った訓練計画の立案と実施

個別にモニタリングを実施し能力・生活内での運動量確保と利用者の意向をくみとり他職種で協議して訓練計画書を作成、利用者・家族に説明し希望を伺った上で同意をもらい訓練を実施した。

3. 適切な福祉用具の導入による生活環境の改善

利用者に合った車いすや歩行器を提供マニュアルに従って選定、新しい福祉用具の購入・メンテナンス・今後の購入計画検討を実施した。

4. 嚥下障害への取り組み

スムーズな嚥下を確保するために、食前に嚥下体操や嚥下マッサージを実施した。他職種と連携を取り誤嚥リスクの高い利用者の姿勢改善を実施した。

5. 職員の腰痛予防への取り組み

腰痛予防体操を行ない、職員に基本的な体力維持づくりの意識づけと共に、適切なサービスを行なえる体制づくりをした。また、リフトなどの介護補助機器の使用を推進し、介護の負担を軽減する取り組みを行った。

2. 通所介護事業（デイサービス）

（成幸・戸越台・荏原・小山）

新型コロナウイルスの影響により、利用者の長期の休み、新規利用者の受け入れ減少、ボランティア、クラブ講師の受け入れ制限、密になる行事の中止等、これまで普通に行っていたことができない一年であった。そのなかでも介護保険の基本理念である高齢者の「尊厳保持と自立支援」を具現化するサービスである通所介護として、利用者が可能な限りその居宅でいきいきと暮らし続けられるよう、心身機能の維持・向上、社会的孤立の解消、介護する家族の身体的・精神的負担の軽減などを図った。

心身機能の維持・向上に係るアウトカム評価の導入など制度変化をふまえ、Barthel Indexを用いたADL維持・向上に向けた取り組みを引き続き行い、その結果、戸越台・荏原に関しては加算要件を満たしたとして、令和3年度も引き続き加算算定ができる見通しとなった。

また、区が立案した軽度認知症高齢者支援プログラムの実施では、戸越台においては随時評価と見直しを行い、楽しみや目的をもって通所していただける環境を整えた。質の高いサービスを提供するためには、個々の職員の底上げと、円滑な多職種連携が必要であることから、事業所ごとの研修や、合同勉強会を実施する予定であったが新型コロナウイルスの影響で計画どおり実施ができなかった。しかし、感染症対策は施設間で情報提供をし、状況に応じて各施設の取り組みを取り入れることにより、新型コロナウイルス感染症の罹患者を出すことなく運営ができた。

また、戸越台在宅サービスセンターは施設の大規模改修工事に伴い約2年間の仮設施設での運営となったが、関係セクションと連携を取り、計画的な準備により無事に移転作業が完了し、広く、綺麗なところで快適に過ごせている。

表④ 基本デイサービス・認知症デイサービス総計（単位：人）

区分	R2年度	R元年度	H30年度
成幸	6,343	6,466	6,632
戸越台	6,044	6,457	7,320
荏原	11,434	12,438	12,044
小山	1,713	1,776	2,201

※戸越台は平成30年10月から大規模改修工事により認知症事業を休止していたが、令和2年9月14日から再開

※詳細は88～103頁を参照

1) 基本デイサービス（予防事業・介護給付）

個々の利用者に対して、本人、家族の希望を尊重し、その人の必要に応じた通所介護計画を作成し同意を得て交付、それをもとにクラブ活動、機能訓練、入浴、食事等を提供した。高齢者は、体調が変化しやすいので家族との連絡を密にとり、利用中の小さな変化も見落とさず、迅速に的確な対応が行えるように努めた。また、年間を通して感染症対策を行い事業運営を行った。

表⑤

区 分		R 2年度		R 元年度		H30年度				
		延べ利用者数	稼働率	延べ利用者数	稼働率	延べ利用者数	稼働率			
成 幸 定員20人	予防	1,591	4,370	70.9%	1,478	4,520	73.4%	1,478	4,840	78.5%
	介護給付	2,779			3,042			3,362		
戸越台 定員30人	予防	1,445	6,011	65.3%	1,748	6,457	69.9%	1,803	6,429	70.0%
	介護給付	4,566			4,709			4,626		
荏 原 定員40人	予防	2,945	9,565	77.6%	3,423	10,374	84.2%	3,009	9,984	81.5%
	介護給付	6,620			6,951			6,975		

※詳細は88～103頁を参照

2) 地域密着型認知症対応型デイサービス

成幸・戸越台・荏原・小山

利用者一人ひとりが自分らしく生きがいのある生活を送れることを目標に、家族、ケアマネジャーと連携をとり、また、担当者会議により情報交換とケアプランの検討・再検討を行い、サービスを提供した。年間を通して感染症対策を行い事業運営を行った。

表⑥

区 分	R 2年度		R 元年度		H30年度	
	利用者数	稼働率	利用者数	稼働率	利用者数	稼働率
成 幸 定員10人	延 1,973	64.1%	延 1,946	63.1%	延 1,792	58.1%
戸越台 定員10人	延 33	1.4%	—	—	延 891	56.0%
荏 原 定員10人	延 1,869	60.7%	延 2,063	67.1%	延 2,060	67.3%
小 山 定員10人	延 1,713	55.6%	延 1,776	57.9%	延 2,201	71.5%

※戸越台は平成30年10月から大規模改修工事により認知症事業を休止していたが、令和2年9月14日から再開

※詳細は88～103頁を参照

3) 介護予防事業（身近でトレーニング）

戸越台・荏原

在宅生活の継続を支援するサービスとして、自宅でも「体力づくり」「運動習慣づくり」に取り組めるよう、椅子など身近な道具を使った運動方法を指導した。

表⑦

区 分		R 2 年度	R 元年度	H30年度
戸越台	実人数	60	—	157
	延人数	223	—	524
荏 原	実人数	169	243	229
	延人数	353	699	658

※戸越台は平成30年8月から大規模改修工事により休止、令和2年10月から再開

※荏原（上期）は新型コロナウイルスの影響で7月から開始

※戸越台・荏原 新型コロナウイルスの影響で定員、受け入れ方法の見直しを行った。

※詳細は94～95、98～99頁を参照

4) その他

(1) 入浴サービス

自宅での入浴が困難な方に、健康面と衛生面の保持を行うために利用者のADLに合わせて介助浴、機械浴の2タイプの入浴方法で対応した。また、家庭で入浴しているような雰囲気を作り、気分転換や情報交換の場としての活用も図った。

表⑧

(単位：人)

区 分	R 2 年度	R 元年度	H30年度
成 幸	延 3,820	延 3,938	延 4,028
戸越台	延 3,854	延 3,849	延 4,083
荏 原	延 5,661	延 6,196	延 5,791
小 山	延 744	延 598	延 889

※戸越台は認知症事業を休止していたが、令和2年9月14日から再開

※詳細は90～91、94～95、98～99、102～103頁を参照

(2) 機能訓練

生活機能の向上を目的に、基本プログラムとグループ・選択別プログラムを設けて機能訓練を実施した。訓練を通じて、生活機能の改善や転倒予防、意欲の向上等を図るとともに、自宅での役割や地域活動への積極的参加を促した。

また、機能訓練加算については、通所介護個別機能訓練加算Ⅰ（戸越台）を算定し、義務付けられた3か月に一度の訪問を、訓練指導員・相談員・介護職員で分担して行い、「活動」と「参加」の向上を図った。

表⑨ (単位：人)

区 分	R 2 年度	R 元年度	H30年度
成 幸	延 2,001	延 2,404	延 2,224
戸越台	延 5,324	延 5,539	延 5,595
荏 原	延 3,672	延 4,037	延 2,211

※戸越台は平成30年10月から大規模改修工事により認知症事業を休止していたが、令和2年9月14日から再開

※詳細は90～91、94～95、98～99頁を参照

(3) 食事サービス (通所、訪問)

食事サービスについては、栄養相談を行い疾病や障害を考慮した食事を提供した。在宅の利用者および家族へは、高齢者向けのレシピや情報提供として食へのアプローチを試みた。

表⑩ (単位：件)

区 分		R 2 年度	R 元年度	H30年度
成 幸	通所サービス	6,150	6,742	6,976
	訪問給食	833	673	1,111
戸越台	通所サービス	5,969	7,176	8,871
	訪問給食	1,664	2,222	2,287
荏 原	通所サービス	11,315	11,656	12,056
	訪問給食	657	1,413	1,852

※詳細は88～99頁を参照

(4) クラブ活動

アートクラブ・習字・生け花・切り絵等の創作活動、音楽リハビリ・踊りでリハビリ等の音楽活動、そして、利用者同士・講師やボランティア・職員との交流を通して、精神面・身体面・社会面のリハビリテーションを行った。その際、個々の利用者の状態や希望に応じて、利用者が主体的に取り組めるように働きかけた。また、作品展等で展示の機会を設け、活動の励みとした。

(5) 保険外サービス

障害者や介護保険非該当の方、また長時間利用が困難な方の食事、入浴等のサービスを行った。

(6) 介護者教室

年6回(5、7、9、11、2、3月)予定していた高齢者と介護者のための料理教室は、新型コロナウイルス感染症拡大予防のため中止した。

(7) 健康管理

年々、重介護を必要とする利用者や、さまざまな慢性疾患をもつ利用者が増えてきている。安心して利用していただくための事前訪問、来園時のバイタルチェック、全身状態の観察を利用時には毎回実施した。

また、新型コロナウイルス感染症予防のため、来所時の体温測定をそのつど行ない、体調確認を実施した。

表⑪ (単位：件)

区 分	R 2 年度	R 元年度	H30年度
成 幸	11,923	8,035	12,279
戸越台	10,937	11,226	10,970
荏 原	14,085	15,534	14,980

※戸越台は認知症事業を休止していたが、令和2年9月14日から再開

(8) 四季の行事

花見、夏まつり（納涼祭）、バスハイク、クリスマス会、餅つき、節分、ひな祭りなど、四季折々の行事を実施予定だったが、新型コロナウイルスの影響で花見、夏まつり、バスハイク等の密になる行事を中止した。

(9) 認知症対応型通所介護運営推進会議

認知症対応型通所介護の運営の質をより向上し、利用者のニーズに合ったサービス内容とするため、利用者とその家族、行政（品川区高齢者福祉課）、地域の関係者などにお集まりいただき、事業所ごとに6か月に1回開催予定だった。しかし、新型コロナウイルスの影響で実施できず、品川区には書面での報告となった。

5) 各センターの取り組み

成幸デイサービス 事業報告

《重点目標》

1. 多職種連携を密にする
2. 家族との連携により個別の援助を充実させる
3. 専門職としてのスキルアップを図る
4. 「介護職はサービス業である」という自覚を持つ

令和2年度は新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により、さまざまな活動の制限を余儀なくされた1年であった。しかしこの1年間で、ご利用者・ご家族・職員が共に協力しあうことにより、一人の感染者もなくデイサービスを運営してこれたと実感している。この経験を次年度にも継続し関係各所との連携をさらに深めながら、利用者のニーズに応えるデイサービスを目指していきたい。

1. 多職種連携を密にする

ケアマネジャーはもとより、機能訓練指導員、看護職とも積極的に情報交換を行った。それぞれが活動する領域において知り得た情報を交換することにより現在の状態像をより明確にすることができた。

2. 家族との連携により個別の援助を充実させる

送迎時の会話や連絡ノートを通じて情報量を増やす事に努めた。これにより自宅での様子や本人の嗜好等デイサービスでの活動以外の把握もでき、個別の援助に繋げることができた。

3. 専門職としてのスキルアップを図る

新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、例年のような外部研修への参加は自粛としたが、夕礼の時間を活用した介護・医療に関する情報の共有化や個別援助に関する課題を検討する時間に充てる等、専門職としてのスキルアップに努めた。

4. 「介護職はサービス業である」という自覚を持つ

「介護職はサービス業である」というスローガンのもと、誰が聞いても気持ちの良い丁寧な言葉遣いを意識した。これにより職員間でもお互いの「声かけ」に注意が向くようになり、プラスの循環が生まれた。

5. 感染対策について

1回目の緊急事態制限から、食事は食堂とデイルームの2か所とした。目配りができ、落ち着いた静かな環境は利用者にとっても好評であった。また、高度空気清浄機の導入、パーテーションの設置など、補助金を利用して多様な機器や感染対策用品を購入した。年間平均稼働率：基本70.9%、認知症64.1%

戸越台デイサービス 事業報告

《重点目標》

1. 移転に向けてサービスの再構築
2. 生活スタイルに合わせたリハビリの継続
3. 専門職として個々のスキルアップ
4. 軽度認知症高齢者支援プログラムの継続的な取り組み
5. 地域の拠点としての役割

新型コロナウイルス感染症の拡大により、1回目の緊急事態宣言終了後までは長期の利用休止やサービス終了が多かった。欠席者には体調確認や振替利用などの連絡をこまめに行い、家族やケアマネジャーとの情報共有に努めた。感染症対策として利用者や家族の体調確認、手洗いとうがいの徹底、テーブルや手すりなどの定期的な消毒、換気を継続して実施した。利用者の転倒などの事故や体調不良はなかった。

9月に大規模改修工事を終えて、計画的な準備により無事に移転が完了した。
年間平均稼働率：基本65.3%、認知1.4%

1. 移転に向けてサービスの再構築

移転前に培った他職種連携とのアットホームな雰囲気を持続して、利用者の個別性に合わせたケアを実践することができた。新規利用者よりもご逝去や施設入所などサービス終了者が上回り、目標の稼働率(72.0%)に達することは難しかった。今後も地域に情報発信を継続していく。

2. 生活スタイルに合わせたリハビリの継続

担当者会議や送迎時などに、デイサービスでの状況報告と自宅での様子確認を行い、生活に合わせたリハビリプログラムを計画し実行した。移転後の広いリハビリ室で運動量の維持と、運動器具を使用したリハビリを再開した。

3. 専門職として職員個々のスキルアップ

法人内の勉強会に参加、知識の習得と他職員へ情報発信しスキルを共有した。介護支援専門員資格取得など自己啓発の取り組みを継続した。

4. 軽度認知症高齢者支援プログラムの継続的な取り組み

利用者が望むことやできることに参加してもらうため、随時プログラムの評価と見直しを行った。感染症の状況に応じて行事やプログラムを再検討して、楽しみや目的を持って通所していただける環境を整えた。

5. 地域の拠点としての役割

9月に再開した認知症対応型デイサービスの利用を増やすことができなかった。課題を確認、ケアマネジャーや民生委員と情報を共有し、地域ニーズの把握に努め、専門的なサービスを展開して利用を増やしていく。

荏原デイサービス 事業報告

《重点目標》

1. 利用者が可能な限り居宅で自立した日常生活を送ることができるようにする
2. 事業を健全に運営する
3. 職員が安心して働くことができる職場環境を整える
4. 大規模改修工事に向けた検討を進める

令和2年度は職員3名の異動や新型コロナウイルスの影響でクラブ講師、ボランティアの受け入れが中止、日々の感染症対策もあり、慌ただしい一年となった。その中でも安心、安全に過ごせるように感染症対策を意識して行い、新型コロナウイルス罹患者を出すことなく事業運営ができた。

1. 利用者が可能な限り居宅で自立した日常生活を送ることができるようにする

利用目的を明確にし、日々の申し送り等を活用しながら情報の共有化をし、統一したケアができるようにした。デイサービスの様子は必要に応じケアマネジャーに伝え、他事業所とも情報共有ができるようにした。

身近でトレーニング（太極拳）の上半期は新型コロナウイルスの影響で7月からの開始となった。また、密を防ぐために、そして、運動の機会を減らさないように定員や受け入れ方法を変更して実施した。

2. 事業を健全に運営する

新型コロナウイルスの影響もあり、稼働率が大幅に減少し、年間平均稼働率は基本77.6%、認知症60.7%となった。

感染症対策の一つとして密となる行事の中止、その中でもお誕生会（誕生日カードを配布）、菖蒲、ゆず湯等、季節感を感じ、楽しめる行事を実施して楽しんでいただいた。

感染症対策については施設内での感染症対策委員会に参加や、情報収集を行い、日々変わっていくコロナ対策でデイサービスとしてできるものは取り入れ、安全な事業運営につなげた。

3. 職員が安心して働くことができる職場環境を整える

施設内で行うサービス研究会には参加はしていたが、外部研修は新型コロナウイルスの影響もあり参加することができなかった。

訓練、看護、栄養などの各職種とのコミュニケーションを意識して行い、相互協力をして問題解決ができたケースもあった。

4. 大規模改修工事に向けた検討を進める

利用者、職員が快適に過ごせるように大規模改修工事の会議に参加し、計画作成を行った。

小山の家 事業報告

《重点目標》

1. その人らしさを大切にしながら、安心して自宅で暮らせるよう支援する
2. 安定した事業運営を行う
3. 職員およびチームのスキルアップを図る
4. 将来の地域共生社会を意識した活動を展開する

令和2年度の小山の家は、職員の入れ替わりがあったことや、コロナ禍におけるボランティアの受け入れ制限、年度途中で職員が1名マイナスになるなど、いい状況とは言えなかったが、ご利用者に影響が出ないよう最善を尽くした。また、令和2年12月には、床の貼り替え工事のため、1週間サービス提供場所を小山の家から荏原ホームに移して事業を継続するなど、変化にとんだ一年であった。

1. その人らしさを大切にしながら、安心して自宅で暮らせるよう支援する

施設状況の変化が多いながらも、認知症への理解や、その方の個性を大切にしたい、個別性を意識したケアを行うことで、自宅での生活の支援と、自宅や施設において、その人らしい過ごし方ができるよう実践した。

ご家族やケアマネジャーからの情報収集や情報を共有することで、より良いケアにつなげることができた。

2. 安定した事業運営を行う

年間平均稼働率については、計画数値よりも大きく下回り、コロナ禍の影響や職員体制などの要因はあるが改善が必要。

今までは、送迎車の出発場所が、荏原ホームであり出勤ルートが複数になっていた。そのため、送迎ルートや時間を見直し、全て小山の家出発に変更した。年間平均稼働率は55.6%となった。

3. 職員およびチームのスキルアップを図る

コロナ禍の影響により、研修の機会が少なかった。予定されていた研修の延期や、中止となるなど、思うような研修参加とはならなかった。参加した研修内容については、職場内で報告共有した。

小山会議において、ケースの確認や介護方法などを検討しスキルアップに努めた。

4. 将来の地域共生社会を意識した活動を展開する

若年性認知症の方のサービスが終了となり、現在は高齢者のみとなっている。実際には高齢者と若年者との共存には高いハードルがあり今後の課題といえよう。

小山農園については、高齢者と若年者の共同作業とはいかなかったが、今いる方たちと共に季節ごとの花や野菜を植え、収穫するなど存続させていく。

3. 短期入所生活介護事業（ショートステイ）

新型コロナウイルスの影響による利用制限や利用控えのために稼働が低迷する1年となった。

ショートステイは、在宅生活の継続を支援することが前提であるため、心身機能の維持・向上のための機能訓練や趣味活動などのプログラムの提供に努めた。

また、利用期間中の身体状況の変化についても、自宅から施設間の連続性の視点を持ち、適切なアセスメントと介護計画の作成、スタッフ間の周知徹底、介護者とのコミュニケーション、ケアマネジャーや行政機関、医療機関などとの連携に努めた。

戸越台は大規模改修工事のため休止していたが、居室工事が完了し、再開への準備をしている。エレベーターの工事状況や送迎時の駐車場の使用、感染症対応など安全確保を考慮しながら、令和3年度から受け入れを開始する。

表⑫

区 分	R 2 年度		R 元年度		H30年度	
	利用者数	稼働率	利用者数	稼働率	利用者数	稼働率
成 幸 定員16人	延 3,298	57.5%	延 2,955	51.3%	延 3,663	65.2%
戸越台 定員 8 人	—	—	—	—	延 1,119	114.6%
荏 原 定員30人	延 8,192	74.7%	延11,153	101.5%	延10,798	100.3%
平塚橋 定員12人	延 2,797	64.7%	延 3,591	83.3%	延 4,138	95.9%

※戸越台は大規模改修工事により平成30年10月から休止し再開の準備中である

※詳細は104～106頁を参照

1) 各施設の取り組み

成幸ショートステイ 事業報告

《重点目標》

1. アセスメントを重視した個別ケアの実践
2. 不適正ケアの防止とサービスマナーの向上
3. 利用満足度の向上
4. 業務の効率化と省力化

コロナ禍において特養での行事やクラブを縮小するなか、利用者が楽しく安心して笑顔で過ごせる環境であるように取り組んだ一年となった。感染症の知識や対応方法の理解を深め、家族へは退園時に利用中の様子を伝えるとともに在宅で抱えている不安などにアドバイスできるよう対応した。

特養と併設のよさを生かし、映画鑑賞や手芸、家庭菜園などレクリエーションを実施し、楽しみにされる利用者が多かった。今後も利用者の健康状態の確認を含め、感染予防策を継続し、安心して利用していただけるように対応していく。

年間平均稼働率は57.5%であった。

1. アセスメントを重視した個別ケアの実践

利用者の生活主体が自宅であることを念頭におき個別計画書を作成し職員間でケア方法を統一することができた。退園時は家族へ利用中の様子を詳しく伝え、介助方法のアドバイスを伝えることで在宅生活を継続する上での支援を行った。

2. 不適正ケアの防止とサービスマナーの向上

サービスマナー向上委員会にて年間目標を設定し、朝礼参加職員で読み上げを行うことで意識づけすることができた。

高齢者虐待防止や身体拘束適正化の研修は、コロナ禍により集団での勉強会を控え、パソコン内に資料を掲載した。今後も状況に応じてパソコンを使用するの周知方法を継続していく。

3. 利用満足度の向上

コロナ禍において特養で行っていた外部ボランティアによるクラブ活動が中止になったが、職員による紙粘土を使用しての工作や野菜やハーブ類を育てる園芸に取り組み利用者に楽しんでいただいた。

4. 業務の効率化と省力化

常勤職員、介護補助職員等の業務内容を定期的に見直すことで直面している課題解決に向けた取り組みを行った。

I C T活用促進事業として、業務の負担軽減を目指して機器を導入した。見守りセンサーを増設し、効率化と省力化を図った。

荏原ショートステイ 事業報告

《重点目標》

1. 「また来たい」と言ってもらえるサービスを提供する
2. 身体状況に合わせた介護方法に関して見直しを行い、職員の介護技術の向上を図る
3. 地域での役割を果たす
4. 安定した運営を目指す

令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の予防・拡大防止に努めて、感染症対策を強化した年であった。入園退園手続きの場所を1階ロビーとし、乗車前の検温、来館時の手洗い消毒、滞在中の面会は遠慮してもらうなど協力していただき、職員は、マスク、フェイスシールド、プラスチックグローブの着用を義務つけた。

しかしながら当施設は、個室は4室、他は2人部屋の多床室になっており、感染などをすべて防げないというリスクを説明し、納得していただいた上でサービスを利用してもらった。新規の依頼は減少し、年間平均稼働率は74.7%だった。

1. 「また来たい」と言ってもらえるサービスを提供する

集団での歌のレクリエーションを控える代わりに、脳トレ・塗り絵・季節感のある壁飾り、身体を動かす体操を日常に取り入れるなど、個別レクを意識し提供した。

2. 身体状況に合わせたケアの見直しを行い、職員の介護技術の向上を図る

- 介護技術委員会：7月にスライディングボード、11月に誤嚥、3月にリフトの勉強会を開催。対象利用者を選出し安全安楽に生活していただくため、注意点を再確認した。
- 接遇委員会：東京都福祉保健財団の「虐待の芽チェックリスト」を活用し（5月/9月/12月）に勉強会を開催。ケアに息詰まった時に他職員はどうしているか、また同じ悩みや対応を共有することによりストレスの軽減も図れた。自分自身を見つめ直し、まごころをこめた言葉がけでサービス向上につなげた。
- 感染症対策委員会：11月に新型コロナウイルス感染症対策について勉強会を開催。「飛沫の広がり方」「換気中の空気の流れ」についての動画を視聴した他、マスクの捨て方や換気について学んだ。1時間ごとのアラームで換気をするを取り入れた。

3. 地域での役割を果たす

自治体やケアマネジャーと連携を取りながら、計画予定外の延泊の相談、独居生活困難者や虐待などの緊急保護ケースも、臨機応変に受け入れた。また、365日在宅生活を支えていくサービスとして、年末年始も利用できる体制を整えた。

4. 安定した運営を目指す

7月利用分から、新型コロナウイルス感染症に係わる緊急短期入所受入加算を同意してもらい算定した。品川区条例による助成が施行され、負担分の返金作業を行った。

併設するホームの感染症対応時には、応援要員を動員し共に難局を乗り越えた。

平塚橋ショートステイ 事業報告

《重点目標》

1. 在宅生活の継続を支援する
2. 介護機器を活用し利用者の身体的サポート、職員の負担軽減を図る
3. 職員の定着とスキルアップを図っていく
4. 適正な事業運営を行う

令和2年度は新型コロナウイルスの影響で、イベントや散歩、理美容などの通常、提供していたことができず、思うような事業展開が難しい年になった。

施設内でできる園芸活動や映画鑑賞などで、利用中の楽しみを提供する形となった。また家族の面会は直接面会を休止とした。そのため、少しでも施設のようにすをお知らせするためにホームページの更新を適宜実施した。感染予防に力を入れ、館内消毒など例年以上に業務負担がかかった一年であった。

1. 在宅生活の継続を支援する

入園時に自宅での状況を細かく伺い、ショートステイ中にもできるだけ自宅での生活に近づけるように支援した。退園時には利用中の様子をご家族に報告することで、スムーズに在宅生活につながるように配慮した。

ユニット費で環境整備のためのテーブルの購入、利用者の希望を伺い書籍の購入を行った。またレクリエーションなど、少しでもショートステイの滞在が楽しいものになるようにした。

2. 介護機器を活用し利用者の身体的サポート、職員の負担軽減を図る

見守りセンサーの台数を追加した。センサーの反応、確認により優先度を見ながら訪室できるようになり、シルエット認識による利用者のプライバシー保護と同時に、利用者の行動予測と対応により事故防止と職員の負担軽減につながった。

移乗用リフトを追加購入することで、利用者の移乗介助は必要な方がすみやかに利用できるようになり、職員の活用促進も行われ腰痛防止にもつながった。

3. 職員の定着とスキルアップを図っていく

年度初めにユニットリーダーミーティングを開催し、事業計画および施設目標をふまえたうえでユニット目標を立案し、毎月評価を行った。集合型の勉強会開催が難しく、一部研修は資料の回覧での実施となった。

介護職の副主任以上の研修をリモートで複数回行い、リーダーシップ等について学んだ。

4. 適正な事業運営を行う

コロナ禍のため、プラスチックグローブなどの衛生用品の確保、価格高騰により支出が増えたが、販売ルートの開拓等を行い、また東京都助成金および品川区からの寄付物品を活用した。

稼働率に関しては、コロナ禍の中、緊急事態宣言などによる利用控えも重なり、年間平均が64.7%と低迷した。

4. 在宅介護支援センター（居宅介護支援事業、老人介護支援センター、地域包括支援センター）

（成幸・戸越台・杜松・荏原・小山・小山台）

令和2年度は、新年度が始まって2週間という時期の4月15日からコロナ感染症による特別警戒宣言が出され、事業継続を図るために2チームに分かれての出勤体制を組み、在宅勤務も余儀なくされた。毎年開催される新任職員向けの研修もなくなり、新任職員にとっては厳しい年度初めとなった。そして感染症によりリモート研修・リモート会議という新たな業務形態が始まった年度であった。

コロナ禍における事業報告は以下のとおりである。

（1）尊厳ある生活の支援

アドバンス・ケア・プランニング（ACP）講演会の企画・開催（6支援センター合同）

人生の最終段階における医療・ケアを自ら考え、医療・ケアチーム等と話し合い、共有する「アドバンス・ケア・プランニング（ACP）」に対して、三徳会の介護支援専門員としてクライアントや地域住民の意思決定支援活動を促進する講演会を開催する予定であったが、コロナ禍において開催は見合わせ、次年度に延期する予定。

（2）ネットワークづくり

品川区福祉計画課の介護・医療連携担当により令和元年から「医療と介護連携地域ケアブロック会議」が設置された。この会議においてネットワーク構築を目指していたが、コロナ禍のなか会議が延期され、次年度に持ち越しとなったものに対しては次年度にも継続して行う。地区ケア会議においても後半は未開催となる等、外部とのネットワーク作りには支障が出たが、来年度はITの活用も見据え、検討課題としていく。

（3）相談員としての力量の向上

生活支援記録研修の開催（6支援センター合同研修、令和2年9月）

多職種協働によるチームケアにおいて①生活支援の観点から、②観察、③支援の根拠、④利用者とその環境との相互作用、⑤利用者の生活変化、のこれらを基にしたケアプラン反映への根拠等が明示可能な経過記録の方法 F-SOAPIP（F焦点、S発言、O事実、A判断、I実践、P計画）の研修と実践を、三徳会として2019年から進めてきた。コロナ禍において開発者の寫末憲子准教授（埼玉県立大学保健医療福祉学部）、小嶋章吾教授（国際医療福祉大学医療福祉学部）にご協力いただき、小嶋章吾先生のもとのリモート研修に合同研修として受講が行えた。

また、三徳会のF-SOAPIPの記録の実践が、他法人の介護支援専門員の関心を引き、高齢者福祉課も導入の検討を行い、令和3年度から高齢者福祉課が正式導入を決定した。三徳会の合同研修がミクロからメゾへの展開がなされた。

在宅介護支援センター 事業報告
(成幸・戸越台・杜松・荏原・小山・小山台)

《重点目標》

1. 尊厳ある生活の支援
2. ネットワークづくり
3. 相談員としての力量の向上

6つの在宅介護支援センターを運営していることから全支援センターの業務の標準化を図る必要がある。6支援センターでファイリングを統一し、使用する帳票の統一を行い、運営面の標準化を図ることができた。並行して個々のケアマネジメントの質が一定レベルは担保されるように資質の向上を図る必要がある。「ケアマネジメントの標準化」を重点目標として掲げて、3点に取り組んだ。

1. 尊厳ある生活の支援

高齢者・障がい者等が住み慣れた地域で、いきいきとしたその人らしい生活が続けられるように共生型社会を目指し支援するために、科学的介護に則った「ケアマネジメントの標準化研修」に多くの職員が参加し、知識の向上と実践に基づく経験値を蓄えた。

2. ネットワークづくり

保健・医療・福祉・行政・住民団体などの各関係機関と多職種連携を念頭にネットワークづくりを進めるべく、コロナ禍において、可能な範囲のなかでリモートにての研修や会議の参加を行った。対面研修も書面開催等に切り替え、継続する事に対して工夫を図った。

3. 相談員としての力量の向上

介護支援専門員として効果的、効率的にケアマネジメントの実践を行うために、体系化されたケアマネジメント手法を用い、体系化された記録法で記録を行うケアマネジメントの実践に向けて研修に参加し、実践を行った。

<行った主な業務>

①高齢者の総合相談、実態把握 ②介護予防のケアマネジメント ③包括的・継続的マネジメントの支援 ④居宅介護支援事業（介護のケアマネジメント）⑤要介護認定調査 ⑥高齢者見守りアイテム登録 ⑦認知症サポーター養成講座・レベルアップ講座 ⑧介護給付費通知の実施に伴う在宅介護支援センター送付説明業務委託臨時給付金申請補助業務委託 ⑩品川区特別定額給付金申請補助業務委託 ⑪しながわ活力応援給付金申請補助業務委託 ⑫高齢者熱中症等予防対策の普及啓発 ⑬品川区在宅介護者の集いへの協力 ⑭東京都・品川区主催の研修の受講 ⑮法定研修の受講 その他、品川区からの委託事業や協力要請に基づく業務

表⑬ 要介護認定調査 (単位：件)

区 分	R 2年度	R 元年度	H30年度
成 幸	193	417	426
戸 越 台	198	387	341
杜 松	255	508	525
荏 原	156	365	369
小 山	279	539	599
小 山 台	105	318	344

表⑭ 相談件数 (単位：件)

区 分	R 2年度	R 元年度	H30年度
成 幸	15,546	15,535	14,176
戸 越 台	13,675	12,624	12,779
杜 松	15,395	14,858	17,184
荏 原	11,690	9,897	10,582
小 山	14,869	14,534	13,904
小 山 台	7,110	7,622	8,796

表⑮ 国保連への請求数 (単位：件)

区 分		R 2年度		R 元年度		H30年度	
成 幸	介護給付	1,743	延4,671	1,959	延4,850	2,449	延5,250
	予防給付	2,928		2,891		2,801	
戸越台	介護給付	1,358	延3,863	1,629	延4,202	1,819	延3,991
	予防給付	2,505		2,573		2,172	
杜 松	介護給付	1,388	延3,835	1,689	延4,081	2,554	延4,581
	予防給付	2,447		2,392		2,027	
荏 原	介護給付	1,384	延3,743	1,107	延3,520	1,346	延3,565
	予防給付	2,359		2,413		2,219	
小 山	介護給付	1,917	延4,800	1,861	延4,966	1,970	延4,520
	予防給付	2,883		3,105		2,550	
小山台	介護給付	1,220	延2,753	1,426	延3,059	1,443	延2,815
	予防給付	1,533		1,633		1,372	

※「予防」の件数は令和元年度より予防給付件数と総合事業原則型および簡略型ケアマネジメント件数の総計。

※表⑬⑭⑮の詳細は110～133頁を参照

6 高齢者多世代交流支援施設(ゆうゆうプラザ)

本事業は、開設当初から一貫して「高齢者その他の世代が広く交流」することを目的として掲げてきたが、令和2年度はコロナ禍の影響により「交流」が困難な状況となった。具体的には、6月第1週まで休館となり、その後は徐々に利用再開となったが、2年度末まで日・祝日および夜間の時間帯は閉館となった。また、高齢者以外の利用制限（言語聴覚相談は除く）および誰でも利用できる地域交流スペースが使用中止となった。さらに他者との密接な交流を回避するためイベント等の大半が実施できなかった。その一方、外出を控えたり、他者との交流の機会が減少した高齢者を介護予防につなげるための策を講じた。

1) 感染症対策のため中止した内容

新型コロナウイルス感染状況に応じて徐々に本来のイベント等を開催する予定だったが、収束に至らず、結果的に令和2年度は次の内容を中止した。

- ・高齢者以外の体操（親子リトミック等）
- ・ものづくり講座（手芸等）
- ・カラオケ大会（個人、団体）
- ・ゆうゆうカフェ
- ・平塚橋ゆうゆうプラザまつり
- ・合同作品展
- ・コンサート
- ・キッズワーク等のイベント

2) 新たな視点による支援

長期化する新型コロナ感染症に伴い、前述のとおり多くの講座等が中止となったが、その一方、福祉施設として住民のために貢献できることを模索した年度であった。来館名簿記入、検温、手洗い、消毒、人数制限を講じながら、生活不活発病の予防対策として登録している高齢者団体の活動、マッサージ、入浴サービスを実施した。入浴サービスは従前の方式を変え、事前予約、時間および人数制限を行った。受付開始日には予約が殺到し、高齢者が必要とする事業の一つであることが明確となった。

コロナ感染の収束が予測できない現実に直面し、感染対策を講じながら、高齢者が外出できる機会を設定したり、声をかけ、心身の状況を探った。コロナ禍で「人との交流を避ける」ことになったが、人は他者との交流を行うことでストレスに適応している。これまでのように大規模なイベントは開催できなかったが、「人とのつながり」を大切にす福祉コミュニティ形成を志す年になった。

平塚橋ゆうゆうプラザ 事業報告

《重点目標》

1. 高齢者介護の情報拠点
2. 言語聴覚士による言語・聴覚相談の拠点
3. 高齢者と多世代の交流促進
4. 地域共生社会の実現に向けた取り組みづくり
5. 施設整備および環境整備

1. 高齢者介護の情報拠点

コロナ禍の影響を受け、一時、休館していたが、再開後にアンケートおよび相談支援が必要かどうかスクリーニングを実施し、必要に応じて面談を実施した。

「地域ミニデイ」および「つながりサロン」を実施し、介護予防の強化を図った。「つながりサロン」では、外出する機会が減り、体力の低下を懸念する高齢者を対象に住民主体の体操、脳トレを実施した。

2. 言語聴覚士による言語・聴覚相談の拠点

「子どもの相談」の回数を3回から4回に増加し、ニーズに応えた。

「子どもの発達について」オンライン講座を実施し、言語聴覚士が子どもの発達について講演するとともに相談事業の内容、事業の周知等を行った。

3. 高齢者と多世代の交流促進

品川区の「地域応援プロジェクト」に参加し、地域住民や小学生に呼びかけ、医療従事者および地域住民向け応援メッセージを発信する取り組みを行った。また、ホームページを更新し、今後の利用促進につながるよう、地域住民向けにゆうゆうプラザの「新しいお知らせ」や「取組み」をより明確にした。

4. 地域共生社会の実現に向けた取り組みづくり

高齢者以外の利用は制限となったが、これまで平塚橋ゆうゆうプラザを利用していた世代から相談を受け、専門機関につなげる等、可能な範囲で地域共生社会に向けた活動を継続した。今後の活動に資するため、団体登録者と「平塚橋ゆうゆうプラザの役割」について意見聴取を行った。

ゆうゆうポイントについてアンケートを実施し、認知度向上およびイベント協力体制の要請を図った。

5. 施設整備および環境整備

開設から5年が経過し、修繕箇所や点検を要する設備および備品があり、コロナ禍で稼働制限している期間に設備の集中修繕および点検を行った。

通常稼働に備えて設備や備品の不具合および老朽化をチェックし、買替や新規購入をした。

新型コロナウイルス感染症の蔓延防止のための手洗い、消毒、検温のお願いと飛沫防止のためのアクリル板の設置等、環境整備を行った。

7 研修報告

1) 国内外研修

新型コロナウイルス感染症の影響で、実施できなかった。

2) 施設外研修

品川介護福祉専門学校主催による認知症ケア専門研修をはじめ、東京都高齢者施設福祉部会など、各種研修、研究会などは、新型コロナウイルス感染症の影響で基本的にはオンラインでの開催となった。慣れない研修体系ではあったが、参加することによりサービス向上に努めた。

3) 施設内研修

新型コロナウイルス感染症の影響で、毎年開催している研修は集合型ではなく、資料配布やオンラインでの開催など工夫をして開催した。

8 地域活動

1) 生と死を見つめる懇談会（地域公益活動）

例年は開催しているが、新型コロナウイルス感染症の影響により開催することができなかった。

2) 広報紙「三徳だより」の発行

法人の各種事業内容や福祉情報を地域の方々や関係機関に広報することを目的に、広報紙「三徳だより」を発行した。秋・冬号は合併号とし、地域や休止しているボランティアに幅広く送付した。また、休止した事業「高齢者と介護者のための料理教室」のレシピを挟み広報した。

3) ホームページの活用

定期的にホームページを更新し、各種サービスの情報を発信した。また、さらに閲覧しやすいようにマイナーチェンジした。

4) 地域交流会（地域公益活動）

新型コロナウイルス感染症の影響で実施できなかった。

5) 高齢者と介護者のための料理教室

年6回、4施設の管理栄養士が共働で開催予定であったが新型コロナウイルス拡大予防対策のため中止とした。今年度は、三徳だよりと共にレシピを配布した。

6) ボランティア懇談会

新型コロナウイルス感染症の影響で実施できなかった。

7) 地域行事への参加

新型コロナウイルス感染症の影響で各行事が中止となり参加できなかった。

9 その他

1) 実習生・研修生

感染予防に配慮しながら、人材育成と社会貢献などを目的として計画的に受け入れた。

2) 防災対策

火災や震災などを想定した防災訓練を継続的に実施した。併せて消防設備の機能、活用方法の確認や、緊急時の職員の連絡訓練も実施した。町会、荏原消防署の協力による同防災訓練は、感染対策を講じながら縮小して実施した。

3) 感染症対策

新型コロナウイルス感染症の予防のために、各施設では徹底した消毒や面会制限などさまざまな対策を講じたが、感染症が発生した施設もあった。今後も新型コロナウイルス感染症に限らず、インフルエンザ、ノロウイルスなどの感染症に対しても継続して予防していきたい。

10 業績

(1) 表彰など

- ◇荏原消防懇話会創立50周年感謝状受賞：社会福祉法人三徳会
- ◇東京消防庁予防部長感謝状(自衛消防隊)受賞：成幸ホーム
- ◇東京消防庁荏原消防署長感謝状(自衛消防隊)受賞：戸越台在宅介護支援センター

(2) 口頭発表など

令和2年度品川福祉保健従事者実践・研究発表会

(主催：社会福祉法人品川区社会福祉協議会、品川介護福祉専門学校)

口演発表 2021. 2. 6(ZOOMによるオンライン開催)

- ◇吉原毅・土生田奈菜 ショートステイにおける荷物紛失予防と効率化～iPadに有効活用～(優良賞)

誌上发表

- ◇高橋祐人・鈴木裕之 「あなたはかけがえない大切な人」～サービスマナー 非言語コミュニケーション技法の習得～(奨励賞)
- ◇三矢 学 ICTネットワークを活用した専門職連携(奨励賞)

11 新型コロナウイルス感染症の対応

新型コロナウイルス感染症の発生

荏原特別養護老人ホームでは、2度にわたり新型コロナウイルス感染症が発生した。特に令和3年1月は、都内の医療体制が逼迫しており、施設内での療養を余儀なくされた。品川区保健所、厚生労働省DMA T事務局の派遣を受け、その対応にあたった。また、同一拠点での事業（ショートステイ、デイサービス）は影響を大きく受け、事業の縮小等せざるを得ない状況を招いた。

【荏原特別養護老人ホーム①】 4階 （職員4名・利用者2名）

9月26日：職員 PCR検査 (+) のため、入院
28日～29日 PCR検査130名（利用者63名、職員67名）
検査結果 陽性3名（利用者1名、職員2名） 陰性127名
10月6日：職員 PCR検査 (+) のため、自宅待機
12日～14日 PCR検査104名（利用者60名、職員44名）
検査結果 陽性1名（利用者1名、職員0名） 陰性103名
10月22日 健康観察期間終了

【荏原特別養護老人ホーム②】 4階 （職員1名・利用者11名）

1月9日：利用者 発熱し、搬送 抗原検査 (+) 入院
11日：利用者 発熱し、搬送 PCR検査 (+) 入院
12日～13日 PCR検査46名（職員46名）
検査結果 陽性1名 陰性45名
16日：利用者 発熱し、搬送 PCR検査 (+) 入院
16日：利用者 発熱し、搬送 PCR検査 (+) 入院
18日 PCR検査132名（特養・ショートの利用者）
検査結果 陽性5名（特養）施設内で療養しながら入院調整
18日～20日 PCR検査（行政外）72名（特養・ショート・デイの職員）
28日 PCR検査9名（利用者）
検査結果 陽性1名 陰性8名
2月6日：利用者 発熱し、搬送 PCR検査 (+) 入院
11日～12日 PCR検査93名
検査結果 陽性0名 陰性93名
2月24日 健康観察期間終了

感染症拡大防止に向けての取り組み

法人および各施設では、感染症対策委員会を随時実施するとともに、利用者および職

員の体調管理とその把握に努めた。また、事業継続においては、品川区と協議を重ねながら情報収集と情報共有、連携を強化した。高騰する衛生物品等には各種補助金を活用し、必要数の確保にあたった。

【特別養護老人ホーム】

面会制限、オンライン面会の実施、見学者の制限
ボランティア活動の制限・休止、実習生受け入れの制限
納涼祭、敬老の式典などの縮小、ホーム喫茶などの変更

【デイサービス・ショートステイ】

アクリルボードの設置、プログラムの一部変更、
運営推進介護等各種会議の工夫、一般介護予防事業の人数減、

【支援センター】

訪問時の配慮、在宅勤務、オンライン研修の実施、地区ケア会議の変更

【ゆうゆうプラザ】

6月第1週までは休館、その後は日祝日の閉館、利用定員・活動・高齢者以外の利用制限を行った。

【中止した主な事業】

ボランティア懇談会／高齢者と介護者のための料理教室／生と死をみつめる懇談会
／地域交流会／介護者教室／地域交流事業／国内外職員研修派遣／職員懇親会 等

【PCR検査】

- ①PCR検査の実施（無症状者のスクリーニング検査） 延べ人数
品川区事業、東京都感染症対策強化事業、サービス継続支援事業、東京都
成幸：240名 戸越台：215名 荏原：444名 平塚橋：256名
一部検査は、委託業者も含め、実施した。
- ②PCR検査の実施（ホーム新入所者） 実人数
東京都感染症対策強化事業
成幸：2名 戸越台：2名 荏原：1名 平塚橋：3名

【通所介護・短期入所生活介護における報酬の取扱い】

感染拡大防止対策を講じている通所・短期入所サービス事業者への特例措置として、6月1日より介護報酬の加算が認められた。品川区では利用者負担の増額分を補助した。
通所介護：介護報酬2区分上位の算定が可能。
短期入所：1か月のサービス提供日を3で除した数の日数分の緊急短期入所受入加算の算定が可能。

資 料 編

1. 介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム）

1) 令和2年度の利用者動向（令和3年3月31日現在）

端数処理は小数点第二位を四捨五入した。

平均年齢 (単位：歳)

区分	成幸 定員80名	戸越台 定員72名	荏原 定員120名	平塚橋 定員100名
合計	88.7	87.7	90.2	89.8
男性	83.7	85.6	87.7	89.4
女性	90.0	89.8	90.4	90.6
男性 最高年齢	93	95	94	98
女性 最高年齢	103	104	104	103

※戸越台は平成30年10月から56名に定員減数

年齢別男女構成比

		64～69歳		70～74歳		75～79歳		80～84歳		85～89歳		90～94歳		95歳以上		100歳以上			
成幸	合計	1人		2人		5人		7人		27人		16人		10人		7人		男女比	
		1.3%		2.7%		6.7%		9.3%		36.0%		21.3%		13.3%		9.3%			
	区分	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
	人数	1	—	1	1	1	4	2	5	4	23	3	13	—	10	—	7	12	63
	%	1.3	—	1.3	1.3	1.3	5.3	2.7	6.7	5.3	30.7	4.0	17.3	—	13.3	—	9.3	16.0	84.0

		64～69歳		70～74歳		75～79歳		80～84歳		85～89歳		90～94歳		95歳以上		100歳以上			
戸越台	合計	—		1人		6人		12人		14人		18人		8人		8人		男女比	
		—		1.5%		9.0%		17.9%		20.9%		26.9%		11.9%		11.9%			
	区分	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
	人数	—	—	—	1	2	4	3	9	5	9	1	17	1	7	—	8	12	55
	%	—	—	—	1.5	3.0	6.0	4.5	13.4	7.5	13.4	1.5	25.4	1.5	10.4	—	11.9	18.0	82.0
荏原	合計	—		—		6人		13人		26人		33人		16人		8人		男女比	
		—		—		5.9%		12.7%		25.5%		32.4%		15.7%		7.8%			
	区分	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
	人数	—	—	—	—	—	6	4	9	1	25	4	29	—	16	—	8	9	93
	%	—	—	—	—	—	5.9	3.9	8.8	1	24.5	3.9	28.5	—	15.7	—	7.8	8.8	91.2
平塚橋	合計	—		2人		1人		14人		19人		29人		17人		6人		男女比	
		—		2.3%		1.1%		15.9%		21.6%		33.0%		19.3%		6.8%			
	区分	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
	人数	—	—	—	2	—	1	4	10	7	12	10	19	3	14	—	6	24	64
	%	—	—	—	2.3	—	1.1	4.5	11.4	8.0	13.6	11.4	21.6	3.4	15.9	—	6.8	27.3	72.7

2) 利用者の入退所状況

(成 幸)

		月末入所者数								
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月		
末日 利用者数	男性	12	12	14	14	14	13	12		
	女性	65	63	65	66	65	66	66		
	合計	77	75	79	80	79	79	78		
入所者数	在宅	男性	—	—	1	—	—	—	1	
		女性	—	—	—	—	—	—	1	
	病院	男性	—	—	—	—	—	—	—	
		女性	—	—	—	—	—	1	—	
	再入所	男性	—	—	—	—	—	—	—	
		女性	—	1	1	—	—	—	—	
	その他	男性	—	—	1	—	—	—	—	
		女性	—	—	1	1	—	—	—	
	合計	男性	—	—	2	—	—	—	1	
女性		—	1	2	1	—	1	1		
実入所者合計		—	—	3	1	—	1	2		
退所者数	短期入院	男性	—	—	—	—	—	—	—	
		女性	1	1	—	—	—	—	—	
	長期入院	男性	—	—	—	—	—	—	—	
		女性	—	—	—	—	—	—	—	
	短期入院中死亡	男性	—	—	—	—	—	—	—	
		女性	—	—	—	—	—	—	—	
	施設内死亡	男性	1	—	—	—	—	1	2	
		女性	—	2	—	—	1	—	1	
	その他	男性	—	—	—	—	—	—	—	
女性		—	—	—	—	—	—	—		
合計	男性	1	—	—	—	—	1	2		
	女性	1	3	—	—	1	—	1		
実退所者合計		1	2	—	—	—	1	3		
要介護度別内訳	要介護1	4	4	5	5	5	5	5		
	要介護2	6	6	7	7	7	7	7		
	要介護3	23	23	22	22	22	22	23		
	要介護4	17	17	21	21	22	22	20		
	要介護5	27	27	25	25	23	23	23		
平均介護度		3.7	3.7	3.7	3.7	3.6	3.6	3.6		
延人数		2,337	2,379	2,299	2,452	2,448	2,368	2,417		
月稼働率		97.4%	95.9%	95.8%	98.9%	98.7%	98.7%	97.5%		

- 注) 1. 平均介護度、本月稼働率の端数処理は、小数点第二位を四捨五入する。
 2. 本月稼働率は、調査月の延べ人数を定員×月日数で割り%明記する。
 3. 短期入院は3カ月以内の入院、長期入院は3カ月以上の入院

(単位：人)

	11月	12月	1月	2月	3月	年度合計	平均
	13	13	12	13	12		12.8
	66	63	63	62	63		64.4
	79	76	75	75	75		77.3
	—	—	—	—	—	2	0.2
	1	—	—	—	1	3	0.3
	1	—	—	—	—	1	0.1
	—	—	—	—	1	2	0.2
	—	—	—	1	—	1	0.1
	—	1	—	—	—	3	0.3
	—	—	1	—	—	2	0.2
	—	—	—	1	1	4	0.3
	1	—	1	1	—	6	0.5
	1	1	—	1	3	12	1.0
	2	—	1	1	3	14	1.2
	—	—	1	—	—	1	0.1
	1	—	—	—	—	3	0.3
	—	—	—	—	—	—	—
	—	—	—	—	—	—	—
	—	—	—	—	—	—	—
	—	—	1	—	1	6	0.5
	—	3	—	2	2	11	0.9
	—	—	—	—	—	—	—
	—	1	—	—	—	1	0.1
	—	—	2	—	1	7	0.6
	1	4	—	2	2	15	1.3
	—	4	1	2	3	18	1.5
	3	3	3	3	3		4.0
	4	5	4	5	4		5.8
	26	26	25	24	24		23.5
	23	21	21	21	23		20.8
	23	21	22	22	21		23.5
	3.7	3.7	3.7	3.7	3.7		3.7
	2,353	2,418	2,325	2,110	2,303	28,209	2,351
	98.0%	97.5%	93.8%	94.2%	92.9%		96.6%

(戸越台)

		月末入所者数								
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月		
末日利用者数	男性	9	9	9	11	12	11	12		
	女性	42	43	43	44	42	45	46		
	合計	51	52	52	55	54	56	58		
入所者数	在宅	男性	—	—	—	1	—	—	1	
		女性	—	—	—	—	—	1	2	
	病院	男性	—	—	—	—	—	—	—	
		女性	—	—	—	—	—	1	—	
	再入所	男性	2	1	—	1	—	—	1	
		女性	1	—	—	1	—	—	—	
	その他	男性	—	—	—	1	1	—	—	
		女性	—	1	—	1	1	2	1	
	合計	男性	2	1	—	3	1	—	2	
		女性	1	1	—	2	1	3	3	
実入所者合計		—	1	—	3	2	3	4		
退所者数	短期入院	男性	—	—	—	—	—	—	—	
		女性	—	—	—	—	—	1	—	
	長期入院	男性	2	1	—	1	—	1	1	
		女性	—	—	—	1	1	—	2	
	短期入院中死亡	男性	—	—	—	—	—	—	—	
		女性	—	—	—	—	—	—	—	
	施設内死亡	男性	—	—	—	—	—	—	—	
		女性	—	—	—	—	1	—	—	
	その他	男性	—	—	—	—	—	—	—	
		女性	—	—	—	—	1	—	—	
合計	男性	2	1	—	1	—	1	1		
	女性	—	—	—	1	3	1	2		
実退所者合計		—	—	—	—	3	—	—		
要介護度別内訳	要介護1	—	—	—	—	—	—	—		
	要介護2	2	2	2	2	2	2	2		
	要介護3	12	11	11	12	12	14	15		
	要介護4	21	23	23	24	23	23	23		
	要介護5	16	16	16	17	17	17	18		
平均介護度		4	4	4	4	4	4	4		
延人数		1,464	1,600	1,560	1,662	1,662	1,623	1,749		
月稼働率		67.8%	71.2%	72.2%	74.5%	74.5%	75.1%	78.4%		

- 注) 1. 平均介護度、本月稼働率の端数処理は、小数点第二位を四捨五入する。
 2. 本月稼働率は、調査月の延べ人数を定員×月日数で割り%明記する。
 3. 短期入院は3カ月以内の入院、長期入院は3カ月以上の入院

※戸越台ホームは大規模改修工事のため定員72名を減員して対応中

(単位：人)

	11月	12月	1月	2月	3月	年度合計	平均
	10	12	12	12	12		10.9
	48	51	52	55	55		47.2
	58	63	64	67	67		58.1
	—	—	—	—	—	2	0.2
	1	1	2	—	—	7	0.6
	—	—	—	—	—	—	0.0
	—	—	—	—	—	1	0.1
	1	2	—	—	—	8	0.7
	—	1	1	3	2	9	0.8
	—	—	—	—	—	2	0.2
	3	1	1	1	1	12	1.1
	1	2	—	—	—	12	1.0
	4	3	4	4	3	29	2.5
	4	2	3	1	1	24	2.0
	—	—	—	—	—	—	—
	—	—	—	—	—	1	0.1
	3	—	—	—	—	9	0.8
	2	—	3	—	2	11	0.9
	—	—	—	—	—	—	—
	—	—	—	1	—	1	0.1
	—	—	—	—	—	—	—
	—	—	—	—	—	2	0.2
	—	—	—	—	—	—	—
	—	—	—	—	—	1	0.1
	3	—	—	—	—	9	0.8
	2	—	3	1	3	16	1.4
	1	—	1	2	1	8	0.7
	—	—	—	—	—		0.0
	2	2	2	2	2		2.0
	17	19	17	18	17		14.7
	21	23	25	27	28		23.6
	18	19	20	20	20		17.8
	3.9	3.9	3.9	4	4		4.0
	1,763	1,890	1,964	1,832	2,059	20,828	1,736
	81.6%	84.7%	88.0%	90.9%	92.2%		79.3%

(荏原)

		月末入所者数								
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月		
末日利用者数	男性	10	10	11	10	13	13	13		
	女性	90	90	91	90	91	98	97		
	合計	100	100	102	100	104	111	110		
入所者数	在宅	男性	—	—	—	—	2	—	—	
		女性	1	1	2	2	1	1	—	
	病院	男性	—	—	—	—	—	—	—	
		女性	—	—	—	—	—	—	1	
	再入所	男性	—	2	1	—	1	—	—	
		女性	2	—	4	2	2	2	3	
	その他	男性	—	—	1	1	1	—	—	
		女性	1	—	—	1	2	6	1	
合計	男性	—	2	2	1	4	—	—		
	女性	4	1	6	5	5	9	5		
実入所者合計		2	1	3	4	6	7	2		
退所者数	短期入院	男性	2	—	1	1	1	—	—	
		女性	1	1	4	2	2	1	4	
	長期入院	男性	—	—	—	—	—	—	—	
		女性	—	—	—	—	—	—	—	
	短期入院中死亡	男性	—	1	—	—	—	—	—	
		女性	2	—	—	—	—	1	2	
	施設内死亡	男性	—	2	—	1	—	—	—	
		女性	1	—	1	3	1	—	—	
その他	男性	—	—	—	—	—	—	—		
	女性	—	—	—	—	—	1	—		
合計	男性	2	3	1	2	1	—	—		
	女性	4	1	5	5	3	3	6		
実退所者合計		3	3	1	4	1	2	2		
要介護度別内訳	要介護1	2	2	2	2	2	2	2		
	要介護2	7	6	6	6	6	6	7		
	要介護3	31	31	32	33	36	39	38		
	要介護4	34	35	37	34	34	38	38		
	要介護5	26	26	25	25	26	26	25		
平均介護度		3.8	3.8	3.8	3.7	3.7	3.7	3.7		
延人数		3,038	3,111	2,998	3,138	3,161	3,234	3,373		
月稼働率		84.4%	83.6%	83.3%	84.4%	85.0%	89.8%	90.7%		

- 注) 1. 平均介護度、本月稼働率の端数処理は、小数点第二位を四捨五入する。
2. 本月稼働率は、調査月の延べ人数を定員×月日数で割り%明記する。
3. 短期入院は3カ月以内の入院、長期入院は3カ月以上の入院

(単位：人)

	11月	12月	1月	2月	3月	年度合計	平均
	12	13	10	10	9		11.2
	101	100	96	94	93		94.3
	113	113	106	104	102		105.4
	—	—	—	—	—	2	0.2
	1	—	—	—	1	10	0.8
	—	—	—	—	—	—	—
	—	—	—	—	—	1	0.1
	—	1	1	—	—	6	0.5
	2	—	3	8	2	30	2.5
	—	—	—	—	—	3	0.3
	4	3	—	1	1	20	1.7
	—	1	1	—	—	11	0.9
	7	3	3	9	4	61	5.1
	5	3	—	1	2	36	3.0
	1	—	1	—	1	8	0.7
	1	1	2	6	2	27	2.3
	—	—	—	—	—	—	—
	—	—	—	—	—	—	—
	—	—	1	—	—	2	0.2
	—	1	3	1	1	11	0.9
	—	—	2	—	—	5	0.4
	2	1	1	3	2	15	1.3
	—	—	—	—	—	—	—
	—	—	—	—	1	2	0.2
	1	—	4	—	1	15	1.3
	3	3	6	10	6	55	4.6
	2	2	7	4	4	35	2.9
	2	2	2	2	2		2.0
	7	7	7	7	7		6.6
	41	39	34	32	32		34.8
	40	43	42	41	39		37.9
	23	22	21	22	22		24.1
	3.7	3.7	3.7	3.7	3.7		3.7
	3,357	3,493	3,405	2,914	3,082	38,304	3,192
	93.3%	93.9%	91.5%	86.7%	82.8%		87.5%

(平塚橋)

		月末入所者数								
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月		
末日 利用者数	男性	23	23	25	25	24	25	26		
	女性	66	69	73	73	72	68	70		
	合計	89	92	98	98	96	93	96		
入所者数	在宅	男性	—	—	—	—	—	—	—	
		女性	—	3	3	1	—	—	—	
	病院	男性	—	—	—	—	—	—	—	
		女性	—	—	—	—	—	—	—	
	再入所	男性	4	1	—	2	1	1	1	
		女性	3	1	2	1	1	—	1	
	その他	男性	—	—	3	—	—	—	1	
		女性	—	1	2	—	—	—	1	
	合計	男性	4	1	3	2	1	1	2	
女性		3	5	7	2	1	—	2		
実入所者合計		—	4	8	1	—	—	2		
退所者数	短期入院	男性	3	—	1	2	2	—	1	
		女性	3	—	2	2	—	1	—	
	長期入院	男性	—	—	—	—	—	—	—	
		女性	—	1	—	—	—	—	—	
	短期入院中死亡	男性	—	—	—	—	—	—	—	
		女性	—	—	1	—	1	1	—	
	施設内死亡	男性	—	1	—	—	—	—	—	
		女性	—	1	—	—	1	2	—	
	その他	男性	—	—	—	—	—	—	—	
女性		—	—	—	—	—	—	—		
合計	男性	3	1	1	2	2	—	1		
	女性	3	2	3	2	2	4	—		
実退所者合計		—	3	1	—	2	3	—		
要介護度別内訳	要介護1	3	3	3	3	3	4	4		
	要介護2	6	6	6	6	6	6	6		
	要介護3	34	39	47	48	46	44	44		
	要介護4	24	22	19	19	19	19	20		
	要介護5	22	22	23	22	22	20	22		
平均介護度		3.6	3.6	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5		
延人数		2,647	2,786	2,825	3,022	3,022	2,877	2,940		
月稼働率		88.2%	89.9%	94.2%	97.5%	97.5%	95.9%	94.8%		

- 注) 1. 平均介護度、本月稼働率の端数処理は、小数点第二位を四捨五入する。
 2. 本月稼働率は、調査月の延べ人数を定員×月日数で割り%明記する。
 3. 短期入院は3カ月以内の入院、長期入院は3カ月以上の入院

(単位：人)

	11月	12月	1月	2月	3月	年度合計	平均
	24	24	24	24	24		24.3
	69	68	67	67	64		68.8
	93	92	91	91	88		93.1
	—	2	—	—	—	2	0.2
	—	1	—	—	1	9	0.8
	—	—	—	—	—	—	—
	—	—	—	—	—	—	—
	2	1	1	—	1	15	1.3
	—	1	—	—	1	11	0.9
	—	—	—	—	1	5	0.4
	—	—	—	—	1	5	0.4
	2	3	1	—	2	22	1.8
	—	2	—	—	3	25	2.1
	—	3	—	—	3	21	1.8
	3	2	—	—	2	16	1.3
	1	1	—	—	2	12	1.0
	—	—	—	—	—	—	—
	—	—	—	—	—	1	0.1
	—	1	—	—	—	1	0.1
	—	2	—	—	—	5	0.4
	1	—	1	—	—	3	0.3
	—	1	1	—	4	10	0.8
	—	—	—	—	—	—	—
	—	—	—	—	—	—	—
	4	3	1	—	2	20	1.7
	1	4	1	—	6	28	2.3
	1	4	2	—	4	20	2.0
	5	5	5	5	5		4.0
	5	5	6	7	7		6.0
	42	44	43	42	38		42.6
	20	20	19	20	20		20.1
	21	18	18	17	18		20.4
	3.5	3.4	3.4	3.4	3.4		3.5
	2,838	2,887	2,850	2,548	2,816	34,058	2,838
	94.6%	93.1%	91.9%	91.0%	90.8%		93.3%

平均入所期間

	成 幸		戸越台		荏 原		平塚橋	
	人数	割合 (%)						
1年未満	13	17.3	21	31.3	28	27.4	17	19.3
1年以上～2年未満	20	26.7	10	14.9	17	16.7	16	18.2
2年以上～3年未満	12	16.0	1	1.5	12	11.8	6	6.8
3年以上～4年未満	7	9.3	5	7.5	10	9.8	7	8.0
4年以上～5年未満	5	6.7	4	6.0	13	12.7	42	47.7
5年以上～6年未満	6	8.0	11	16.4	5	4.9	—	—
6年以上～7年未満	3	4.0	7	10.4	5	4.9	—	—
7年以上～8年未満	4	5.3	3	4.5	4	3.9	—	—
8年以上～9年未満	2	2.7	2	3.0	2	2.0	—	—
9年以上～10年未満	1	1.3	1	1.5	—	—	—	—
10年以上	2	2.7	2	3.0	6	5.9	—	—

年間総入院回数

		成 幸		戸越台		荏 原		平塚橋	
		人数	割合 (%)						
入院回数	1回	8	80.0	14	77.8	19	90.4	25	83.3
	2回	1	10.0	3	16.7	1	4.8	5	16.7
	3回	—	10.0	1	5.5	1	4.8	—	—
	4回	—	—	—	—	—	—	—	—
	5回以上	—	—	—	—	—	—	—	—
	合計	10	100.0	18	100.0	21	100.0	30	100.0
延べ年間総入院者数		10	—	23	—	24	—	35	—
総入院日数		241	—	604	—	550	—	1,177	—
1人あたりの入院日数		26.8日		26.3日		22.9日		18.9日	

3) 利用者の日常生活能力 (ADL)

端数処理は小数点第二位を四捨五入した。

①移動

区 分	成 幸		戸越台		荏 原		平塚橋	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
自立	6	8.0	4	6.0	5	4	3	3.4
手すり・杖使用	2	2.7	2	3.0	1	0.9	3	3.4
歩行器等使用 (アシスト)	4	5.3	1	1.5	3	2	6	6.8
車いすと一部歩行	3	4.0	5	7.5	8	7	4	4.6
車いす使用	60	80.0	55	82.0	86	83	72	81.8

②起き上がり

区 分	成 幸		戸越台		荏 原		平塚橋	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
自力	24	32.0	20	29.9	33	32	31	35.2
起き上がり介助・座位保持可能	23	30.7	13	19.4	25	23	22	25.0
起き上がり介助・座位保持不可	9	12.0	20	29.9	8	7	16	18.2
全く起きあがれない	19	25.3	14	20.8	37	35	19	21.6

③着脱衣

区 分	成 幸		戸越台		荏 原		平塚橋	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
全部自力	6	8.0	6	9.0	5	4	7	8.0
声かけすればできる	3	4.0	2	3.0	9	9	7	8.0
一部介助	23	30.7	28	41.8	26	25	37	42.0
全介助	43	57.3	31	46.2	63	61	37	42.0

④排泄

区 分	成 幸				戸越台				荏 原				平塚橋			
	日 中		夜 間		日 中		夜 間		日 中		夜 間		日 中		夜 間	
	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
トイレ自力	6	8.0	3	4.0	5	7.5	2	3.0	12	11	3	3	9	10.2	5	5.7
トイレ介助	33	44.0	12	16.0	30	44.8	13	19.4	40	38	12	12	52	59.1	25	28.4
ポータブル トイレ自力	—	—	3	4.0	—	—	3	4.5	—	—	8	8	—	—	2	2.3
ポータブル トイレ介助	—	—	11	14.6	—	2.0	2	3.0	—	—	5	5	3	3.4	5	5.7
おむつ交換	36	48.0	46	61.4	32	47.7	47	70.1	51	50	75	72	24	27.3	51	57.9
おむつ使用	73	97.3	73	97.3	65	97.0	65	97.0	103	100	103	100	88	100	88	100

⑤入浴

区 分	成 幸		戸越台		荏 原		平塚橋	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
介助浴	9	12.0	7	10.4	8	8	54	61.3
リフト浴	17	22.7	5	7.5	17	17	2	2.3
車いす型入浴	11	14.7	27	40.3	24	23	5	5.7
ストレッチャー浴	38	50.6	28	41.8	54	52	27	30.7

⑥食事

区 分	成 幸		戸越台		荏 原		平塚橋	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
自力	38	50.6	25	37.3	32	31	46	52.3
一部介助	15	20.0	18	26.9	28	27	15	17.0
全介助	22	29.4	19	28.3	17	17	25	28.4
経管栄養	—	—	5	7.5	6	6	2	2.3

⑦歯の状態

区 分	成 幸		戸越台		荏 原		平塚橋	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
自歯	44	58.6	27	40.3	45	44	39	44.3
上下義歯	13	17.3	19	28.3	32	31	35	39.8
上義歯	4	5.4	4	6.0	10	10	8	9.1
下義歯	4	5.4	1	1.5	2	2	—	—
自歯・義歯なし	10	13.3	16	23.9	14	14	6	6.8

⑧整容（つめ切り、耳掃除、歯磨き、ひげそり等）

区 分	成 幸		戸越台		荏 原		平塚橋	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
全部自力	6	8.0	13	19.4	1	1	19	21.6
声かけすればできる	5	6.6	12	17.9	16	16	11	12.5
一部介助	26	34.7	12	17.9	26	25	24	27.3
全介助	38	50.7	30	44.8	71	69	34	38.6

⑨行動心理症状

区 分	成 幸		戸越台		荏 原		平塚橋	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
徘徊	5	6.6	6	9.0	6	6	4	4.5
不潔	7	9.3	7	10.4	11	11	4	4.5
妄想	4	5.3	4	6.0	10	10	4	4.5
暴言・暴行	9	12.0	7	10.4	11	11	7	8.0
興奮	12	16.0	9	13.4	9	9	14	15.9
不安	9	12.0	12	17.9	17	17	19	21.6
その他	—	—	1	1.5	—	—	—	—

認知性高齢者の日常生活自立度

	区分	正常	I	II a	II b	III a	III b	IV	M
成 幸	人数	1	4	9	13	23	11	14	—
	%	1.3	5.3	12.0	17.3	30.7	14.7	18.7	—
戸越台	人数	—	1	4	12	19	16	14	1
	%	—	1.5	6.0	17.9	28.4	23.9	20.8	1.5
荏 原	人数	—	2	4	27	42	13	13	1
	%	—	2.0	3.9	26.5	41.2	12.7	12.7	1.0
平塚橋	人数	3	5	1	12	31	10	23	3
	%	3.4	5.7	1.1	13.6	35.2	11.4	26.1	3.4

障害高齢者の日常生活自立度

	区分	自立	J 1	J 2	A 1	A 2	B 1	B 2	C 1	C 2
成 幸	人数	—	—	—	6	13	17	31	4	4
	%	—	—	—	8.0	17.3	22.7	41.3	5.3	5.3
戸越台	人数	—	1	2	5	10	5	28	11	5
	%	—	1.5	3.0	7.5	14.9	7.5	41.7	16.4	7.5
荏 原	人数	—	1	1	8	18	18	40	5	11
	%	—	1.0	1.0	7.8	17.6	17.6	39.3	4.9	10.8
平塚橋	人数	1	—	2	13	20	18	26	4	4
	%	1.1	—	2.3	14.8	22.7	20.5	29.5	4.5	4.5

4) 家族などの訪問(面会)者数・外泊状況

新型コロナウイルス感染対応のため令和2年2月26日より面会を中止とした。世界的な拡大となった感染症はその後収束の兆しを見せず、令和2年度は面会制限を継続した。また、状況により限られた場所で環境整備や時間制限を行いながら面会を実施したこともあったが、年間を通し主としてリモートによる面会となった。

①訪問(面会)者数

(単位：人)

	年度合計	月平均
成 幸	348	29
戸 越 台	301	25
荏 原	354	30
平 塚 橋	831	69

※戸越台は大規模改修工事のため定員を減員して対応中

②外泊状況

外泊は控えていただき実績はない。

5) 三徳懇談会

利用者懇談会

(成 幸)

(単位：人)

年	月	日	実施階	主な懇談内容	参加人数
2	4	5	2.3.4	感染予防のため行なわず	—
	5	10	2.3.4	感染症対策を説明（家族面会中止等含め）	33
	6	14	2.3.4	クラブや家族面会について説明、おやつ作りについて	29
	7	19	2.3.4	実習生、理美容サービスについて	32
	8	16	2.3.4	成幸まつり中止、家族面会の方法について	32
	9	27	2.3.4	敬老式典、実習生について	31
	10	11	2.3.4	お楽しみ食、団らん食について	27
	11	8	2.3.4	健康診断、家族面会の方法について	30
	12	13	2.3.4	クリスマス会、ゆず湯について、一年を振り返って	23
3	1	24	2.3.4	選択食、理美容サービスについて	25
	2	14	2.3.4	防災、感染症対策について	28
	3		—	感染予防のため行なわず	—

※参加人数は2・3・4階利用者の合計人数

(戸越台)

(単位：人)

年	月	日	実施階	主な懇談内容	参加人数
2	4	1	6	インタビュー「最近お困りのことはありますか？」	8
2	5	14	5	感染予防、屋上庭園完成、「食べたい物は？」	15
	6	11	6	梅雨について、食中毒、「食べたい物は？」	8
	7	9	5	七夕、実習生、熱中症予防、「ホーム喫茶でうれしいメニューは？」	15
	8	5	6	インタビュー「出かけたところはどこですか？」	8
	9	10	5	敬老式典、熱中症について、「昔の思い出はなんですか？」、〇〇の秋について	13
	10	7	6	7階の再稼働、健康診断について、「秋の楽しみは何ですか？」	7
	11	19	5	インフルエンザ予防接種、レントゲンについて、「おせち料理について」	13
	12	9	6	インタビュー「今年1年の思い出は何ですか？」	8
3	1	13	7	インタビュー「施設での生活は慣れましたか？」	7
	2	10	5	インタビュー「暖かくなったら出かけたところは？」	16
	3	10	6	インタビュー「感染症が落ち着いたらやりたいことは？」	9

(荏原)

(単位：人)

年	月	日	実施階	主な懇談内容	参加人数
2	5	52	3	イベントなど説明、やりたいこと行きたいところなど	20
	6	30	4	七夕の話、昔の思い出話座談会形式で行なう	4
	7	27	3	ホームでのお食事について、施設での生活、コロナ禍での生活	18
	8	28	4	イベントの感想、今後どのようなイベントがやりたいか、郷土のお話	9
	9	23	3	やりたいことや行きたいところ、食事に対するご意見、ご要望	15
	10			感染予防のため行わず	—
	11	20	3	感染症予防に関して、12月の行事について、お正月について	12
	12		4	感染予防のため行わず	12
	1	6	3	お正月、おせち料理について、面会について、今年の抱負を伺う。年末年始の予定について、イベントなどの説明	11
	3	2		感染予防のため行わず	—
	3	2	3	やりたこと、食べたいもの、ご家族の面会についてのお知らせ	10

(平塚橋)

(単位：人)

年	月	日	実施階	主な懇談内容	参加人数	
2	4	1	2	施設での生活、面会、感染症、食事	4	
	5	13	4	施設での生活、好きな食事、水分補給、感染症	6	
	6	10	3	施設での生活、食事、水分補給、感染症	7	
	7	1	4	最近の楽しみ、食事、水分補給、感染症	8	
	8	5	3	台風の話、食事、熱中症、感染症	7	
	9	2	3	敬老の日、好きな食事、熱中症、感染症	8	
	10	7	3	施設での生活、感染症	8	
	11	4	2	施設での生活、感染症、好きな食事	8	
	12	2	2	施設での生活、感染症、好きな食事	8	
	3	1		—	感染予防のため行わず	—
		2		—	感染予防のため行わず	—
		3	3	4	施設での生活、好きな食事	8

6) セルフチェックシート (自己評価表)

平成15年から区内施設の自主的な取り組みとして、「品川区施設サービス研究会」が立ち上げられ、セルフチェックシートの開発、運用を行ってきた。セルフチェック(自己評価)を実施し、18年を経過し定着してきている。

今回のセルフチェックは一昨年までの「A」「B」「C」3段階の評価を踏襲しつつ、さらに分析できるように「S」(「A」が50%以上)、「D」(「C」が50%以

上)を加えた5段階で集計を行い向上、改善への活用を図ることとした。

成 幸

セルフチェックの総括

今年度は介護、看護、訓練の職務経験3年以上の職員28名を対象とした。今回は区より指定があった71項目を評価した。集計すると「S」「A」の割合が66%、「B」が27.3%、「C」と「D」が6.7%であり、昨年度と比較して「S」「A」評価が低下し、「B」評価が増えている。また、「D」評価が2つ挙げられていた。

改善した項目として「働きやすい職場環境」、「認知症利用者への対応」がある。働きやすい職場環境については「A」評価から「S」評価へ上がったものが2項目、「B」評価から「A」評価へと上がったものが1項目あった。「S」評価となったのは職場の安全管理、職員の健康管理への配慮とハラスメント等への対応の項目である。「働きやすい職場環境」の評価は昨年度より見守りカメラを導入し、使用に慣れたことなども負担軽減に繋がった要因と考えられる。見守りカメラは今年度も追加購入の予定があり、さらなる負担軽減が見込まれる。

認知症利用者への対応項目ではマンツーマンの対応、安心して過ごせる雰囲気づくりがどちらも「B」評価から「A」評価へ上がっている。限られた職員数ではあるが、フロアのテーブルレイアウトを変更することや映画上映、動画配信サービスを活用して懐かしい音楽を流すなど人手が少なくても効果的な工夫をした結果だと思われる。

外出の機会は昨年度よりさらに厳しい評価となっている。特に外出機会の確保については「C」評価から「D」評価へと下がっている。コロナ禍により受診以外の外出がほぼ皆無となってしまったことが影響としてあるが、可能な限りベランダや屋上での外気浴は行っているので「外出実現」項目の評価は「A」となったと思われる。施設の外に出ていくことは難しいが、外気浴などの外出援助は継続できていることをきちんと評価していると判断できる。

生活づくり項目内の、プログラムの充実が「A」から「C」評価へと下がっている。これまで行えたボランティアによる活動や館内行事が中止になったことで活動プログラムが減ったことが要因と思われる。コロナ禍の収束以降は様々な活動を再開したいと考えている。

戸越台

セルフチェックの総括

今回も介護、看護、栄養、訓練の各セクションの常勤職員を対象とし、25名が評価を行った。今回135項目中S評価が79.3%、A評価7.4%、B評価は14.3%であった。

今年度は、新型コロナウイルス感染症の感染予防に努め現在感染症を発症することなく施設運営を行えている。まだ改修工事に伴う業者の出入りがあるので利用者との接触に注意し、外部からの持ち込みがないように注意している。イベントや外出、面

会などを例年のように行えない分、工夫を重ね利用者がストレスをためないように取り組んでいる。

ホームの定員増加に伴い、19名の新入所を迎えたが職員の人数に変わりはなく、ボランティア活動も中止となり職員の負担が増したため、働きやすい職場環境に関する記述欄への記載が多かった。業務の再構築に併せ、業務の省力化・効率化に取り組んできたが労働力不足は顕著である。今後はさらにICTの導入をすすめ、職員の負担軽減に向け積極的に取り組む。

ADLの重度化により食事介助の負担が増し、ゆっくり食事をしていただく雰囲気や、残存機能を活かした対応をする余裕がないという意見があった。自力摂取がすすむように食事の姿勢や自助具の工夫などで利用者の力を引き出せる介助ができるよう取り組んでいく。

自立支援を心掛けているが、自発的な行動を見守るだけの余裕がなく介助をしてしまうことがある。ケアプラン会議以外でも利用者の対応方法を検討する機会を設け、利用者にあった対応方法を多職種で話し合い取り組んでいく。

特定のご利用者のBPSDがみられる時の対応に苦慮する時があり、フロア全体が落ち着かなくなったり、利用者・職員共にストレスを抱えてしまう。職員のストレスマネジメントにも配慮していく必要がある。あらゆる発想から対応を工夫し、うまく対応できた情報を共有し、適切なケアを実施できるよう取り組んでいく。

荏 原

セルフチェックの総括

今年度は特養、ショートステイ、相談員の計42名の職員を対象としてセルフチェックを実施した。

結果、1の食事の項目で昨年度はC評価であった衛生管理の部分がBまたはS評価となった。これに関しては、コロナ禍でのさまざまな対応が評価の向上につながったと思われる。今後も感染症対応を含めた食事の衛生管理には十分留意していきたい。食事の選択では、以前は数日前に食事を選択してもらっていたが、前日または当日に選択してもらった食事を提供することで、より利用者が食事を楽しめるようになったとの意見もあった。

6の外出の援助では全ての項目がD評価となった。感染症対応の中で外出の支援が行えず、さまざまな行事が中止となってしまったことなどが大きな要因と考えられる。今後は感染症対応時における新しい生活様式の中で、利用者の過ごし方などをさまざまな視点から工夫していく必要がある。

7. 会話の項目に関しては介護技術・マナー委員会での取り組みにより評価が改善され、全ての項目がB評価以上となっている。しかし、職員の利用者に対する言葉遣いが不適切になってしまっているとの意見もあった。このようなことも踏まえると、今後も引き続き取り組みを継続していく必要がある。

12の看護的対応については、褥瘡予防対策を除き全ての項目がSまたはA評価とな

っている。その中でも看取りの対応については、終末期の利用者のケアの充実には欠かせない。利用者の健康管理も含めて今後も力を入れて取り組んでいく。

今回のセルフチェックを総括すると、コロナ禍での感染症対応の中で、環境整備、その他衛生管理等についての項目が高評価となっている。しかし、その反面、外出の援助など利用者のケアに関する課題が浮かび、合わせて職員の負担の増大もみられた。働きやすい職場環境の項目の中で、人員の確保についての意見が多数あった。それについては早急に取り組んでいく必要がある。合わせて利用者のケアの質の向上についても、新たな課題も踏まえた上で取り組んでいくことが重要となっている。

平塚橋

セルフチェックの総括

今年度も、介護、看護、訓練、栄養の各セクションで在職3年以上を対象とし、34名で実施した。

評価が「D」となった6項目は、「外出」「レクリエーション」等で、コロナ禍において、実施が難しいものであった。外出はできないが、4階ベランダで行っている園芸活動を行った。レクリエーションにおいては、例年実施しているおやつ作りや1階ゆうゆうプラザでのイベント参加ができなかったことが影響していると思われる。

評価が「C」となった6項目においても、コロナ禍において集合型の研修が難しく、資料の配布などになったことがあげられる。「労働力不足への配慮」においても、ボランティアの活用ができなかった。また、「キャリアパスの取組」においては、システムとしては構築されているが、人員不足の中での運用が難しかった。

「S」「A」「B」となった項目では、利用者に対するケアの面が評価されており、これまで取り組んできたものに対して一定の評価が出たものと思われる。今後も継続して取り組んでいきたい。

栄養・調理

7) 個別の栄養状態に着目した栄養ケアマネジメントに基づいた特別な対応

<療養食の対応>

(単位：件)

項目	成幸	戸越台	荏原	平塚橋
糖尿病食	3	1	6	—
腎臓食	1	1	—	1
心臓病食	—	—	1	3
肝臓食	—	—	1	—
胃潰瘍食	—	—	—	—
貧血食	1	1	2	1
膵臓食	—	—	—	—
脂質異常症	—	—	—	3
痛風食	—	—	—	—

<個人対応>

(単位：件)

項目	成幸	戸越台	荏原	平塚橋
摂食障害	25	19	60	32
摂食嚥下	51	46	66	36
低体重	24	20	46	22
栄養障害	17	10	29	17
過体重	1	8	3	14
機能障害	20	17	23	28
その他	57	50	67	26

<食事形態>

(単位：件)

項目	成幸	戸越台	荏原	平塚橋
常食・刻み	30	23	34	45
極刻み	23	—	—	—
ソフト食	7	26	43	23
ペースト食	12	9	19	7
ゼリー食	—	—	—	3
その他	3	3	6	5

8) 残菜・嗜好調査

今年度は、特別養護老人ホーム、在宅の利用者において、主菜の常食と介護食の残菜率を比較した。

【残菜調査】

実施期間：第1回調査 令和2年10～11月（それぞれ1週間を調査期間とする）

第2回調査 令和3年2～3月

方 法：今回は、主菜（肉料理・魚料理）の調理法における残菜調査を行った。

- ・肉料理：豚肉の生姜焼き、油淋鶏、鶏肉クリーム煮
- ・魚料理：魚ムニエル、竜田揚げ、鯖味噌煮、
- ・調理法：①焼き物、②揚げ物、③煮物

四施設の残菜率

（単位：％）

		四施設平均				成 幸				戸越台				荏 原				平塚橋			
		特養		在宅		特養		在宅		特養		在宅		特養		在宅		特養		在宅	
		常食	介護食	常食	介護食	常食	介護食	常食	介護食	常食	介護食	常食	介護食	常食	介護食	常食	介護食	常食	介護食	常食	介護食
肉	① 豚肉生姜焼き	6.3	7.1	3.6	4.1	5.9	0.2	2.5	16.3	3.8	2.0	9.8	0.0	2.8	5.4	1.9	0.0	13.0	21.0	21.8	0.0
	② 油淋鶏	3.7	5.3	1.8	1.4	6.8	4.5	3.4	0.0	3.6	2.7	1.2	0.0	2.3	3.1	2.8	5.5	2.0	11.0	0.0	63.4
	③ 鶏クリーム煮	6.3	9.8	3.5	2.6	3.7	5.1	9.0	10.5	5.4	12.2	4.3	0.0	4.9	4.5	0.8	0.0	11.1	17.4	1.2	26.3
魚	① 魚ムニエル	8.1	7.4	4.4	0.0	11.6	4.4	8.8	0.0	5.8	2.6	3.9	0.0	4.2	4.6	5.1	0.0	11.0	18.0	18.8	0.0
	② 竜田揚げ	7.4	9.0	0.8	2.6	5.3	6.7	1.7	0.0	6.4	2.2	0.5	0.0	4.2	5.2	1.1	10.5	13.6	21.9	20.8	0.0
	③ 鯖味噌煮	6.8	9.4	5.0	9.6	5.9	5.6	15.8	23.9	6.9	5.3	1.6	0.0	4.1	6.6	2.5	14.6	10.1	19.4	3.9	11.5

常食において、特養では、油淋鶏、豚肉の生姜焼きなどの肉料理が、魚ムニエル、竜田揚げなどの魚料理より残菜率が低かった。在宅では、竜田揚げ、油淋鶏などの揚げ物の残菜率が低かったが、これは、在宅で作りやすい料理は残菜率が高く、そうでない料理の残菜率が低くなったのではないかと推察する。

介護食において、特養では、油淋鶏、豚肉の生姜焼きなど味がはっきりしている料理、また魚ムニエルなどのコクがある料理の残菜率が低い傾向にあった。在宅では、介護食の摂食人数が少なかったため、個人的な嗜好に影響を受けやすかったのではと考えられる。

9) 選択食、団らん食、お楽しみ食、その他

[行事食]

利用者が楽しみにしているものであり、生活に変化や潤いを持たせるために導入している。

a) 選択食

喫食者が自由に食べ物を選択できる機会を広げた。

利用者から2つのメニューから事前に選択してもらい実施した。

成 幸ホーム：年36回 主菜選択(24回)、主食選択(12回)

戸越台ホーム：年36回 主菜選択(24回)、主食選択(12回)

荏 原ホーム：年33回 主菜選択(10回)、主食・主菜選択(23回)

平塚橋ホーム：年36回 主菜選択(24回)、主食選択(12回)

b) 団らん食・おやつ作り

できるだけ家庭の団欒の雰囲気近づけるため、各フロアにて対応するとともに料理をすることで機能低下を防ぎ、回想法も取り入れ実施している。

実施に際しては、利用者からメニューの希望を伺い行った。

令和2年度は、新型コロナウイルス感染予防対策を行いながら実施した。

成 幸ホーム：年6回 (焼きそば、お好み焼き、フルーチェなど)

戸越台ホーム：年8回 (冷やし中華、ハンバーグ、野菜・肉餃子、秋刀魚など)

荏 原ホーム：未実施

平塚橋ホーム：未実施

c) お楽しみ食：選択制とし、日常とは異なった食材を取り入れ、より利用者が楽しめる料理を提供した。

(成 幸)

回数	実施日	内 容
13回	4 / 8	桜ご飯、春の天ぷら盛合わせ、蒟土佐煮、和菓子など
	5 / 22	しぐれご飯、天ぷら盛合わせ、若竹煮、メロンなど
	6 / 8	枝豆ご飯、天ぷら盛合わせ、夏野菜炊き合わせなど
	7 / 7	七夕ちらし寿司、冬瓜水晶煮、トマトとズッキーニのマリネなど
	8 / 3	ちらし寿司、飛竜頭含め煮、香味野菜和え、抹茶ケーキなど
	9 / 19	松茸ご飯、天ぷら盛合わせ、菊花和え、季節の果物など
	10 / 29	栗ご飯、季節の天ぷら、柿なます、サーモンロール、和菓子など
	11 / 10	ちらし寿司、炊き合わせ、茶碗蒸し、テリーヌ風、和菓子など
	12 / 12	えびチキンピラフ、ミートローフ、ツリーサラダ、プチケーキなど
	1 / 1	祝い雑煮、寿三点盛、数の子山葵和え、栗きんとん、屠蘇など
	1 / 1	鰻井、岩石玉子、梅花田楽、昆布巻き、金柑甘煮、花びら羊羹など
	2 / 12	赤飯、天ぷら、茶わん蒸し雲丹ソース、吉野汁、いちごなど
	3 / 3	弥生ちらし、花しんじょう揚げ、蕪カニあんかけ、和菓子など

(戸越台)

回数	実施日	内 容
13回	4 / 8	桜ごはん、刺身、春野菜の天ぷら、ウド酢味噌和え、和菓子など
	5 / 1	しぐれご飯、天ぷら、蒟山吹和え、湯葉浸し、和菓子、メロンなど
	6 / 8	枝豆ご飯、天ぷら、茗荷酢味噌和え、冷やし空也蒸し、メロンなど
	7 / 3	茗荷ご飯、天ぷら、冬瓜水晶煮、枝豆ジュンサイ豆腐、和菓子など
	8 / 5	押しずし、天ぷら、冷やし茶わん蒸し、白瓜シソ和え、和菓子など
	9 / 9	松茸ご飯、天ぷら盛合わせ、菊花和え、蟹寒天、紅白清汁、果物など
	10 / 29	栗ご飯、天ぷら、サーモンロール、柿なます、松茸清汁、和菓子など
	11 / 10	吹き寄せご飯、刺身盛合わせ、飛竜頭、菊花辛子和え、フルーツなど
	12 / 5	冬ちらし、天ぷら、海老芋含め、芹胡麻和え、茶碗蒸し、和菓子など
	1 / 1	祝い雑煮、寿三点盛、数の子山葵和え、栗きんとん、屠蘇など
	1 / 1	鰻井、岩石玉子、梅花田楽、昆布巻き、金柑甘煮、花びら羊羹など
	2 / 12	赤飯、天ぷら、カルパッチョ、カニあんかけ、吉野汁、和菓子など
	3 / 3	弥生ちらし、山菜天ぷら、菜の花胡麻和え、豆腐清汁、いちごなど

(荏原)

回数	実施日	内 容
13回	4 / 8	桜鯛飯、天ぷら盛合せ、蕪と春野菜の煮物など
	5 / 22	筍ご飯、天ぷら盛合わせ、春人参の胡麻和えなど
	6 / 8	焼豚炒飯、豆腐冷菜、八宝菜、蒸し鶏の棒棒鶏ソースなど
	7 / 7	ビビンバ、参鶏湯風スープ、豚肉とズッキーニのジョンなど
	8 / 3	茗荷ご飯、冬瓜と鶏肉の煮物、伊達豆腐、仙草ゼリーなど
	9 / 19	松茸ご飯、海老あられ天ぷら、きのこ松風焼、じゅんさい清汁など
	10 / 29	栗ご飯、新蕎麦茶碗蒸し、魚西京焼き、蕪浸し数の子添えなど
	11 / 10	はらこ飯、帆立フライ、石狩汁、蟹とアスパラの胡麻酢和えなど
	12 / 12	パセリライス、鶏肉オレンジ焼、ポトフ、ケーキ盛合せなど
	1 / 1	祝い雑煮、寿三点盛、数の子山葵和え、栗きんとん、屠蘇など
	1 / 1	鰻井、岩石玉子、梅花田楽、昆布巻き、金柑甘煮、花びら羊羹など
	2 / 15	(新型コロナウイルス感染対応の為中止)
	3 / 24	あさりご飯、山菜の天ぷら、桜茶わん蒸し、ベリーベリーカップなど

(平塚橋)

回数	実施日	内 容
13回	4 / 24	桜ちらし、鯉のたたき、筍おとし揚げ、独活酢味噌和え、和菓子など
	5 / 30	若布ご飯、天ぷら、露山吹和え、湯葉浸し、蟹あんかけ、和菓子など
	6 / 19	枝豆ご飯、天ぷら、茗荷酢味噌和え、空也蒸し、フルーツなど
	7 / 26	茗荷ご飯、天ぷら、冬瓜水晶煮、枝豆じゅんさい豆腐、和菓子など
	8 / 26	押し寿司、飛龍頭含め煮、焼き茄子、冷やし茶碗蒸し、和菓子など
	9 / 13	松茸ご飯、天ぷら、菊花和え、蟹寒天、紅白清汁、栗和菓子など
	10 / 22	栗ご飯、天ぷら、柿生酢、蕎麦入り茶碗蒸し、松茸清汁、和菓子など
	11 / 21	吹き寄せご飯、刺身盛合わせ、菊花辛子和え、フルーツ盛りなど
	12 / 10	冬ちらし、天ぷら、クリスマスサラダ、ケーキなど
	1 / 1	祝い雑煮、寿三点盛、数の子山葵和え、栗きんとん、屠蘇など
	1 / 1	鰻井、岩石玉子、梅花田楽、昆布巻き、金柑甘煮、花びら羊羹など
	2 / 14	あさりご飯、天ぷら、雪中蒸し、ショートケーキなど
	3 / 3	弥生ちらし、春野菜の天ぷら、春菊の辛子和え、菱デザートなど

d) 歳時食（四施設共通）

実施月	行事名	内 容
4月	花まつり	桜ご飯
5月	みどりの日	グリーンピースご飯
	端午の節句	筍ご飯、木の芽焼き
7月	七 夕	七夕素麺
	土用の丑	鰻料理
8月	終戦記念日	すいとん、さつま芋甘煮
	納涼祭	焼そば、枝豆など
9月	防災の日	非常食品
	敬老の日	赤飯、黄金焼き、真砂和え、紅白羊羹など
	秋の彼岸(秋分の日)	おはぎ風おやつ
10月	十五夜	月見にちなんだ料理
11月	文化の日	菊花寿司、炊き合わせ、清汁、フルーツ
12月	冬 至	小豆ご飯、南瓜料理、生姜寒
	クリスマス	ケチャップライス、ローストチキンなど
	大晦日	年越しそば
1月	正 月	おせち料理
	七 草	七草粥
	鏡開き	お汁粉
	小正月	小豆粥
2月	節 分	鰯料理、節分豆ご飯
	バレンタイン	チョコレート菓子
	建国記念日	混ぜ寿司
3月	桃の節句	ちらし寿司、花清汁、桃色羊羹など
	春の彼岸(春分の日)	ぼた餅風おやつ

e) ホーム喫茶

利用者との会話や自立支援を重点に運営した。また、令和2年度は新型コロナウイルス感染予防対策を行いながら実施した。

成 幸ホーム：未実施

戸越台ホーム：年6回

10) 栄養出納表 (年間平均)

区 分	成 幸		戸越台		荏 原		平塚橋	
	食事摂取基準	栄 養 出納量						
エネルギー(kcal)	1,233	1,397	1,327	1,390	1,215	1,476	1,345	1,460
タンパク質(g)	57.7	55.8	56.5	57.3	51.5	57.1	55.8	57.8
カルシウム(mg)	600	640	600	792	582	701	600	707
鉄(mg)	6.2	6.1	6.2	6.9	5.8	6.5	6.3	7.5
レチノール当量(μ g)	675	607	600	719	643	665	690	565
ビタミンB ₁ (mg)	1.00	0.77	1.00	0.81	0.78	0.82	1.00	0.77
ビタミンB ₂ (mg)	1.10	0.96	1.10	1.02	0.87	1.02	1.10	0.97
ビタミンC(mg)	100	76	90	89	97	85	100	87
食物繊維(g)	15.0	11.7	13.0	12.4	16.5	12.5	13.0	12.3

食事摂取基準については、日本人の食事摂取基準の策定方針に基づいて算出した。
基準量よりも低い値については、個別により強化（栄養補助食品等）をしている。

健康管理

1 1) 受診状況

(1) 各科受診状況

区 分	成 幸		戸越台		荏 原		平塚橋	
	人 数 (人)	延回数 (件)						
内 科	98	1,133	77	1,423	344	1,000	108	1,518
眼 科	24	58	12	23	22	69	35	68
歯 科	25	186	17	39	21	69	46	175
皮 膚 科	9	60	5	13	20	70	29	96
泌尿器科	3	23	1	2	4	11	11	66
耳 鼻 科	—	—	3	4	1	9	3	11
脳 外 科	5	10	10	38	6	7	4	7
整形外科	5	25	5	12	13	14	11	58
神 経 科	5	79	1	4	—	—	3	9
そ の 他	1	17	1	7	—	—	6	13
合 計	175	1,591	132	1,565	431	1,249	256	2,021

(2) 認知症相談（各施設月2回実施）

区 分	R 2 年度	R 元年度	H30年度
成 幸	41人	91人	85人
戸越台	35人	17人	28人
荏 原	49人	87人	49人
平塚橋	48人	23人	70人

1 2) 利用者の診断病名

疾病名	成 幸	戸越台	荏 原	平塚橋
心疾患	30	17	20	21
高血圧症	46	26	33	41
ペースメーカー	—	2	1	3
閉塞性動脈硬化症	—	—	—	4
呼吸器疾患	—	7	4	14
脳卒中	21	17	20	24
てんかん	1	1	2	8
アルツハイマー型認知症	41	29	34	51
レビー小体型認知症	2	3	2	3
脳血管性認知症	—	14	23	7
老年精神病	—	2	4	6
パーキンソン病	4	1	7	7
腎疾患	6	1	1	7
肝胆系疾患	3	11	8	14
B型肝炎	10	—	1	—
C型肝炎	1	2	3	2
ストーマ	—	—	—	2
慢性関節リウマチ	0	1	—	2
骨粗鬆症	6	11	7	25
骨折	0	16	53	37
蜂窩織炎	0	2	2	7
類天疱瘡	0	—	—	2
貧血	10	5	5	7
糖尿病	10	5	10	14

※診断病名が重複している利用者あり

1 3) 入院・退所状況

(単位：人)

施設	入院数	救急車 要請数	病院内 死亡	施設内 死亡	看取り	他施設 内死亡	長期 入院に よる退 園	入院 中
成 幸	10	4	1	1	15	—	1	—
戸越台	21	9	3	1	1	—	3	—
荏 原	53	29	14	—	14	—	2	1
平塚橋	38	20	9	1	11	—	3	3

1 4) 入院者病名および件数

(単位：人)

疾 病 名	成 幸	戸越台	荏 原	平塚橋
肺 炎	0	7	9	19
心 疾 患	0	2	3	4
脳 卒 中	2	3	5	2
癌	0	1	1	1
肝 胆 系 疾 患	2	2	1	
イ レ ウ ス	3	1	2	
尿 路 感 染 症	1	1	5	4
脱 水	—	—	—	—
骨 折	0	1	3	
皮 膚 疾 患	1	—	—	2
精 神 神 経 疾 患	—	—	—	—
精 査	0	—	4	1
そ の 他	1	3	9	5
新 型 コ ロ ナ 感 染 症	—	—	11	—
合 計	10	21	53	38

15) その他

(1) 健康診断

秋健康診断実施対象者全員

(2) ワクチン予防接種実施 (単位：人)

区 分	成 幸	戸越台	荏 原	平塚橋
インフルエンザ	78	54	108	83
肺炎ワクチン	2	1	16	1

(3) 新型コロナウイルスPCR検査実施 (累計) (単位：人)

区 分	成 幸	戸越台	荏 原	平塚橋
行 政 検 査	—	2	294	9
そ の 他	2	—	1	3

(4) 感染症 (単位：件)

区 分	成 幸	戸越台	荏 原	平塚橋
新型コロナウイルス	—	—	13	—
結 核	—	—	—	—
疥 癬	1	—	—	—
M R S A	—	—	—	1
肝炎 (B型)	10	—	1	—
肝炎 (C型)	1	2	3	2
インフルエンザ	—	—	—	—
急性胃腸炎	—	—	—	—

(5) 褥瘡 (単位：件)

成 幸	戸越台	荏 原	平塚橋
2	2	1	14

(6) 処置内容

ガーゼ交換 (褥瘡、切創、皮膚剥離)、湿布貼布、軟膏塗布、酸素吸入 (在宅酸素含む)、浣腸、排便、坐薬挿入、フランドルテープ (ホクナリン含む) 交換、耳鼻咽喉科処置、眼科処置、酸素飽和度チェック、注射 (点滴、筋肉、皮下)、経管栄養、ストマパウチ交換、吸引、その他

16) 機能訓練

訓練内容

(単位：件)

区 分	成 幸	戸越台	荏 原	平塚橋
関節可動域訓練	6,960	5,277	7,496	1312
上下肢筋力強化	4,208	2,068	1,665	681
起居動作訓練	24	1,059	1,168	1
トランスファー訓練	339	869	240	33
立位・歩行訓練	2,375	1,331	1,750	615
歩行器・車椅子操作指導	140	331	204	319
マッサージ	2,972	5,147	6,703	274
集団体操	3,814	81	5,275	—
レクリエーション	3,484	83	5,243	89

2. 在宅サービス

1) 年間利用者状況

①通所介護施設（デイサービス）

成 幸

事業名・区分		月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
		実施日数	26日間	26日間	26日間	27日間	26日間	26日間	27日間
基本 定員20名	総合事業	要支援1	8	9	9	10	9	9	8
		要支援2	9	10	10	10	11	10	12
		認定なし	3	4	3	4	4	4	4
		実人員	20	23	22	24	24	23	24
		利用者延べ人数	122	143	144	160	141	145	150
		1日当たり利用人員	4.7	5.5	5.5	5.9	5.4	5.6	5.5
	基本	要介護1	10	10	12	12	13	11	12
		要介護2	6	5	6	5	5	4	3
		要介護3	7	7	8	7	7	7	6
		要介護4	2	2	3	2	2	3	3
		要介護5	1	1	1	1	1	1	2
		申請中	—	—	—	—	—	—	—
		実人員	26	25	30	27	28	26	26
		利用者延べ人員	241	242	256	261	284	243	236
		1日当たり利用人員	9.3	9.3	9.8	9.7	10.9	9.3	8.7
		平均要介護度	2.2	2.2	2.2	2.1	2.0	2.2	2.2
	総計	利用者延べ人員	363	385	400	421	425	388	386
		1日当たり利用人員	14.0	14.8	15.4	15.6	16.3	14.9	14.3
		予防割合(%)	33.6%	37.1%	36.0%	38.0%	33.2%	37.4%	38.9%
		稼働率(%)	69.8%	74.0%	76.9%	78.0%	81.7%	74.6%	71.5%
認知症 定員10名	予防	要支援1	—	—	—	—	—	—	—
		要支援2	—	—	—	—	—	—	—
		実人員	—	—	—	—	—	—	—
		利用者延べ人数	—	—	—	—	—	—	—
		1日当たり利用人員	—	—	—	—	—	—	—
		介護	要介護1	10	10	10	9	9	11
	要介護2		1	2	2	3	4	5	6
	要介護3		4	4	2	3	3	3	1
	要介護4		3	2	2	2	2	2	2
	要介護5		1	1	1	1	1	1	1
	申請中		—	—	—	—	—	—	—
	実人員		19	19	17	18	19	22	21
	利用者延べ人員		168	159	159	163	181	196	165
	1日当たり利用人員		6.5	6.1	6.1	6.0	7.0	7.5	6.1
	平均要介護度		2.2	2.1	1.9	2.1	2.1	2.0	1.9
	総計	利用者延べ人員	168	159	159	163	181	196	165
		1日当たり利用人員	6.5	6.1	6.1	6.0	7.0	7.5	6.1
		予防割合(%)	—	—	—	—	—	—	—
		稼働率(%)	64.6%	61.2%	61.2%	60.4%	69.6%	75.4%	61.1%
	総計	平均要介護度	2.2	2.1	2.1	2.1	2.0	2.1	2.1
総計(延べ人員)		531	544	559	584	606	584	551	
1日当たり利用人員総計		20.4	20.9	21.5	21.6	23.3	22.5	20.4	
予防割合(%)		23.0%	26.3%	25.8%	27.4%	23.3%	24.8%	27.2%	

	11月	12月	1月	2月	3月	延べ数	平均
	25日間	24日間	24日間	24日間	27日間	308日間	25.7日間
	7	6	6	6	6	93	7.8
	12	11	11	11	12	129	10.8
	4	4	4	3	2	43	3.6
	23	21	21	20	20	265	22.1
	133	113	112	103	125	1,591	132.6
	5.3	4.7	4.7	4.3	4.6		5.2
	11	11	11	13	12	138	11.5
	4	4	4	5	6	57	4.8
	5	5	5	5	4	73	6.1
	2	2	2	2	2	27	2.3
	1	—	—	—	—	9	1.1
	—	—	—	—	—	—	—
	23	22	22	25	24	304	25.3
	199	188	195	210	224	2,779	231.6
	8.0	7.8	8.1	8.8	8.3		9.0
	2.0	1.9	1.9	1.8	1.8		2.1
	332	301	307	313	349	4,370	364.2
	13.3	12.5	12.8	13.0	12.9		14.2
	40.1%	37.5%	36.5%	32.9%	35.8%		36.4%
	66.4%	62.7%	64.0%	65.2%	64.6%		70.9%
	—	—	—	—	—	—	—
	—	—	—	—	—	—	—
	—	—	—	—	—	—	—
	—	—	—	—	—	—	—
	—	—	—	—	—	—	—
	9	9	10	10	11	119	9.9
	3	3	2	2	2	35	2.9
	1	2	2	2	2	29	2.4
	2	2	2	2	2	25	2.1
	1	—	—	—	—	8	1.0
	—	—	—	—	—	—	—
	16	16	16	16	17	216	18.0
	154	157	149	148	174	1,973	164.4
	6.2	6.5	6.2	6.2	6.4		6.4
	1.9	1.8	1.8	1.8	1.7		1.9
	154	157	149	148	174	1,973	164.4
	6.2	6.5	6.2	6.2	6.4		6.4
	—	—	—	—	—		—
	61.6%	65.4%	62.1%	61.7%	64.4%		64.1%
	2.0	1.9	1.8	1.8	1.8		2.0
	486	458	456	461	523	6,343	528.6
	19.4	19.1	19.0	19.2	19.4		20.6
	27.4%	24.7%	24.6%	22.3%	23.9%		25.1%

成 幸

事業名・区分	月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月		
	実施日数	26日間	26日間	26日間	27日間	26日間	26日間	27日間		
短時間・障害者延べ人員		45	56	58	78	66	62	62		
その他利用		—	—	—	—	—	—	—		
身近でトレーニング	日数	—	—	—	—	—	—	—		
	実人員	—	—	—	—	—	—	—		
	延べ人数	—	—	—	—	—	—	—		
	1日当たり利用人員	—	—	—	—	—	—	—		
送迎	基本デイサービス	458	458	484	501	548	485	464		
	認知症デイサービス	334	317	317	324	360	370	307		
	総合事業	114	128	136	152	128	132	155		
	乗車延べ人数合計	906	903	937	977	1,036	987	926		
	1日当たり利用人員	34.8	34.7	36.0	36.2	39.8	38.0	34.3		
入浴	日数	26	26	26	27	26	26	27		
	総合	実利用者	12	14	15	16	16	15	16	
		延べ人数	70	87	92	98	89	90	93	
	基本	実利用者	25	23	28	25	25	23	24	
		延べ人数	168	160	183	177	177	153	154	
	認知	実利用者	14	13	11	12	13	16	16	
		延べ人数	84	81	77	79	86	108	90	
	1日当たり利用人員	12.4	12.6	13.5	13.1	13.5	13.5	12.5		
	訓練	機能訓練延べ人数	183	185	184	197	186	175	174	
1日当たり利用人員		7.0	7.1	7.1	7.3	7.2	6.7	6.4		
配食	配食延べ人数	81	84	81	94	90	91	52		
	1日当たり利用人員	3.1	3.2	3.1	3.5	3.5	3.5	1.9		

	11月	12月	1月	2月	3月	延べ数	平均
	25日間	24日間	24日間	24日間	27日間	308日間	25.7日間
	55	65	56	69	76	748	62.3
	—	—	—	—	—	—	—
	—	—	—	—	—	—	—
	—	—	—	—	—	—	—
	—	—	—	—	—	—	—
	—	—	—	—	—	—	—
	397	374	378	405	437	5,389	449.1
	284	293	281	279	325	3,791	315.9
	126	121	123	107	152	1,574	131.2
	807	788	782	791	914	10,754	896.2
	32.3	32.8	32.6	33.0	33.9		34.9
	25	24	24	24	27	308	25.7
	16	14	14	13	14	175	14.6
	102	71	71	64	83	1,010	84.2
	21	20	20	23	21	278	23.2
	134	124	121	133	143	1,827	152.3
	13	11	12	12	13	156	13.0
	76	70	70	73	89	983	81.9
	12.5	11.0	10.9	11.3	11.7		12.4
	145	139	146	139	148	2,001	166.8
	5.8	5.8	6.1	5.8	5.5		6.5
	45	40	64	59	52	833	69.4
	1.8	1.7	2.7	2.5	1.9		2.7

戸越台

事業名・区分		月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	
		実施日数	26日間	26日間	26日間	27日間	26日間	25日間	27日間	
基本 定員30名	総合事業	要支援1	3	3	4	4	4	4	7	
		要支援2	11	11	12	9	10	11	13	
		認定なし	—	1	2	2	3	2	3	
		実人員	14	15	18	15	17	7	23	
		利用者延べ人数	73	78	102	94	103	101	128	
		1日当たり利用人員	2.8	3.0	3.9	3.5	4.0	4.0	4.7	
	基本	要介護1	17	15	17	17	16	16	16	
		要介護2	13	14	14	16	17	15	16	
		要介護3	5	7	8	8	7	6	7	
		要介護4	—	—	—	—	1	3	3	
		要介護5	1	1	1	1	1	—	—	
		申請中	—	—	2	1	—	—	—	
		実人員	36	37	42	43	42	40	42	
		利用者延べ人員	335	360	410	420	402	384	447	
		1日当たり利用人員	12.9	13.8	15.8	15.6	15.5	15.4	16.6	
	平均要介護度	1.9	1.9	1.9	1.9	1.9	1.9	1.9		
	総計	利用者延べ人員	408	438	512	514	505	485	575	
		1日当たり利用人員	15.7	16.8	19.7	19.0	19.4	19.4	21.3	
		予防割合(%)	17.9%	17.8%	19.9%	18.3%	20.4%	20.8%	22.3%	
		稼働率(%)	52.3%	56.2%	65.6%	63.5%	64.7%	64.7%	71.0%	
	認知症 定員10名	予防	要支援1	—	—	—	—	—	—	—
			要支援2	—	—	—	—	—	—	—
			実人員	—	—	—	—	—	—	—
			利用者延べ人数	—	—	—	—	—	—	—
			1日当たり利用人員	—	—	—	—	—	—	—
			介護	要介護1	—	—	—	—	—	—
		要介護2		—	—	—	—	—	—	—
要介護3		—		—	—	—	—	—	—	
要介護4		—		—	—	—	—	—	—	
要介護5		—		—	—	—	—	—	—	
申請中		—		—	—	—	—	—	—	
実人員		—		—	—	—	—	—	—	
利用者延べ人員		—		—	—	—	—	—	—	
1日当たり利用人員		—		—	—	—	—	—	—	
平均要介護度		—	—	—	—	—	—	—		
総計		利用者延べ人員	—	—	—	—	—	—	—	
		1日当たり利用人員	—	—	—	—	—	—	—	
		予防割合(%)	—	—	—	—	—	—	—	
		稼働率(%)	—	—	—	—	—	—	—	
総計		平均要介護度	1.9	1.9	1.9	1.9	1.9	1.9	1.9	
	総計(延べ人員)	408	438	512	514	505	485	575		
	1日当たり利用人員総計	15.7	16.8	19.7	19.0	19.4	19.4	21.3		
	予防割合(%)	17.9%	17.8%	19.9%	18.3%	20.4%	20.8%	22.3%		

※大規模改修工事のため認知症事業を休止

戸越台

事業名・区分	月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月		
	実施日数	26日間	26日間	26日間	27日間	26日間	25日間	27日間		
短時間・障害者延べ人員		—	—	—	—	—	—	3		
その他利用		—	—	—	—	—	—	—		
身近でトレーニング	日数	—	—	—	—	—	—	4		
	実人員	—	—	—	—	—	—	10		
	延べ人数	—	—	—	—	—	—	39		
	1日当たり利用人員	—	—	—	—	—	—	9.75		
送迎	基本デイサービス	335	350	389	394	374	349	402		
	認知症デイサービス	—	—	—	—	—	—	—		
	総合事業	140	152	171	157	168	152	182		
	乗車延べ人数合計	475	502	560	551	542	501	584		
	1日当たり利用人員	18.3	19.3	21.5	20.4	20.8	20.0	21.6		
入浴	日数	26	26	26	27	26	25	23		
	総合	実利用者	11	11	11	9	7	8	11	
		延べ人数	56	59	58	57	50	48	52	
	基本	実利用者	31	32	34	35	35	32	35	
		延べ人数	254	269	278	273	268	245	284	
	認知	実利用者	—	—	—	—	—	—	—	
		延べ人数	—	—	—	—	—	—	—	
	1日当たり利用人員	11.9	12.6	12.9	12.2	12.2	11.7	14.6		
	訓練	機能訓練延べ人数	381	405	448	450	452	435	492	
1日当たり利用人員		14.7	15.6	17.2	16.7	17.4	17.4	18.2		
配食	配食延べ人数	131	131	132	152	189	154	162		
	1日当たり利用人員	5.0	5.0	5.1	5.6	7.3	6.2	6.0		

	11月	12月	1月	2月	3月	延べ数	平均
	25日間	24日間	24日間	24日間	27日間	307日間	25.6日間
	—	—	—	—	—	3	0.3
	—	—	—	—	—	—	—
	4	4	4	4	4	24	4.0
	10	10	10	10	10	60	10.0
	35	38	36	38	37	223	37.2
	8.8	9.5	9	9.5	9.25		9.3
	337	304	288	250	274	4,046	337.2
	—	—	—	32	34	66	9.4
	206	189	180	169	184	2,050	170.8
	543	493	468	451	492	6,162	513.5
	21.7	20.5	19.5	18.8	18.2		20.0
	21	20	20	20	22	282	23.5
	16	16	17	14	15	146	12.2
	89	84	88	81	95	817	68.1
	32	31	31	31	31	390	32.5
	254	228	220	207	232	3,012	251.0
	—	—	—	1	1	2	0.2
	—	—	—	12	13	25	2.1
	16.3	15.6	15.4	15.0	15.5		13.8
	481	413	428	446	493	5,324	443.7
	19.2	17.2	17.8	18.6	18.3		17.4
	122	108	111	118	154	1,664	138.7
	4.9	4.5	4.6	4.9	5.7		5.4

荏 原

事業名・区分		月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
		実施日数	26日間	26日間	26日間	27日間	26日間	26日間	27日間
基本 定員40名	総合事業	要支援1	20	17	21	22	22	22	20
		要支援2	21	21	23	22	21	21	19
		認定なし	1	—	2	2	2	2	1
		実人員	42	38	46	46	45	45	40
		利用者延べ人数	226	214	281	288	256	269	232
		1日当たり利用人員	8.7	8.2	10.8	10.7	9.8	10.3	8.6
	基本	要介護1	26	28	31	34	34	35	34
		要介護2	16	16	18	16	15	14	12
		要介護3	9	10	8	8	9	10	8
		要介護4	6	6	7	7	6	6	7
		要介護5	3	3	3	2	2	2	2
		申請中	—	—	—	—	—	—	—
		実人員	60	63	67	67	66	67	63
		利用者延べ人員	523	545	572	602	606	583	559
		1日当たり利用人員	20.1	21.0	22.0	22.3	23.3	22.4	20.7
	平均要介護度	2.1	2.0	2.0	1.9	1.9	1.9	1.9	
	総計	利用者延べ人員	749	759	853	890	862	852	791
		1日当たり利用人員	28.8	29.2	32.8	33.0	33.2	32.8	29.3
		予防割合(%)	30.2%	28.2%	32.9%	32.4%	29.7%	31.6%	29.3%
		稼働率(%)	72.0%	73.0%	82.0%	82.4%	82.9%	81.9%	73.2%
認知症 定員10名	予防	要支援1	—	—	—	—	—	—	—
		要支援2	—	—	—	—	—	—	—
		実人員	—	—	—	—	—	—	—
		利用者延べ人数	—	—	—	—	—	—	—
		1日当たり利用人員	—	—	—	—	—	—	—
		要介護1	6	5	5	5	5	5	5
	介護	要介護2	8	7	6	6	9	9	9
		要介護3	1	2	2	2	2	2	2
		要介護4	1	1	1	1	1	1	2
		要介護5	2	2	3	2	2	2	2
		申請中	—	—	—	—	—	—	—
		実人員	20	17	21	16	19	19	20
		利用者延べ人員	139	136	146	157	158	163	177
		1日当たり利用人員	5.3	5.2	5.6	5.8	6.1	6.3	6.6
		平均要介護度	2.0	2.3	2.0	2.3	2.3	2.3	2.4
	総計	利用者延べ人員	139	136	146	157	158	163	177
		1日当たり利用人員	5.3	5.2	5.6	5.8	6.1	6.3	6.6
		予防割合(%)	—	—	—	—	—	—	—
		稼働率(%)	53.5%	52.3%	56.2%	58.1%	60.8%	62.7%	65.6%
総計	平均要介護度	—	2.1	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	
	総計(延べ人員)	888	895	999	1047	1020	1015	968	
	1日当たり利用人員総計	34.2	34.4	38.4	38.8	39.2	39.0	35.9	
	予防割合(%)	25.5%	23.9%	28.1%	27.5%	25.1%	26.5%	24.0%	

	11月	12月	1月	2月	3月	延べ数	平均
	25日間	24日間	24日間	24日間	27日間	308日間	25.7日間
	21	20	17	16	20	238	19.8
	21	18	20	17	21	245	20.4
	2	2	3	5	2	24	2.0
	44	40	40	38	43	507	42.3
	241	235	199	223	281	2,945	245.4
	9.6	9.8	8.3	9.3	10.4		9.6
	35	35	33	31	33	389	32.4
	13	14	13	14	14	175	14.6
	9	9	9	7	9	105	8.8
	7	9	7	7	5	80	6.7
	2	2	2	2	2	27	2.3
	—	—	—	—	—	—	—
	—	—	—	—	—	—	—
	597	548	434	482	569	6,620	551.7
	23.9	22.8	18.1	20.1	21.1		21.5
	1.9	2.0	1.9	1.9	1.9		1.9
	838	783	633	705	850	9,565	797.1
	33.5	32.6	26.4	29.4	31.5		31.1
	28.8%	30.0%	31.4%	31.6%	33.1%		30.8%
	83.8%	81.6%	65.9%	73.4%	78.7%		77.6%
	—	—	—	—	—	—	—
	—	—	—	—	—	—	—
	—	—	—	—	—	—	—
	—	—	—	—	—	—	—
	—	—	—	—	—	—	—
	4	3	3	4	4	54	4.5
	9	9	9	8	7	96	8.0
	2	1	1	1	2	20	1.7
	2	1	2	1	1	15	1.3
	2	2	2	2	2	25	2.1
	—	—	—	—	—	—	—
	19	16	17	16	16	216	18.0
	158	157	147	160	171	1,869	155.8
	6.3	6.5	6.1	6.7	6.3		6.1
	2.4	2.4	2.5	2.3	2.4		2.3
	158	157	147	160	171	1,869	155.8
	6.3	6.5	6.1	6.7	6.3		6.1
	—	—	—	—	—		—
	63.2%	65.4%	61.3%	66.7%	63.3%		60.7%
	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0		2.0
	996	940	780	865	1021	11,434	952.8
	39.8	39.2	32.5	36.0	37.8		37.1
	24.2%	25.0%	25.5%	25.8%	27.5%		25.7%

荏 原

事業名・区分	月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月		
	実施日数	26日間	26日間	26日間	27日間	26日間	26日間	27日間		
短時間・障害者延べ人員		2	—	2	6	7	6	5		
その他利用		—	—	—	—	—	—	—		
身近でトレーニング	日数	—	—	—	3	5	4	4		
	実人員	—	—	—	24	24	22	16		
	延べ人数	—	—	—	49	63	44	29		
	1日当たり利用人員	—	—	—	16.3	12.6	11.0	7.3		
送迎	基本デイサービス	939	992	1,042	1,112	1,108	1,028	1,005		
	認知症デイサービス	265	258	267	284	299	302	336		
	総合事業	389	369	477	478	430	453	421		
	乗車延べ人数合計	1,593	1,619	1,786	1,874	1,837	1,783	1,762		
	1日当たり利用人員	61.3	62.3	68.7	69.4	70.7	68.6	65.3		
入浴	日数	26	26	26	27	26	26	27		
	総合	実利用者	19	19	22	20	20	20	18	
		延べ人数	85	90	113	110	94	100	83	
	基本	実利用者	45	50	47	46	47	49	45	
		延べ人数	284	283	281	285	311	297	272	
	認知	実利用者	15	13	14	13	16	16	16	
		延べ人数	80	78	89	89	89	88	109	
	1日当たり利用人員	17.3	17.3	18.6	17.9	19.0	18.7	17.2		
	訓練	機能訓練延べ人数	282	299	331	367	345	350	330	
1日当たり利用人員		10.8	11.5	12.7	13.6	13.3	13.5	12.2		
配食	配食延べ人数	67	60	58	58	62	60	60		
	1日当たり利用人員	2.6	2.3	2.2	2.1	2.4	2.3	2.2		

	11月	12月	1月	2月	3月	延べ数	平均
	25日間	24日間	24日間	24日間	27日間	308日間	25.7日間
	6	8	1	5	5	53	4.8
	—	—	—	—	—	—	—
	4	4	4	4	4	36	4.0
	23	17	14	14	15	169	18.8
	45	35	22	31	35	353	39.2
	11.3	8.8	5.5	7.8	8.8		9.9
	1,096	926	790	838	1,012	11,888	990.7
	301	299	271	300	322	3,504	292.0
	423	401	349	379	486	5,055	421.3
	1,820	1,626	1,410	1,517	1,820	20,447	1,703.9
	72.8	67.8	58.8	63.2	67.4		66.3
	25	24	24	24	27	308	25.7
	19	17	20	19	23	236	19.7
	89	83	82	91	119	1,139	94.9
	46	49	43	44	46	557	46.4
	293	271	237	260	305	3,379	281.6
	18	15	16	15	15	182	15.2
	103	105	95	106	112	1,143	95.3
	19.4	19.1	17.3	19.0	19.9		18.4
	293	300	233	242	300	3,672	306.0
	11.7	12.5	9.7	10.1	11.1		11.9
	50	44	39	46	53	657	54.8
	2.0	1.8	1.6	1.9	2.0		2.1

小山の家

事業名・区分		月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	
		実施日数	26日間	26日間	26日間	27日間	26日間	26日間	27日間	
認知症 定員10名	予 防	要支援1	—	—	—	—	—	—	—	—
		要支援2	—	—	—	—	—	—	1	—
		実人員	—	—	—	—	—	—	1	—
		利用者延べ人数	—	—	—	—	—	—	6	—
		1日当たり利用人員	—	—	—	—	—	—	0.2	—
	介 護	要介護1	5	5	5	6	4	4	5	—
		要介護2	7	7	7	3	4	5	6	—
		要介護3	6	6	6	7	6	6	5	—
		要介護4	1	1	1	1	1	1	1	—
		要介護5	—	—	—	—	—	—	—	—
		申請中	—	—	—	—	—	—	—	—
		実人員	19	19	19	20	17	17	17	—
		利用者延べ人員	159	156	143	153	138	138	150	—
		1日当たり利用人員	6.1	6.0	5.5	5.7	5.3	5.3	5.6	—
	平均要介護度	2.2	2.2	2.2	2.2	2.2	2.2	2.1	—	
	総 計	利用者延べ人員	159	156	143	153	138	138	156	—
		1日当たり利用人員	6.1	6.0	5.5	5.7	5.3	5.3	5.8	—
		予防割合 (%)	—	—	—	—	—	—	3.8	—
		稼働率 (%)	61.2%	60.0%	55.0%	56.7%	53.1%	53.1%	57.8%	—
	総 計	平均要介護度	2.2	2.2	2.2	2.2	2.2	2.2	2.3	—
総計 (延べ人員)		159	156	143	153	138	138	156	—	
1日当たり利用人員総計		6.1	6.0	5.5	5.7	5.3	5.3	5.8	—	
予防割合 (%)		—	—	—	—	—	—	3.9%	—	

	11月	12月	1月	2月	3月	延べ数	平均
	25日間	24日間	24日間	24日間	27日間	308日間	25.7日間
	—	—	—	—	—	—	—
	1	1	1	1	1	6	0.5
	1	1	1	1	1	6	0.5
	8	8	8	9	9	48	8.0
	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3		0.3
	5	4	4	6	6	59	4.9
	3	3	2	2	6	55	4.6
	5	4	4	3	2	60	5.0
	1	1	1	1	1	12	1.0
	—	—	—	—	—	—	—
	—	—	—	1	—	1	0.1
	17	15	15	17	15	207	17.3
	138	111	120	131	129	1,666	138.8
	5.5	4.6	5.0	5.5	4.8		5.4
	2.1	2.1	2.1	2.0	2.0		2.1
	146	119	128	139	138	1,713	142.8
	5.8	5.0	5.3	5.8	5.1		5.6
	5.5	6.7	6.3	5.8	6.5		5.8
	58.4%	49.6%	53.3%	57.9%	51.1%		55.6%
	2.4	2.4	2.4	2.2	2.2		2.3
	146	119	128	139	138	1,713	142.8
	5.8	5.0	5.3	5.8	5.1		5.6
	5.5%	6.7%	6.3%	5.8%	6.5%		5.8%

小山の家

事業名・区分		月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
		実施日数	26日間	26日間	26日間	27日間	26日間	26日間	27日間
短時間・障害者延べ人員			—	—	—	—	—	—	—
その他利用			—	—	—	—	—	—	—
身近でトレーニング	日数		—	—	—	—	—	—	—
	実人員		—	—	—	—	—	—	—
	延べ人数		—	—	—	—	—	—	—
	1日当たり利用人員		—	—	—	—	—	—	—
送迎	基本デイサービス		—	—	—	—	—	—	—
	認知症デイサービス		269	257	237	253	245	238	276
	総合事業		—	—	—	—	—	—	—
	乗車延べ人数合計		269	257	237	253	245	238	276
	1日当たり利用人員		10.3	9.9	9.1	9.4	9.4	9.2	10.2
入浴	日数		26	26	26	27	26	26	27
	総合	実利用者		—	—	—	—	—	—
		延べ人数		—	—	—	—	—	—
	基本	実利用者		—	—	—	—	—	—
		延べ人数		—	—	—	—	—	—
	認知	実利用者		11	11	12	11	11	11
		延べ人数		65	71	69	62	62	58
	1日当たり利用人員		3.1	3.2	3.1	2.8	2.8	2.6	2.9
訓練	機能訓練延べ人数		—	—	—	—	—	—	—
	1日当たり利用人員		—	—	—	—	—	—	—
配食	配食延べ人数		—	—	—	—	—	—	—
	1日当たり利用人員		—	—	—	—	—	—	—

	11月	12月	1月	2月	3月	延べ数	平均
	25日間	24日間	24日間	24日間	27日間	308日間	25.7日間
	—	—	—	—	—	—	—
	—	—	—	—	—	—	—
	—	—	—	—	—	—	—
	—	—	—	—	—	—	—
	—	—	—	—	—	—	—
	—	—	—	—	—	—	—
	—	—	—	—	—	—	—
	232	191	206	239	231	2,874	239.5
	—	—	—	—	—	—	—
	232	191	206	239	231	2,874	239.5
	9.3	8.0	8.6	10.0	8.6	—	9.3
	25	24	24	24	27	308	25.7
	—	—	—	—	—	—	—
	—	—	—	—	—	—	—
	—	—	—	—	—	—	—
	—	—	—	—	—	—	—
	11	11	11	11	10	132	11.0
	63	51	56	62	61	744	62.0
	3.0	2.7	2.8	3.1	2.7	—	2.9
	—	—	—	—	—	—	—
	—	—	—	—	—	—	—
	—	—	—	—	—	—	—
	—	—	—	—	—	—	—

②短期入所生活介護施設（ショートステイ）

成幸ショートステイ月別利用状況（定員16名）

区 分	合計人数	延利用日数	1日平均人数	送迎利用者	稼働率%
4月	22	247	8.2	43	51.5
5月	22	258	8.3	48	52.0
6月	22	265	8.8	42	55.2
7月	28	269	8.5	57	54.2
8月	34	346	11.2	59	69.8
9月	25	255	8.5	44	53.1
10月	28	294	9.4	49	59.3
11月	31	294	9.8	45	61.3
12月	29	291	10.4	42	65.0
1月	28	269	9.6	36	60.0
2月	24	253	8.9	32	56.5
3月	21	257	8.2	35	51.8
R2年度 合 計	314	3,298	9.1	532	57.5
R元年度 合 計	335	2,955	8.2	581	51.3
H30年度 合 計	425	3,663	10.2	648	65.2

年間要介護度別利用状況				年平均要介護度
区 分	人 数	%	延べ日数	
要 支 援 1	3	1.0	18	2.7
要 支 援 2	11	3.5	67	
要 介 護 1	60	19.1	563	年平均稼働率 57.5%
要 介 護 2	55	17.5	573	
要 介 護 3	92	29.3	1,218	
要 介 護 4	58	18.5	334	
要 介 護 5	18	5.7	299	
申 請 中	17	5.4	226	
合 計	314	100.0	3,298	

成幸ショートステイは大規模改修のため7月まで8床とした

荏原ショートステイ月別利用状況（定員30名）

区 分	合計人数	延利用日数	1日平均人数	送迎利用者	稼働率%
4月	82	787	26.2	143	87.4
5月	77	744	24.0	140	80.0
6月	82	781	26.0	147	86.8
7月	82	784	25.3	153	84.3
8月	87	851	27.5	141	91.5
9月	82	705	23.5	132	78.3
10月	49	380	12.3	51	40.9
11月	82	767	25.6	124	85.2
12月	78	750	24.2	112	80.6
1月	44	524	16.9	40	56.3
2月	46	410	14.6	62	48.8
3月	72	709	22.9	117	76.2
R2年度 合 計	863	8,192	22.4	1,362	74.7
R元年度 合 計	1,291	11,153	30.4	2,318	101.5
H30年度 合 計	1,233	10,798	30.1	2,245	100.3

年間要介護度別利用状況				年平均要介護度
区 分	人 数	%	延べ日数	
要 支 援 1	8	0.9	38	2.5
要 支 援 2	6	0.7	41	
要 介 護 1	188	21.8	1,648	年平均稼働率 74.7%
要 介 護 2	285	33.0	2,735	
要 介 護 3	167	19.3	1,783	
要 介 護 4	143	16.6	1,228	
要 介 護 5	43	5.0	482	
申 請 中	23	2.7	237	
合 計	863	100.0	8,192	

平塚橋ショートステイ月別利用状況（定員12名）

区 分	合計人数	延利用日数	1日平均人数	送迎利用者	稼働率%
4月	32	295	8.8	65	81.9
5月	32	266	7.5	61	71.5
6月	33	270	7.9	65	75.0
7月	33	283	8.1	70	76.1
8月	34	287	8.3	63	77.2
9月	33	239	6.9	65	66.4
10月	26	244	6.7	61	65.6
11月	29	233	6.8	63	64.7
12月	24	198	5.1	54	58.9
1月	16	150	4.8	33	44.6
2月	22	162	5.0	48	48.2
3月	20	170	4.6	45	45.7
R2年度 合 計	334	2,797	6.7	693	64.7
R元年度 合 計	498	3,591	7.2	976	83.3
H30年度 合 計	573	4,138	9.9	1,080	95.9

年間要介護度別利用状況				年平均要介護度 2.7
区 分	人 数	%	延べ日数	
要 支 援 1	5	1.5	24	年平均稼働率 64.7%
要 支 援 2	2	0.6	49	
要 介 護 1	65	19.5	496	
要 介 護 2	77	23.1	613	
要 介 護 3	119	35.6	1,051	
要 介 護 4	21	6.3	190	
要 介 護 5	43	12.9	373	
申 請 中	2	0.6	1	
合 計	334	100.0	2,797	

2) 機能訓練

訓練内容

(単位：件)

	成 幸	戸越台	荏 原
関節可動域訓練	1,974	5,310	3,689
上下肢筋力強化	1,995	5,310	3,593
起居動作訓練	—	2,370	3,427
トランスファー訓練	—	2,477	3,323
立位・歩行訓練	1,386	5,208	3,419
歩行器・車椅子操作指導	—	333	1,249
マ ッ サ ー ジ	1,901	—	1,522
集 団 体 操	1,967	5,281	3,689
レクレーション	1,954	—	3,680

「踊りでリハビリ」（なじみのある音楽を用いて行うリハビリ舞踊）は新型コロナウイルス感染症のため実施を見合わせた。

3) 食事サービス（ショートステイ・デイサービス・配食）

<喫食者の個別対応>

(単位：人)

項 目	成 幸			戸越台			荏 原			平塚橋
	シ ョ ー ト	デ イ	配 食	シ ョ ー ト	デ イ	配 食	シ ョ ー ト	デ イ	配 食	シ ョ ー ト
定 員	16	30	—	8	30	—	30	50	—	12
療 養 食	19	4	—	—	17	4	—	12	3	7
摂食障害	46	4	—	—	2	—	9	5	—	15
摂食嚥下	75	10	—	—	54	4	79	47	1	116
機能障害	48	2	—	—	50	—	59	15	—	121

※ショートの療養食は、成幸、戸越台、平塚橋は対応した数値、荏原は加算の算定分である。

*戸越台は大規模改修工事のためショートステイを休止。

4) 健康管理

※D. S. はデイサービス、S. S. はショートステイ

①受診及び入院状況

(単位：人)

区 分	成 幸		戸越台		荏 原		平塚橋
	D. S.	S. S.	D. S.	S. S.	D. S.	S. S.	S. S.
受 診	1	42	—	—	2	27	6
入 院	1	1	—	—	—	7	1

②入院時病名

(単位：人)

区 分	成 幸		戸越台		荏 原		平塚橋
	D. S.	S. S.	D. S.	S. S.	D. S.	S. S.	S. S.
肺 炎	—	—	—	—	—	1	1
心 疾 患	—	—	—	—	—	1	—
脳 卒 中	1	—	—	—	—	—	—
骨 折	3	—	—	—	—	1	—
脱 水 ・ 発 熱	—	—	—	—	—	—	—
そ の 他	4	1	—	—	—	4	—
救急車依頼回数	1	1	—	—	1	5	1

③医器処置者数

(単位：人)

区 分	成 幸		戸越台		荏 原		平塚橋
	D. S.	S. S.	D. S.	S. S.	D. S.	S. S.	S. S.
バルーンカテーテル	3	—	2	—	—	—	3
ス ト マ ー	2	—	—	—	—	3	—
貼 付 薬	4	4	12	—	5	10	12
ペースメーカー	1	1	3	—	2	3	—
酸素吸入	—	—	3	—	3	5	2
人工透析	2	—	2	—	—	—	—
胃 ろ う	—	—	1	—	—	—	2
インシュリン注射	—	3	3	—	3	4	—
血糖値チェック	—	—	—	—	3	4	—

戸越台ショートステイは大規模改修工事のため休止

5) 栄養調理

①高齢者と介護者のための料理教室

年6回、4施設の管理栄養士が共働で開催予定であったが、新型コロナウイルス拡大予防対策のため中止とした。今年度は、三徳だよりと共にレシピを配布した。

②ゆうゆうクッキング

法人の地域貢献事業として平塚橋ゆうゆうプラザにおいて地域住民交流を図る「つながりクッキング」を企画した。新型コロナウイルス感染拡大予防対策のため開催は見合わせた。

3. 在宅介護支援センター（在宅介護支援センター）

1) 年間利用者状況

(成 幸)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月
介護保険制度の説明・相談		23	21	32	41	25	32
要介護認定		36	40	34	53	42	40
基本チェックリスト		—	—	—	—	1	6
訪問 サービス	訪問介護	3	1	4	5	2	3
	訪問看護	—	1	1	2	3	1
	その他	—	—	1	2	3	—
通所 サービス	通所介護	7	7	11	5	2	2
	通所リハビリテーション	—	—	—	—	—	1
短期入所		—	—	1	1	—	—
福祉用具	貸与	9	5	4	5	2	3
	購入	1	—	5	1	1	—
住宅改修		2	—	—	—	—	2
(看護) 小規模多機能型居宅介護		—	—	—	—	—	—
総合事業サービス		3	—	9	1	4	16
一般介護予防事業		—	—	—	—	—	—
区独自サービス		2	—	1	—	—	—
施設 サービス	特別養護老人ホーム	—	—	—	2	—	—
	老人保健施設	—	—	1	—	—	1
	認知症対応型共同生活介護 (グループホーム)	—	—	—	—	—	—
	特定施設入居者生活介護	—	—	—	1	1	1
	その他	—	—	—	3	1	—
医療・保健・健康相談		27	12	12	35	49	30
認知症		1	—	1	4	3	1
成年後見		2	—	—	—	—	5
虐待		—	—	—	—	2	—
安否確認		—	1	6	4	4	—
苦情		—	—	1	1	—	3
経済的問題		—	—	—	1	—	1
家族問題		—	—	—	—	—	—
その他		2	2	1	3	1	4
訪問相談		1,057	1,005	1,115	1,179	1,252	1,128
月計		1,175	1,095	1,240	1,349	1,398	1,280

	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年計
	32	27	23	16	32	37	341
	51	47	27	35	38	54	497
	2	2	—	—	—	1	12
	3	2	5	—	1	5	34
	5	2	—	—	2	1	18
	—	—	—	2	1	4	13
	11	7	6	6	12	10	86
	—	1	—	—	3	—	5
	—	—	1	—	—	—	3
	7	8	4	5	19	7	78
	—	1	2	1	2	3	17
	1	—	3	8	4	—	20
	—	—	—	1	1	—	2
	1	6	4	—	—	12	56
	—	—	—	—	—	1	1
	—	1	1	—	2	—	7
	2	—	1	3	6	—	14
	—	1	—	—	—	—	3
	—	2	—	—	—	—	2
	1	—	2	—	—	—	6
	—	—	2	—	—	1	7
	30	12	21	18	24	40	310
	8	2	10	6	1	12	49
	1	1	3	—	—	—	12
	—	—	—	—	—	—	2
	2	1	6	4	1	—	29
	1	—	3	—	—	—	9
	—	—	1	—	—	3	6
	—	3	3	2	2	1	11
	—	1	—	—	—	1	15
	1,205	1,266	1,216	1,225	1,158	1,075	13,881
	1,363	1,393	1,344	1,332	1,309	1,268	15,546

(戸越台)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月
介護保険制度の説明・相談		19	14	26	34	25	21
要介護認定		14	24	28	38	27	20
基本チェックリスト		—	2	—	—	1	1
訪問サービス	訪問介護	1	—	1	7	8	5
	訪問看護	3	3	1	4	5	1
	その他	2	—	—	—	2	—
通所サービス	通所介護	6	2	12	17	5	13
	通所リハビリテーション	—	1	—	—	—	—
短期入所		1	—	2	6	2	7
福祉用具	貸与	10	3	5	5	3	6
	購入	—	2	1	2	—	—
住宅改修		1	—	1	—	—	4
(看護) 小規模多機能型居宅介護		—	—	—	—	—	—
総合事業サービス		—	—	—	—	—	—
一般介護予防事業		—	—	—	—	—	2
区独自サービス		—	1	—	1	—	2
施設サービス	特別養護老人ホーム	1	1	—	—	2	3
	老人保健施設	—	—	—	—	1	1
	認知症対応型共同生活介護 (グループホーム)	—	—	—	—	—	—
	特定施設入居者生活介護	—	—	—	—	—	—
	その他	1	4	4	2	4	6
医療・保健・健康相談		12	29	34	34	37	46
認知症		1	3	2	3	2	5
成年後見		2	—	—	2	—	—
虐待		3	—	1	4	—	1
安否確認		1	2	7	1	6	1
苦情		1	—	—	4	2	—
経済的問題		—	1	4	2	—	—
家族問題		—	—	—	2	—	—
その他		—	—	—	1	—	2
訪問相談		924	882	1,119	1,066	1,165	1,039
月計		1,003	974	1,248	1,235	1,297	1,186

	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年計
	16	12	22	12	25	14	240
	19	26	20	21	18	17	272
	—	2	—	—	—	—	6.0
	6	1	3	3	3	3	41
	3	—	—	—	2	3	25
	—	—	2	—	—	1	7
	12	7	3	9	5	9	100
	—	—	—	—	1	—	2
	2	2	—	—	—	4	26
	4	5	5	2	7	7	62
	1	3	—	1	1	—	11
	2	8	2	5	1	2	26
	—	—	—	—	—	—	—
	—	—	—	—	—	—	—
	—	—	—	—	—	4	6
	3	4	—	—	1	3	15
	4	—	—	1	1	2	15
	—	—	—	1	1	—	4
	—	—	—	—	—	—	—
	2	—	—	1	1	—	4
	1	—	—	2	2	1	27
	37	21	37	32	37	11	367
	—	—	1	3	2	1	23
	—	—	—	—	1	—	5
	3	1	—	—	—	2	15
	1	—	3	9	5	—	36
	—	—	—	—	—	—	7
	2	—	—	—	—	—	9
	1	2	—	—	—	4	9
	—	1	—	—	—	—	4
	1,075	1,043	1,042	995	1,013	948	12,311
	1,194	1,138	1,140	1,097	1,127	1,036	13,675

(杜 松)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月
介護保険制度の説明・相談		23	20	31	33	26	38
要介護認定		30	35	36	39	29	35
基本チェックリスト		—	—	—	2	1	2
訪問 サービス	訪問介護	10	7	8	6	3	3
	訪問看護	6	3	5	6	—	3
	その他	2	3	—	2	2	1
通所 サービス	通所介護	5	10	13	17	8	12
	通所リハビリテーション	—	3	1	2	—	2
短期入所		1	—	—	4	2	—
福祉用具	貸与	7	5	8	8	3	10
	購入	1	—	—	—	2	1
住宅改修		4	4	3	2	3	4
(看護) 小規模多機能型居宅介護		2	—	1	1	—	6
総合事業サービス		—	—	—	—	—	—
一般介護予防事業		—	—	—	—	—	—
区独自サービス		—	1	3	6	5	6
施設 サービス	特別養護老人ホーム	—	1	4	1	3	—
	老人保健施設	2	2	—	2	1	—
	認知症対応型共同生活介護 (グループホーム)	—	—	—	—	—	—
	特定施設入居者生活介護	—	—	—	—	4	2
	その他	—	1	—	1	2	1
医療・保健・健康相談		29	29	49	51	56	39
認知症		3	2	1	2	6	4
成年後見		—	—	—	—	—	—
虐待		—	—	1	1	—	—
安否確認		2	1	3	2	3	2
苦情		—	—	—	1	1	—
経済的問題		—	—	1	1	3	5
家族問題		4	—	—	1	1	4
その他		2	5	6	8	8	1
訪問相談		1,048	881	1,193	1,153	1,212	1,161
月計		1,181	1,013	1,367	1,352	1,384	1,342

	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年計
	21	25	30	24	34	21	326
	36	43	25	33	33	19	393
	—	1	—	—	1	2	9
	4	6	2	7	2	3	61
	2	—	3	3	1	2	34
	—	—	—	—	—	1	11
	14	15	5	11	4	9	123
	—	—	—	—	—	—	8
	—	—	5	—	—	—	12
	6	9	5	6	4	6	77
	1	2	1	—	1	—	9
	3	4	4	6	5	5	47
	—	—	2	—	—	—	12
	—	—	—	—	—	—	—
	—	—	—	—	—	—	—
	3	3	5	2	—	—	34
	2	2	—	1	2	—	16
	3	—	1	—	1	—	12
	—	—	—	—	—	—	—
	2	—	—	2	1	—	11
	—	—	1	1	1	—	8
	27	31	21	18	13	19	382
	4	2	2	1	1	2	30
	—	—	—	—	—	—	—
	2	—	—	—	—	—	4
	3	6	2	8	2	—	34
	—	—	—	—	—	—	2
	2	6	—	—	—	2	20
	—	—	6	—	—	—	16
	4	5	1	4	4	12	60
	1,133	1,111	1,223	1,153	1,133	1,243	13,644
	1,272	1,271	1,344	1,280	1,243	1,346	15,395

(荏 原)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月
介護保険制度の説明・相談		20	9	12	10	10	14
要介護認定		21	35	25	28	27	24
基本チェックリスト		1	—	—	1	—	2
訪問 サービス	訪問介護	1	—	—	3	—	2
	訪問看護	4	1	3	—	—	1
	その他	—	—	—	—	1	—
通所 サービス	通所介護	—	2	4	4	2	5
	通所リハビリテーション	—	—	—	—	—	1
短期入所		—	—	—	—	1	1
福祉用具	貸与	2	2	4	5	4	7
	購入	—	2	—	—	2	1
住宅改修		2	1	2	3	2	2
(看護) 小規模多機能型居宅介護		—	—	—	—	—	—
総合事業サービス		—	—	—	—	—	—
一般介護予防事業		—	—	—	—	—	—
区独自サービス		—	—	—	—	—	1
施設 サービス	特別養護老人ホーム	—	—	1	1	8	—
	老人保健施設	5	1	—	—	—	—
	認知症対応型共同生活介護 (グループホーム)	—	—	—	—	—	—
	特定施設入居者生活介護	—	—	1	—	—	5
	その他	2	1	—	1	—	—
医療・保健・健康相談		14	16	13	15	15	6
認知症		1	2	2	—	3	1
成年後見		—	—	1	2	—	—
虐待		—	1	3	—	—	—
安否確認		—	—	3	—	2	—
苦情		—	—	—	—	—	—
経済的問題		—	—	1	—	2	1
家族問題		1	3	—	—	—	—
その他		3	2	6	4	4	1
訪問相談		734	712	1,016	895	875	913
月計		811	790	1,097	972	958	988

	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年計
	8	3	10	13	8	16	133
	20	33	46	40	21	39	359
	1	2	—	2	1	—	10
	2	—	—	—	—	1	9
	1	2	1	2	—	1	16
	—	—	1	1	1	—	4
	3	2	1	9	4	10	46
	—	1	—	—	—	—	2
	—	—	—	1	—	1	4
	1	2	9	4	4	3	47
	—	—	—	1	—	2	8
	—	—	—	5	—	—	17
	—	—	—	—	—	—	—
	—	—	—	—	—	1	1
	—	—	—	—	—	2	2
	2	—	1	2	—	—	6
	—	3	1	2	4	—	20
	—	—	—	—	—	—	6
	—	—	—	—	—	—	—
	—	—	—	2	—	2	10
	—	—	1	—	—	3	8
	11	11	2	8	9	17	137
	1	—	1	—	1	2	14
	—	—	—	—	—	—	3
	1	3	5	—	—	—	13
	—	—	—	3	—	—	8
	—	—	—	—	—	—	—
	1	—	—	—	—	—	5
	—	—	—	1	—	—	5
	3	—	2	—	1	5	31
	928	959	945	901	919	969	10,766
	983	1,021	1,026	997	973	1,074	11,690

(小 山)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月
介護保険制度の説明・相談		13	9	15	10	15	25
要介護認定		32	30	45	17	45	29
基本チェックリスト		2	1	—	—	—	—
訪問 サービス	訪問介護	1	—	1	4	6	9
	訪問看護	—	1	1	1	—	3
	その他	—	1	2	—	—	—
通所 サービス	通所介護	2	5	6	3	7	4
	通所リハビリテーション	1	—	2	1	—	—
短期入所		—	2	—	—	1	—
福祉用具	貸与	3	3	4	7	6	9
	購入	—	1	—	1	—	—
住宅改修		—	2	3	5	1	7
(看護) 小規模多機能型居宅介護		—	—	—	—	1	—
総合事業サービス		—	—	—	—	2	1
一般介護予防事業		—	—	—	—	—	1
区独自サービス		—	3	1	1	1	—
施設 サービス	特別養護老人ホーム	1	—	3	2	2	—
	老人保健施設	2	1	1	1	1	—
	認知症対応型共同生活介護 (グループホーム)	—	—	—	—	—	—
	特定施設入居者生活介護	2	4	11	7	8	3
	その他	—	1	1	—	2	1
医療・保健・健康相談		32	31	52	41	46	36
認知症		6	7	5	5	9	8
成年後見		1	—	3	7	5	2
虐待		2	—	—	—	3	—
安否確認		1	2	—	3	3	1
苦情		—	—	—	—	5	1
経済的問題		4	—	1	—	3	—
家族問題		3	—	—	—	1	—
その他		2	1	5	5	4	8
訪問相談		1,078	956	1,262	1,164	1,071	1,014
月計		1,188	1,061	1,424	1,285	1,248	1,162

	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年計
	22	11	18	13	21	18	190
	24	25	26	19	40	15	347
	—	1	3	—	—	—	7
	4	3	4	1	1	6	40
	3	1	3	1	1	—	15
	—	1	1	1	—	1	7
	5	11	5	10	5	7	70
	—	—	—	—	—	—	4
	2	1	2	—	1	—	9
	7	11	3	14	1	9	77
	3	2	2	—	1	1	11
	8	3	1	7	5	3	45
	—	—	—	—	—	—	1
	—	—	—	—	—	—	3
	—	—	—	—	—	—	1
	4	2	1	1	1	2	17
	—	1	—	1	5	3	18
	—	1	3	5	2	1	18
	—	—	—	—	—	1	1
	2	5	2	5	—	1	50
	7	5	—	1	—	—	18
	59	39	31	54	52	37	510
	—	4	12	5	5	6	72
	2	—	—	2	—	—	22
	—	—	—	6	2	4	17
	1	3	3	11	—	4	32
	—	—	1	1	—	—	8
	—	—	1	1	3	5	18
	6	5	—	—	1	1	17
	3	3	—	2	9	9	51
	1,137	1,161	1,142	1,063	1,058	1,067	13,173
	1,299	1,299	1,264	1,224	1,214	1,201	14,869

(小山台)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月
介護保険制度の説明・相談		12	10	13	12	14	11
要介護認定		9	17	16	22	14	23
基本チェックリスト		—	—	—	—	—	1
訪問 サービス	訪問介護	3	1	2	2	1	2
	訪問看護	—	—	—	1	3	2
	その他	—	—	—	1	1	—
通所 サービス	通所介護	1	—	—	11	1	5
	通所リハビリテーション	—	—	—	—	—	1
短期入所		—	—	—	—	—	—
福祉用具	貸与	1	5	1	1	4	8
	購入	—	—	—	—	2	—
住宅改修		—	—	7	5	2	4
(看護) 小規模多機能型居宅介護		—	—	—	—	—	—
総合事業サービス		—	—	—	—	—	—
一般介護予防事業		—	—	—	—	—	—
区独自サービス		—	1	—	1	1	5
施設 サービス	特別養護老人ホーム	—	—	1	2	1	1
	老人保健施設	2	1	—	—	—	—
	認知症対応型共同生活介護 (グループホーム)	—	—	—	—	—	—
	特定施設入居者生活介護	3	—	—	—	—	1
	その他	—	2	2	2	1	1
医療・保健・健康相談		12	13	27	30	20	30
認知症		—	—	—	4	—	2
成年後見		—	1	1	—	—	1
虐待		—	—	1	—	—	—
安否確認		—	2	2	5	—	—
苦情		—	—	—	—	—	2
経済的問題		—	—	—	—	—	—
家族問題		1	—	—	—	—	—
その他		1	3	—	—	1	2
訪問相談		438	325	698	625	609	384
月計		483	381	771	724	675	486

	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年計
	17	18	14	13	18	12	164
	11	22	19	13	26	21	213
	2	—	1	—	—	1	5
	2	2	1	3	1	2	22
	1	2	3	1	3	1	17
	—	1	1	3	—	—	7
	1	5	4	1	5	4	38
	—	—	—	—	—	—	1
	—	—	—	—	1	—	1
	3	2	4	1	8	3	41
	—	2	—	1	—	—	5
	2	5	1	1	1	—	28
	—	—	—	—	—	—	—
	—	—	—	—	—	—	—
	—	1	—	—	—	—	1
	—	—	4	1	—	1	14
	—	—	—	4	1	—	10
	—	—	—	—	1	1	5
	—	2	—	—	—	—	2
	1	1	—	4	1	—	11
	—	1	—	2	2	1	14
	21	12	24	20	28	23	260
	1	2	1	—	1	1	12
	—	—	—	—	1	—	4
	—	—	—	—	—	—	1
	1	3	—	—	11	—	24
	—	—	—	—	—	—	2
	—	—	—	—	—	—	—
	2	—	—	—	2	—	5
	3	—	—	—	3	1	14
	413	620	532	432	598	515	6,189
	481	701	609	500	712	587	7,110

2) 介護保険利用者状況

(成 幸)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	
相談	時間外相談対応	9	13	5	26	23	17	
介護報酬請求件数	居宅介護支援	居宅支援Ⅰ 1	92	100	100	106	103	102
		居宅支援Ⅰ 2	45	48	43	43	44	45
		居宅介護支援合計	137	148	143	149	147	147
		初回加算	6	11	10	11	8	6
		特定事業所加算Ⅱ	137	148	143	149	150	147
		入院時情報連携加算Ⅰ	5	1	10	6	6	4
		入院時情報連携加算Ⅱ	—	1	—	—	—	—
		退院退所加算Ⅰイ	1	—	—	1	—	—
		退院退所加算Ⅰロ	—	—	—	—	—	—
		退院退所加算Ⅱイ	—	—	—	—	—	—
		退院退所加算Ⅱロ	—	—	—	—	—	—
		退院退所加算Ⅲ	—	—	—	—	—	—
		緊急時等居宅カンファレンス加算	—	—	—	—	—	—
		ターミナルケアマネジメント加算	—	1	1	1	—	—
	看/小規模多機能連携加算	—	—	—	—	—	—	
	介護予防支援	a 介護予防支援・基本	119	122	123	122	126	126
介護予防支援・初回		5	1	3	3	4	3	
看/小規模多機能連携加算		—	—	—	—	—	—	
総合事業	b 原則型マネジメント	78	89	91	87	93	92	
	c 簡略型マネジメント	30	28	26	30	32	35	
	d 初回型マネジメント	—	—	—	1	—	—	
	初回加算	4	4	—	5	5	5	
	介護予防ケアマネジメント(b+c+d)	112	121	117	123	130	132	
	介護予防支援・原則型合計(a+b)	197	211	214	209	219	218	
	介護予防支援+原則型+簡略型(a+b+c)	227	239	240	239	251	253	
調査	認定調査	27	12	22	23	25	15	
実態把握	介護給付	18	8	16	17	10	15	
	予防給付・介護予防	11	6	16	19	15	12	

	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年計
	13	12	37	40	16	16	227
	103	100	101	100	98	100	1,205
	45	49	48	43	40	45	538
	148	149	149	143	138	145	1,743
	9	10	10	8	8	9	106
	148	149	149	143	138	145	1,746
	10	6	9	8	4	3	72
	1	1	—	—	—	1	4
	—	—	—	—	1	—	3
	—	—	—	—	—	—	—
	—	—	—	—	—	—	—
	—	—	—	—	—	—	—
	—	—	—	—	—	—	—
	—	—	1	1	—	—	5
	—	—	—	—	—	—	—
	122	124	127	130	125	125	1,491
	3	1	5	4	—	2	34
	—	—	—	—	—	—	—
	97	97	93	92	86	91	1,086
	31	32	32	26	25	24	351
	7	1	1	1	—	—	11
	3	8	2	3	1	5	45
	138	138	128	122	112	120	1,448
	219	221	220	222	211	216	2,577
	250	253	252	248	236	240	2,928
	17	18	15	3	5	11	193
	14	11	10	7	8	6	140
	15	12	17	5	7	4	139

(戸越台)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	
相談	時間外相談対応	—	6	3	7	6	10	
介護報酬請求件数	居宅介護支援	居宅支援Ⅰ 1	87	92	87	95	95	90
		居宅支援Ⅰ 2	19	19	22	24	25	26
		居宅介護支援合計	106	111	109	119	120	116
		初回加算	1	2	3	7	—	4
		特定事業所加算Ⅱ	106	111	109	119	120	116
		入院時情報連携加算Ⅰ	1	—	3	4	4	6
		入院時情報連携加算Ⅱ	—	1	1	—	—	—
		退院退所加算Ⅰイ	—	—	—	—	—	—
		退院退所加算Ⅰロ	—	—	—	—	1	—
		退院退所加算Ⅱイ	—	—	—	—	—	—
		退院退所加算Ⅱロ	—	—	—	—	—	—
		退院退所加算Ⅲ	—	—	—	—	—	—
		緊急時等居宅カンファレンス加算	—	—	—	—	—	—
		ターミナルケアマネジメント加算	—	—	—	—	—	—
	看/小規模多機能連携加算	—	—	—	—	—	—	
介護予防支援	a 介護予防支援・基本	119	124	125	129	127	125	
	介護予防支援・初回	2	4	3	6	2	2	
	看/小規模多機能連携加算	—	—	—	—	—	—	
総合事業	b 原則型マネジメント	b 原則型マネジメント	56	69	68	64	64	61
		c 簡略型マネジメント	17	14	16	16	15	15
		d 初回型マネジメント	—	—	—	—	—	—
		初回加算	1	—	2	1	3	1
		介護予防ケアマネジメント(b+c+d)	73	83	84	80	79	76
	介護予防支援・原則型合計(a+b)	175	193	193	193	191	186	
	介護予防支援+原則型+簡略型(a+b+c)	192	207	209	209	206	201	
調査	認定調査	14	12	22	16	15	14	
実態把握	介護給付	4	6	20	12	11	12	
	予防給付・介護予防	11	7	33	13	4	7	

	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年計
	1	3	18	8	2	8	72
	92	92	86	83	85	79	1,063
	24	23	24	28	31	30	295
	116	115	110	111	116	109	1,358
	3	3	2	2	4	4	35
	116	115	110	111	116	109	1,358
	4	3	5	6	8	1	45
	—	—	—	—	—	1	3
	1	—	—	—	—	—	1
	—	—	—	—	—	—	1
	—	—	—	—	—	—	—
	—	—	—	—	—	—	—
	—	—	—	—	—	—	—
	—	—	—	—	—	—	—
	—	—	—	—	—	—	—
	129	128	128	127	126	122	1,509
	3	4	2	6	1	—	35
	—	—	—	—	—	—	—
	66	68	68	70	71	75	800
	16	16	17	17	19	18	196
	—	—	—	—	—	—	—
	6	7	6	3	4	4	38
	82	84	85	87	90	93	996
	195	196	196	197	197	197	2,309
	211	212	213	214	216	215	2,505
	17	16	23	9	20	20	198
	13	12	17	10	16	13	146
	17	8	10	1	10	8	129

(杜 松)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	
相談	時間外相談対応	11	15	14	30	21	17	
介護報酬請求件数	居宅介護支援	居宅支援Ⅰ 1	93	83	77	84	81	87
		居宅支援Ⅰ 2	42	39	38	40	37	35
		居宅介護支援合計	135	122	115	124	118	122
		初回加算	10	3	3	7	5	8
		特定事業所加算Ⅱ	135	122	115	124	118	122
		入院時情報連携加算Ⅰ	4	4	7	7	5	6
		入院時情報連携加算Ⅱ	—	—	—	—	—	—
		退院退所加算Ⅰイ	—	2	3	3	2	—
		退院退所加算Ⅰロ	—	1	—	—	—	—
		退院退所加算Ⅱイ	1	—	—	—	—	—
		退院退所加算Ⅱロ	—	—	—	—	—	—
		退院退所加算Ⅲ	—	—	—	—	—	—
		緊急時等居宅カンファレンス加算	—	—	—	—	—	—
		ターミナルケアマネジメント加算	—	—	—	—	—	—
	看/小規模多機能連携加算	—	—	—	—	—	—	
介護予防支援	a 介護予防支援・基本	116	121	118	122	118	122	
	介護予防支援・初回	3	4	2	2	5	3	
	看/小規模多機能連携加算	—	—	—	—	—	—	
総合事業	b 原則型マネジメント	48	59	58	57	67	64	
	c 簡略型マネジメント	21	21	20	20	20	19	
	d 初回型マネジメント	—	—	—	—	—	—	
	初回加算	2	—	4	2	7	4	
	介護予防ケアマネジメント(b+c+d)	69	80	78	77	87	83	
	介護予防支援・原則型合計(a+b)	164	180	176	179	185	186	
	介護予防支援+原則型+簡略型(a+b+c)	185	201	196	199	205	205	
調査	認定調査	21	18	26	21	22	18	
実態把握	介護給付	8	9	13	36	16	13	
	予防給付・介護予防	9	10	9	18	10	10	

	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年計
	14	8	9	24	14	4	181
	69	87	76	78	83	83	981
	31	15	31	30	34	35	407
	100	102	107	108	117	118	1,388
	—	3	6	8	8	8	69
	100	102	107	108	117	118	1,388
	2	3	7	4	2	6	57
	—	—	—	—	—	—	—
	—	—	1	1	—	1	13
	—	—	—	—	—	—	1
	—	—	1	—	—	1	3
	—	—	1	—	—	—	1
	—	—	—	—	—	—	—
	—	—	—	—	—	—	—
	—	—	—	—	—	—	—
	—	—	—	1	—	—	1
	122	125	128	128	126	127	1,473
	7	4	4	3	3	2	42
	—	—	—	—	—	—	—
	66	71	66	58	63	64	741
	19	16	19	19	18	21	233
	—	—	—	—	—	—	—
	4	7	5	1	6	5	47
	85	87	85	77	81	85	974
	188	196	194	186	189	191	2,214
	207	212	213	205	207	212	2,447
	29	22	31	18	15	14	255
	12	15	11	18	15	11	177
	15	13	15	13	11	5	138

(荏 原)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	
相談	時間外相談対応	7	25	5	14	7	25	
介護報酬請求件数	居宅介護支援	居宅支援Ⅰ 1	76	79	82	91	81	79
		居宅支援Ⅰ 2	25	26	27	28	30	26
		居宅介護支援合計	101	105	109	119	111	105
		初回加算	9	5	6	6	4	7
		特定事業所加算Ⅲ	101	105	109	119	111	1
		特定事業所加算Ⅱ	—	—	—	—	—	104
		入院時情報連携加算Ⅰ	1	6	2	3	3	2
		入院時情報連携加算Ⅱ	—	—	—	—	—	—
		退院退所加算Ⅰイ	2	1	1	2	1	—
		退院退所加算Ⅰロ	—	—	—	1	—	—
		退院退所加算Ⅱイ	1	—	—	—	3	—
		退院退所加算Ⅱロ	—	—	—	—	—	—
		退院退所加算Ⅲ	—	—	—	—	—	—
		緊急時等居宅カンファレンス加算	—	—	—	—	—	—
	ターミナルケアマネジメント加算	—	—	—	—	—	—	
	看/小規模多機能連携加算	—	—	—	—	—	—	
	介護予防支援	a 介護予防支援・基本	124	122	128	125	124	126
		介護予防支援・初回	4	3	7	1	2	5
		看/小規模多機能連携加算	—	—	—	—	—	—
総合事業	b 原則型マネジメント	46	60	57	56	59	56	
	c 簡略型マネジメント	17	17	17	17	18	19	
	d 初回型マネジメント	—	—	—	—	—	—	
	初回加算	—	1	1	2	2	—	
	介護予防ケアマネジメント(b+c+d)	63	77	74	73	77	75	
	介護予防支援・原則型合計(a+b)	170	182	185	181	183	182	
	介護予防支援+原則型+簡略型(a+b+c)	187	199	202	198	201	201	
調査	認定調査	17	9	18	10	8	13	
実態把握	介護給付	5	8	9	14	15	10	
	予防給付・介護予防	5	8	13	15	2	7	

	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年計
	6	12	18	13	7	12	151
	87	81	92	85	86	80	999
	27	32	34	38	44	48	385
	114	113	126	123	130	128	1,384
	5	2	9	6	11	9	79
	—	—	—	1	—	—	547
	114	113	126	122	130	128	837
	2	3	2	4	4	4	36
	—	—	—	2	2	—	4
	3	4	4	1	5	2	26
	—	—	—	—	—	—	1
	1	—	—	—	—	—	5
	—	—	—	—	—	—	—
	—	—	—	—	—	—	—
	—	—	—	—	—	—	—
	—	—	—	—	—	—	—
	—	—	—	—	—	—	—
	127	122	123	116	119	122	1,478
	1	2	3	2	4	4	38
	—	—	—	—	—	—	—
	58	57	52	57	59	60	677
	17	18	16	16	16	16	204
	1	—	—	—	—	—	1
	3	1	—	2	3	2	17
	79	75	68	73	75	76	882
	185	179	175	173	178	182	2,155
	202	197	191	189	194	198	2,359
	15	22	21	10	4	9	156
	8	11	22	9	20	8	139
	8	10	6	13	15	6	108

(小 山)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	
相談	時間外相談対応	18	28	23	29	10	18	
介護報酬請求件数	居宅介護支援	居宅支援Ⅰ 1	113	116	114	115	121	114
		居宅支援Ⅰ 2	43	46	46	49	43	39
		居宅介護支援合計	156	162	160	164	164	153
		初回加算	11	5	7	12	10	4
		特定事業所加算Ⅱ	156	162	160	164	164	153
		入院時情報連携加算Ⅰ	4	8	5	6	8	6
		入院時情報連携加算Ⅱ	—	1	—	—	—	—
		退院退所加算Ⅰイ	2	1	1	2	1	1
		退院退所加算Ⅰロ	1	—	1	—	—	—
		退院退所加算Ⅱイ	1	—	—	—	—	1
		退院退所加算Ⅱロ	—	—	—	—	—	—
		退院退所加算Ⅲ	—	—	—	—	—	—
		緊急時等居宅カンファレンス加算	—	—	—	—	—	—
		ターミナルケアマネジメント加算	—	—	—	—	1	—
	看/小規模多機能連携加算	—	—	—	—	—	—	
介護予防支援	a 介護予防支援・基本	149	145	138	137	137	143	
	介護予防支援・初回	3	2	2	6	2	4	
	看/小規模多機能連携加算	—	—	—	—	—	—	
総合事業	b 原則型マネジメント	b 原則型マネジメント	49	68	57	73	59	58
		c 簡略型マネジメント	36	37	33	39	35	40
		d 初回型マネジメント	—	—	—	—	—	—
		初回加算	1	11	9	5	1	5
		介護予防ケアマネジメント(b+c+d)	85	105	90	112	94	98
	介護予防支援・原則型合計(a+b)	198	213	195	210	196	201	
	介護予防支援+原則型+簡略型(a+b+c)	234	250	228	249	231	241	
調査	認定調査	26	27	19	22	22	22	
実態把握	介護給付	10	20	13	7	26	25	
	予防給付・介護予防	6	7	6	9	20	5	

	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年計
	14	17	19	18	16	24	234
	119	117	111	117	110	114	1,381
	44	43	45	46	43	49	536
	163	160	156	163	153	163	1,917
	12	9	10	13	7	11	111
	163	160	156	163	153	163	1,917
	6	1	5	5	8	4	66
	—	1	1	—	—	—	3
	2	—	—	2	3	2	17
	1	1	—	—	—	—	4
	—	—	—	1	—	—	3
	—	—	—	—	—	—	—
	—	—	—	—	—	—	—
	—	—	—	—	—	—	—
	—	—	—	—	—	1	2
	—	—	—	—	—	—	—
	140	153	153	151	146	148	1,740
	8	4	6	5	3	3	48
	—	—	—	—	—	—	—
	58	61	55	58	54	58	708
	37	35	36	36	36	35	435
	—	—	—	—	—	—	—
	2	—	3	4	4	4	49
	95	96	91	94	90	93	1,143
	198	214	208	209	200	206	2,448
	235	249	244	245	236	241	2,883
	27	27	22	16	26	23	279
	19	13	18	20	10	17	198
	5	14	10	6	7	6	101

(小山台)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月		
相談	時間外相談対応	1	—	—	—	1	2		
介護報酬請求件数	居宅介護支援	居宅支援Ⅰ 1	62	63	64	66	68	66	
		居宅支援Ⅰ 2	34	36	37	33	32	31	
		居宅介護支援合計	96	99	101	99	100	97	
		初回加算	4	3	3	2	4	1	
		特定事業所加算Ⅱ	96	99	101	99	—	—	
		特定事業所加算Ⅲ	—	—	—	—	100	97	
		入院時情報連携加算Ⅰ	1	2	7	3	3	—	
		入院時情報連携加算Ⅱ	1	—	—	—	1	—	
		退院退所加算Ⅰイ	—	—	1	—	—	4	
		退院退所加算Ⅰロ	—	—	—	—	—	1	
		退院退所加算Ⅱイ	—	—	—	—	—	—	
		退院退所加算Ⅱロ	—	—	—	—	—	—	
		退院退所加算Ⅲ	—	—	—	—	—	—	
		緊急時等居宅カンファレンス加算	—	—	—	—	—	—	
	ターミナルケアマネジメント加算	—	—	—	—	—	—		
	看/小規模多機能連携加算	—	—	—	—	—	—		
	介護予防支援	a 介護予防支援・基本	77	75	78	73	77	75	
		介護予防支援・初回	—	—	2	1	1	1	
		看/小規模多機能連携加算	—	—	—	—	—	—	
総合事業	b 原則型マネジメント	36	39	41	41	42	42		
	c 簡略型マネジメント	7	4	7	6	6	6		
	d 初回型マネジメント	—	—	—	—	—	—		
	初回加算	—	—	1	1	2	—		
	介護予防ケアマネジメント(b+c+d)	43	43	48	47	48	48		
	介護予防支援・原則型合計(a+b)	113	114	119	114	119	117		
	介護予防支援+原則型+簡略型(a+b+c)	120	118	126	120	125	123		
調査	認定調査	6	2	8	13	6	7		
実態把握	介護給付	5	7	10	5	8	1		
	予防給付・介護予防	9	1	7	8	4	5		

	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年計
	—	1	—	—	—	2	7
	66	66	71	74	76	73	815
	32	31	33	34	33	39	405
	98	97	104	108	109	112	1,220
	7	6	7	6	5	6	54
	98	97	104	108	109	112	1,023
	—	—	—	—	—	—	197
	7	2	6	—	3	8	42
	1	—	—	2	1	—	6
	—	1	1	—	—	—	7
	—	—	—	1	—	—	2
	—	—	—	—	—	—	—
	—	—	—	—	—	—	—
	—	—	—	—	—	—	—
	—	—	—	—	—	—	—
	—	—	—	—	—	—	—
	77	81	84	84	89	89	959
	1	5	2	2	5	1	21
	—	—	—	—	—	—	—
	41	40	42	43	41	46	494
	7	7	8	6	6	10	80
	—	1	—	1	—	—	2
	3	1	2	3	1	—	14
	48	48	50	53	47	56	576
	118	121	126	127	130	135	1,453
	125	128	134	133	136	145	1,533
	7	9	14	9	11	13	105
	5	4	12	9	22	17	105
	1	5	2	5	9	6	62

3) 認知症サポーター養成事業・認知症サポーターレベルアップ事業

日付	担当	対象	場所	人数
7月10日	戸越台・杜松	昭和大学医学部附属看護専門学校在宅看護実習生	杜松支援センター	4
7月17日	戸越台	戸越台中学校7年生	戸越台中学校ランチルーム	94
9月1日	小山	昭和大学医学部附属看護専門学校在宅看護実習生	小山支援センター	3
10月5日	戸越台・成幸	*荏原第三地区民生委員	荏原第三地域センター	28
10月6日	小山台	昭和大学医学部附属看護専門学校在宅看護実習生	小山台支援センター	2
10月8日	戸越台・杜松	昭和大学医学部附属看護専門学校在宅看護実習生	戸越台支援センター	6
10月13日	小山	昭和大学医学部附属看護専門学校在宅看護実習生	小山支援センター	2
10月14日	成幸	昭和大学医学部附属看護専門学校在宅看護実習生	成幸支援センター	2
10月16日	杜松	東京医療保健大学看護実習生	杜松支援センター	6
11月11日	小山台	小山台一丁目東町会	小山台支援センター	11
11月11日	小山	品川介護福祉専門学校2年生	小山支援センター	1
11月14日	小山	品川介護福祉専門学校2年生	小山支援センター	2
11月27日	小山	東京医療保健大学看護実習生	小山支援センター	6
12月15日	戸越台	東京医療保健大学看護実習生	戸越台支援センター	2
3月5日	荏原・小山台	*荏原第一地区民生委員	書面開催（感染症対策のため）	23
3月10日	小山	*荏原第二地区新任民生委員	書面開催（感染症対策のため）	17
3月15日	杜松	*荏原第五地区民生委員	書面開催（感染症対策のため）	21
3月16日	戸越台	戸越台中学校9年生	戸越台中学校ランチルーム	96

*はレベルアップ事業

4. 高齢者多世代交流支援施設（ゆうゆうプラザ）

1) 各事業参加状況

	項目	日にち	回数	内容	参加者数
物作り等講座	体操教室	月曜日	13	足腰の体操を中心とした体操	158
	らくらく体操	水曜日	30	体と頭の体操	354
	元気体操	月曜日	3	全身体操	20
	クラフトバンド	土曜日	2	クラフトバンドを用いたかご編み等	15
高齢者介護等事業	ミニデイ卒業体操	水曜日	23	地域ミニデイ参加者が引き続き介護予防に取り組む体操	117
	つながりサロン	火曜日	12	体操、脳トレ	147
その他	地域応援プロジェクト	7月～3月	1	コロナに負けるな！応援メッセージ	142
	今年の漢字一文字	12月	1	「今年の漢字一文字」を予想し、応募してもらう	59
	作品展	1月	1	書道	—
	利用者アンケート	7月～8月	1	コロナ禍に伴う外出自粛、ゆうゆうプラザ休館後の体調等のアンケートを行い、支援が必要な方を調査	197
言語聴覚	ネットワークオンライン講座	3/24	1	「子どもの発達について」	4

2) 地域ミニデイ実施状況

開催回数	延べ参加人数
34回	265名

3) 利用者状況

		4月	5月	6月	7月	8月
目的内 利用者数 (高齢者)	男	—	—	46	168	162
	女	—	—	40	441	383
	計	—	—	—	609	545
	1日平均人数	—	—	17	24	22
新規登録者数	男	—	—	—	—	—
	女	—	—	—	—	1
	計	—	—	—	—	1
新規登録団体数	—	—	—	1	—	
入浴者数 (火曜日・金曜日)	男	—	—	46	71	87
	女	—	—	40	89	85
	計	—	—	86	160	172
	1日平均人数	—	—	17	20	19
マッサージ (第1・3水曜日)	男	—	—	—	3	7
	女	—	—	—	20	16
	計	—	—	—	23	23
部屋別稼働率 午前 (%)	レクリエーション室	—	—	—	40.0	64.0
	コミュニティ室1	—	—	—	44.0	48.0
	コミュニティ室2	—	—	—	12.0	16.0
	コミュニティ室3	—	—	—	8.0	—
	スタジオ1	—	—	—	8.0	4.0
	スタジオ2	—	—	—	24.0	16.0
部屋別稼働率 午後 (%)	レクリエーション室	—	—	—	61.5	64.0
	コミュニティ室1	—	—	—	44.0	52.0
	コミュニティ室2	—	—	—	28.0	16.0
	コミュニティ室3	—	—	—	28.0	12.0
	スタジオ1	—	—	—	16.0	16.0
	スタジオ2	—	—	—	4.0	—
部屋別稼働率 夜間 (%)	レクリエーション室	—	—	—	—	—
	コミュニティ室1	—	—	—	—	—
	コミュニティ室2	—	—	—	—	—
	コミュニティ室3	—	—	—	—	—
	スタジオ1	—	—	—	—	—
	スタジオ2	—	—	—	—	—
部屋別稼働率 合計 (%)		—	—	—	26.6	25.7
自主事業 (ゆうゆうプラザ主催分)		—	—	—	77	143
品川区事業		—	—	—	98	139
目的外利用者数 (区事業・高齢者団体以外等)		—	—	—	—	—
総利用者数 (延人数)		—	—	—	805	853
言語・聴覚 相談件数	聞こえの障害 (第1・3木曜日)	—	—	—	—	—
	子ども (第2・4火・木曜日)	—	—	—	15	14
	言葉の障害 (第2・4火曜日)	—	—	—	3	4
	飲み込みの障害 (第1・3木曜日)	—	—	—	2	4
	高次脳機能障害 (第1～4土曜日)	—	—	—	1	4
	計	—	—	—	21	26

	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年度合計	平均
	182	194	171	183	143	147	191	1,587	158.7
	440	496	454	439	251	304	380	3,628	362.8
	622	690	625	622	394	451	571	5,129	569.9
	26	26	27	26	17	21	22		22.9
	1	—	—	2	—	—	—	3	0.3
	1	1	1	1	—	—	19	24	2.4
	2	1	1	3	—	—	19	27	4.5
	—	—	2	—	1	—	—	5	0.5
	90	101	82	92	90	81	104	844	84.4
	91	101	83	91	94	78	104	856	85.6
	181	202	165	183	184	159	208	1,700	170.0
	23	22	24	23	23	23	23		21.7
	6	6	6	5	—	4	6	43	5.4
	19	22	17	17	—	17	16	144	18.0
	25	28	23	22	—	21	22	187	23.4
	62.5	55.6	78.9	80.0	39.1	63.6	69.2		61.4
	70.8	74.1	100.0	95.0	65.2	50.0	73.1		68.9
	25.0	25.9	42.1	30.0	17.4	27.3	30.8		25.2
	8.3	11.1	21.1	30.0	8.7	9.1	11.5		13.5
	4.2	—	—	5.0	—	—	—		5.3
	8.3	7.4	5.3	5.0	—	4.5	0.0		8.8
	62.5	55.6	73.7	65.0	30.4	40.9	38.5		54.7
	66.7	59.3	94.7	80.0	52.2	63.6	69.2		64.6
	29.2	29.6	47.4	55.0	13.0	27.3	34.6		31.1
	20.8	22.2	36.8	25.0	0.0	13.6	15.4		19.3
	16.7	—	15.8	10.0	8.7	4.5	7.7		11.9
	4.2	—	5.3	—	—	9.1	7.7		6.1
	—	—	—	—	—	—	—		—
	—	—	—	—	—	—	—		—
	—	—	—	—	—	—	—		—
	—	—	—	—	—	—	—		—
	—	—	—	—	—	—	—		—
	—	—	—	—	—	—	—		—
	31.6	28.4	43.4	40.0	19.6	26.1	29.8		30.1
	108	119	167	145	30	131	183	1,103	122.6
	165	176	214	216	170	139	195	1,512	168.0
	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	919	1,012	1,040	1,013	617	737	981	7,977	886.3
	—	1	1	3	—	—	—	5	1.7
	15	20	22	22	21	12	27	168	18.7
	1	3	2	2	—	1	—	16	2.3
	5	3	9	3	2	3	3	34	3.8
	3	—	—	—	—	—	2	10	2.5
	24	27	34	30	23	16	32	233	25.9

5. 防災

1) 防災委員会の開催

(成 幸)

開 催 日	検 討 内 容
令和2.4.2	防災訓練の振り返り、BCPの配布
令和2.5.7	火災報知器の誤操作対応について
令和2.6.4	緊急連絡網の取扱いについて
令和2.7.2	夜間緊急時想定連絡網（BCP別紙3）について
令和2.8.6	家具類の転倒、落下、移動防止対策について
令和2.9.3	災害時の水の確保について 受水槽のバルブ位置確認
令和2.10.1	福祉避難所用品追加について
令和2.11.5	火災報知器の発報の対応の振り返り
令和2.12.3	トラッキング火災の防止について
令和3.1.7	冬の防災対策（地震災害）寒さへの対応等について
令和3.2.4	東京消防庁電子学習室を利用した訓練について
令和3.3.4	地震発生時の設備等の確認方法等について

(戸越台)

開 催 日	検 討 内 容
令和2.4.2	令和2年度年度防災訓練実施計画、災害時の緊急連絡網の確認
令和2.5.7	館内の防災設備確認、地下集中管理システムを学ぶ
令和2.6.4	改修工事中の自衛消防訓練について
令和2.7.2	災害時の非常食、職員確保について
令和2.8.6	総合防災訓練内容の確認、コロナ禍での防災訓練について
令和2.9.3	総合防災訓練実施後の評価、館内防災用品、非常食点検
令和2.10.1	エレベーター更新のため、使用停止への課題を検討
令和2.11.26	冷温水機停止により、石油ストーブ・電気ストーブ設置の取り扱い対応
令和2.12.3	消火器・補助散水栓等の点検について
令和3.1.7	地下の防災センター改修工事についての課題について
令和3.2.9	非常食体験、防火対象物点検について
令和3.3.4	消防設備点検、屋上での放水訓練、緊急連絡網名簿の確認

(荏原)

開催日	検討内容
令和2.4.2	自衛消防の中核要員、災害ベンダー自動販売機の設置について
令和2.5.7	緊急連絡網の作成について
令和2.6.4	緊急連絡網（各セクションの対応について）
令和2.7.2	災害時の出勤に関する調査、BCP（事業継続計画）の確認・整理、防火対象物検査について
令和2.8.6	防火対象物検査の結果報告
令和2.9.3	総合防災訓練の内容検討、台風および豪雨への備えについて
令和2.10.1	感染症対応中のため書面での開催。荏原複合施設自衛消防訓練について
令和2.11.5	福祉避難所について、荏原複合施設自衛消防訓練実施（ビデオ視聴）の報告
令和2.12.10	品川区総合防災訓練について
令和3.1.7	福祉避難所の開設に向けての確認と訓練を実施
令和3.2.6	感染症対応中のため書面での開催。福祉避難所の開設に向けての再確認
令和3.3.4	緊急連絡網の再確認、個人情報の管理について

(平塚橋)

開催日	検討内容
令和2.4.2	緊急連絡網の確認、通用口の暗証番号変更の検討
令和2.5.7	緊急連絡網の確認、消防設備点検の延期について
令和2.6.4	緊急連絡網の配布中の報告
令和2.7.2	合同防災訓練の訓練日程とその内容の検討
令和2.8.6	消防設備点検の依頼内容の検討について
令和2.9.3	消防設備点検および防火対象物点検実施の連絡等
令和2.10.1	消防設備点検および防火対象物点検実施の報告
令和2.11.5	総合防災訓練の日程の決定について
令和2.12.10	年末年始体制の申し合わせについての確認
令和3.1.7	総合防災訓練の内容の決定について、1階排煙窓の点検日程
令和3.2.4	1階排煙窓の点検報告、非常食の期限切れ前の活用方法の検討
令和3.3.4	消防設備点検の日程、合同防災訓練の日程決定

2) 防災訓練の実施

今年度も下表の防災訓練を実施した。

○防災訓練等の実施状況

(成 幸)

実 施 日	訓 練 内 容
令和 2. 4. 23	成幸ホーム消防への緊急通報装置の説明 (3名)
令和 2. 5. 28	福祉避難所訓練 物品の確認と避難所設置の流れ (12名)
令和 2. 6. 25	消火栓の使い方と長さの検証 (12名)
令和 2. 7. 30	総合訓練 (消火器取扱い訓練・119通報訓練 (空) ・避難誘導訓練) (12名)
令和 2. 8. 27	災害時お水の確保、高置水槽 受水槽の抜水の練習 (12名)
令和 2. 9. 24	AEDについて AEDのパッドの確認 (12名)
令和 2. 10. 22	BCPについて 職員の防災減災への意識の向上 (10名)
令和 2. 11. 25	災害時、煮炊きレンジ 発電機などの取扱い説明 (11名)
令和 2. 12. 24	非常食体験・・・非常時にスムーズに対応するため (12名)
令和 3. 1. 28	東京消防庁電子学習室を利用した訓練「減災に向けて (12名)
令和 3. 2. 25	非常食の配布とアンケート配布 (50名)
令和 3. 3. 25	抜き打ち連絡網 (BCP夜間想定緊急連絡網使用) (7名)

(戸越台)

実 施 日	訓 練 内 容
令和 2. 4. 30	館内防災設備の説明 (集中管理システム、機器等の説明) (10名)
令和 2. 5. 28	館内防災設備の説明 (集中管理システム、機器等の説明) (7名)
令和 2. 6. 25	AED使用方法を確認、救命の手順 (8名)
令和 2. 7. 30	自衛消防訓練、避難・誘導・通報を総合的に実施 (7名)
令和 2. 8. 31	心肺蘇生、AED使用方法 (7名)
令和 2. 9. 7	総合防災訓練、自衛消防訓練、放水訓練 (屋上) (15名)
令和 2. 10. 22	大災害時のエレベーター閉じ込め発生時の救出作業について夜間の大規模災害時のマニュアルに沿ったシミュレーション (8名)
令和 2. 11. 27	デイサービス自衛消防訓練 (8名)
令和 2. 12. 24	緊急時の無線電話、放送設備の使用訓練 (9名)
令和 3. 1. 28	時間外の緊急連絡網訓練 (9名)
令和 3. 2. 25	地震発生による火災を想定の自衛消防訓練 (7名)
令和 3. 3. 26	非常放送の取り扱い説明と使用方法を学ぶ (10名)

(荏原)

実施日	訓練内容
令和2.4.30	非常通報装置の操作方法の確認など(12名)
令和2.5.28	火災を想定した屋内消火栓の使用方の説明、消火活動訓練(10名)
令和2.6.25	危険物の取扱い、消毒用アルコールの取扱いについて(11名)
令和2.7.30	大雨・強風等に係る自衛消防対策、ハザードマップの説明(10名)
令和2.8.27	屋内消火栓を使用して消火訓練を行う(8名)
令和2.9.24	救急医療週間について、救急医療の東京ルールについて(9名)
令和2.10.19	荏原複合施設、自衛消防訓練(総合訓練)(15名)
令和2.11.26	先月実施した自衛消防訓練の実施報告について(8名)
令和2.12.24	二次避難所についての説明(9名)
令和3.1.28	特養新型コロナ感染症対応中であるため、集合訓練中止
令和3.2.25	リチウム電池からの火災、トラッキング火災の防止について(8名)
令和3.3.25	防災食の説明、備蓄の確認など(9名)

(平塚橋)

実施日	訓練内容
平成2.4.8	消防設備機器等説明(5名)
令和2.5.13	夜間想定訓練等(6名)
令和2.6.10	消防設備機器等説明(4名)
令和2.7.8	避難誘導路想定訓練等(6名)
令和2.8.3	消防設備機器等説明(3名)
令和2.9.9	夜間想定訓練等(5名)
令和2.10.14	消防設備機器等説明(6名)
令和2.11.7	非常食の場所の確認(7名)
平成2.12.9	避難経路確認等(4名)
令和3.1.13	夜間想定訓練等(6名)
令和3.2.10	夜間想定訓練等(7名)
令和3.3.30	総合防災訓練(6名)

6. 委員会活動

1) 苦情解決・サービス向上委員会

(成 幸)

開催日	内 容
2. 6. 18	1. ホームから転倒事故の報告 2. 委員からの助言 3. 面会制限緩和に関する報告
2. 9. 17	1. ホーム事故、感染症の報告 2. デイサービス単独外出の報告 3. 委員からの助言 4. 家族アンケート実施の報告
2. 12. 17	1. 品川区セルフチェック結果の報告 2. ハラスメント、コンプライアンス規程の報告 3. 委員からの助言 4. 敬老式典実施の報告
3. 3. 18	1. 施設内職員PCR検査実施の報告 2. 新型コロナウイルス対策に関する報告 3. 委員からの助言

(戸越台)

開催日	内 容
2. 6. 9	1. 第三者評価の報告 2. デイサービス 車両事故報告 3. 新型コロナウイルス感染症対策について 4. 委員からの助言、意見など
2. 9. 8	1. 新型コロナウイルス感染症対策について 2. 工事関係について（デイサービス移転 特養7階稼働について） 3. 委員からの助言、意見など
2. 12. 8	1. デイサービス 車両事故報告 2. 新型コロナウイルス感染症対策について 3. 工事関係について 4. 委員からの助言、意見など
3. 3. 9	1. 新型コロナウイルス対策に関する報告 2. 工事関係について 3. 委員からの助言、意見など

(荏原・小山)

開催日	内 容
2. 6. 17	1. 荏原まつり開催中止の報告 2. 感染症対策についての報告 3. 委員からの助言、意見など
2. 9. 16	1. 敬老式典の実施の報告 2. 作品展開催中止の報告 3. 家族懇談会の書面開催についての報告 4. 委員からの助言、意見など
2. 12. 16	1. 新型コロナウイルス感染症の発生報告 2. ショートステイの受け入れを一時中止について 3. 職員に対するPCR検査実施の報告 4. 委員からの助言、意見など
3. 3. 17	1. 新型コロナウイルス感染症の発生報告 2. 家族懇談会実施について 3. 委員からの助言、意見など

(平塚橋)

開催日	内 容
2. 6. 18	1. 新型コロナウイルス感染症についての報告 2. ショートステイの利用者による暴力について
2. 9. 17	1. 新型コロナウイルス感染症についての報告 2. ショートステイの衣類紛失について 3. ホームページについて
2. 12. 17	1. 新型コロナウイルス感染症についての報告 2. 来年度の介護報酬について 3. その他
3. 3. 18	1. 新型コロナウイルス感染症についての報告 2. 令和3年度介護報酬改定について 3. その他

2) 安全衛生委員会

職場における安全および衛生の確保を図るため安全衛生委員会を開催した。

(成 幸)

[構成：産業医、施設長、衛生管理者、衛生委員6人]

開催日	会議内容
2.4.1	職員体調確認、新年度の安全衛生管理計画について
2.5.17	職員体調確認、新型コロナウイルス対策強化（4月7日～緊急事態宣言）
2.6.3	職員体調確認、腰痛予防運動の紹介
2.7.1	職員体調確認、新型コロナウイルス対策と熱中症対策
2.8.3	職員体調確認、資格取得への取り組み 衛生管理の試験問題等紹介
2.9.2	職員体調確認、事業場巡視 アクリルパーテーションの設置状況確認
2.10.7	職員体調確認、介護職員のための感染対策マニュアルの周知
2.11.4	職員体調確認、事業場巡視 加湿器の使用状況等確認
2.12.2	職員体調確認、健康診断結果報告
3.1.13	職員体調確認、事業場巡視 2階フロア感染症対策状況確認
3.2.10	職員体調確認、新型コロナウイルス対策新規購入物品の取扱方法
3.3.3	職員体調確認、ストレスチェックの結果報告

(戸越台)

[構成：産業医、施設長、衛生管理者、衛生委員6人]

開催日	会議内容
2.4.1	職員体調確認、感染予防対策、健康増進法について
2.5.13	職員体調確認、感染予防対策、改修工事について
2.6.3	職員体調確認、非常事態解除後の面会の緩和、改修工事について
3.7.1	職員体調確認、職員健診の結果、入所調整について
2.8.5	職員体調確認、ストレスチェック、熱中症対策について
2.9.2	職員体調確認、感染症と食中毒防止対策、デイサービス移転について
2.10.7	職員体調確認、7階の再稼働、インフルエンザ予防接種について
2.11.4	職員体調確認、職員健診の結果、改修工事について
2.12.2	職員体調確認、職員骨折の報告、職員のPCR検査実施について
3.1.27	職員体調確認、面会の状況報告、職員のPCR検査について
3.2.10	職員体調確認、家庭内感染予防対策について
3.3.3	職員体調確認、新入所の方のPCR検査について

(荏原)

[構成：産業医、施設長、衛生管理者、衛生委員7人]

開催日	会議内容
2.4.1	職員体調確認、年間計画の検討、新型コロナウイルス注意喚起
2.5.13	職員体調確認、安全衛生計画書の確認、PM2.5の飛散注意
2.6.3	職員体調確認、緊急事態宣言解除後の対策について
2.7.1	職員体調確認、感染症対応についての注意喚起
2.8.5	職員体調確認、家族の面会は8月1日より中止。食中毒の予防について
2.9.2	職員体調確認、利用者・職員のストレスについて、インフルエンザの予防接種について
2.10.7	職員体調確認、新型コロナウイルス感染症状況報告
2.11.4	職員体調確認、新型コロナウイルス感染症経過報告、職員・利用者健康診断、ストレスチェックについて
2.12.2	職員体調確認、PCR検査について
3.1	新型コロナウイルス感染症発生のため中止
3.2	新型コロナウイルス感染症発生のため中止
3.3.3	職員体調確認、新型コロナウイルス感染経過報告

(平塚橋)

[構成：産業医、施設長、衛生管理者、衛生委員6人]

開催日	会議内容
2.4.1	職員体調確認、衛生物品、職員勤務時間確認、感染症
2.5.13	職員体調確認、職員健診、感染症
2.6.3	腰痛防止のための介護機器、感染症、職員勤務時間確認
2.7.1	食中毒、面会制限、職員勤務時間確認
2.8.5	職員検診、移乗機器、リモート面会、感染症
2.9.2	職員体調確認、職員健診日程、職員勤務時間確認、職員復帰支援、感染症
2.10.7	職員体調確認、インフルエンザ予防接種予定、ストレスチェック、職員勤務時間確認
2.11.4	職員体調確認、職員勤務時間確認、感染症
2.12.2	ストレスチェック実施報告、職員PCR検査
3.1.27	職員体調確認、新型コロナウイルス感染報告
2.2.10	職員体調確認、職員PCR検査結果報告、職員勤務時間確認
2.3.3	職員体調確認、ストレスチェック結果報告、移乗機器、職員勤務時間確認、職員PCR検査報告

3) 給食委員会

新型コロナウイルス感染症のため利用者参加は規模を縮小または中止とした。

(成 幸)

開 催 日	活 動 内 容
2. 4. 9	感染症対策について、異物混入について、行事予定についてなど
2. 5. 14	食事の盛り付けについて、食堂の換気についてなど
2. 6. 11	ご利用者毎の食事形態について、食事の味つけについてなど
2. 7. 9	食事の味つけについて、食中毒予防についてなど
2. 8. 13	配膳・下膳時間について、衛生管理・異物混入についてなど
2. 9. 10	食事の味つけ・提供量・盛り付けについてなど
2. 10. 8	ペースト食の食器について、主食の盛り付け量についてなど
2. 11. 12	補食の誤配膳について、年末年始の行事食についてなど
2. 12. 10	食事の味つけについて、食札の管理について、麺ペーストについてなど
3. 1. 14	感染症対策について、お正月お楽しみ食の感想など
3. 2. 18	ご利用者毎の食事形態について、井物の提供量についてなど
3. 3. 11	感染症対策について、ゼリーの硬さについてなど

(戸越台)

開 催 日	活 動 内 容
2. 4. 10	感染症予防対策実施 配食の衛生対策について ゼリーの蓋活用など
2. 5. 8	感染症予防対策実施 利用者からの意見 使い捨て食器についてなど
2. 6. 12	食中毒予防・感染症対策について、麺類の食事形態確認・周知など
2. 7. 10	デイサービスが移転先から戻ることに確認・打ち合わせなど
2. 8. 14	感染症対策、食事について意見交換、食中毒予防についてなど
2. 9. 11	利用者からの意見、配膳車の温度、デイサービスの食事についてなど
2. 10. 9	デイサービス8階、特養7階の事業再開について、発熱者への対応など
2. 11. 13	利用者からの意見、デイサービスお楽しみ食、正月体制についてなど
2. 12. 11	感染症対策や勉強会について、年末年始の行事、個別対応についてなど
2. 1. 8	献立について意見交換、年末年始体制の評価、検食についてなど
3. 2. 9	利用者からの意見、選択食のやり方、感染症対策、行事予定など
3. 3. 12	利用者からの意見、塩分の調整について、食べやすさの検討など

(荏原)

開催日	活動内容
2. 4. 9	感染症対策、水分補給のとりみ濃度についてなど
2. 5. 14	魚料理の臭い、おやつ作りの代替行事（おやつ会）についてなど
2. 6. 13	（利用者参加）食べたい物、好きな食べ物、思い出のある食べ物について
2. 7. 11	生果物の提供、検食でのソフト・ペースト食試食についてなど
2. 8. 13	混ぜご飯の粥の対応、ペースト食の味付けについてなど
2. 9. 12	非常食の食事への使用時の連絡、おやつの提供についてなど
2. 10. 8	給食委託会社の感染症対策、感染症時の使い捨て食器使用についてなど
2. 11. 12	体調不良ご利用者発生時の食器類の対応、職員食提供方法についてなど
2. 12. 10	温冷配膳車不具合発生時の対応、クリスマス行事についてなど
3. 1. 14	（書面開催）正月料理の感想、感染症対応時の各部署意見など
3. 2. 11	感染症対応中の食事調整、中止や変更となった行事食についてなど
3. 3. 11	ペーストの硬さの均一化、残菜調査についてなど

(平塚橋)

開催日	活動内容
2. 5. 14	（利用者参加）感染症対策のEV使用についてなど
2. 5. 14	（利用者参加）給食関係の掲示書類についてなど
2. 6. 11	タイムリーな情報共有について、下膳についてなど
2. 7. 9	（利用者参加）季節の変わり目による食品管理についてなど
2. 8. 13	ふりかけの提供方法、ユニット冷蔵庫管理についてなど
2. 9. 10	給食委託人事、栄養実習生、経管栄養についてなど
2. 10. 8	食札の見直し、残菜調査の実施についてなど
2. 11. 12	朝食の温冷配膳車使用、下膳の注意事項についてなど
2. 12. 10	お楽しみ食実施曜日、食札検討、米のユニット管理についてなど
3. 1. 14	朝食の食札、ペースト食、ペースト粥についてなど
3. 2. 11	食品払出票、感染症予防についてなど
3. 3. 11	米のユニット管理、食札再検討、ペースト食、ペースト粥について

7. その他

1) 研修報告

令和2年度は新型コロナウイルス感染症のため主にリモートによる研修に参加した。

※リモート研修は*で表記

施設外研修

(成 幸)

年	月	日	研 修 会 名	人数 (人)	日数 (日)	延人数 (人)
2	7	22	令和2年度品川区高齢者虐待予防基礎研修東京都地域包括支援センター職員研修(初任者研修)	1	1	1
	8	5, 9/8, 12/23, 3/3	品川福祉カレッジ 認知症ケア専門コース 施設ケア*	2	4	8
	9	19	生活支援記録法研修*	9	1	9
	10	6	高齢者施設向け 防災・減災対策セミナー	1	1	1
		21	BCP策定講座	1	1	1
		21	次世代介護機器の活用支援事業*	1	1	1
	11	4	アウトリーチ支援研修 理念と実践的課題	1	1	1
		10	令和2年度品川区在宅サービス事業所管理者向け 高齢者虐待予防研修	1	1	1
		16	令和2年度施設職員向け福祉用具講習会	1	1	1
		17	介護報酬請求事務に関する研修会(基礎編)*	1	1	1
		30	新型コロナウイルス感染症発生施設事例報告, 職員派遣説明会*	1	1	1
		19, 12/15, 1/20, 2/19	品川福祉カレッジ ケアマネジメント講座*	1	4	4
		8, 12/19	令和2年度自立支援・介護予防に向けた地域ケア会議実践者養成研修事業*	1	2	2
		11月~3月	事務職eラーニング研修*	2	4	8
	12	1, 2, 6, 7	新型コロナウイルス感染症対策に関する高齢者施設向けセミナー*	5	4	5
		23, 24, 1/7, 1/8	令和2年度東京都地域包括支援センター職員研修(現任者研修)	4	2	8
3	1	16	高齢者のスキンケアについて*	1	1	1
		21	令和2年度介護現場におけるハラスメント対策説明会*	2	1	2
		22	精神保健福祉研修 ひきこもり状態にある方とその家族の支援*	1	1	1
	2	3	生活相談員リスクマネジメント研修 高齢者福祉施設の新型コロナウイルス対策*	1	1	1
		19	機能訓練計画書の作成から訓練の展開と評価*	1	1	1
	3	11	経営分析・財務分析に関する研修*	1	1	1
		15	令和2年度介護予防ケアマネジメント研修	1	1	1
		19	介護事業者向け生産性向上のための動画配信*	2	1	2
		23	ブランディング&PRセミナー*	1	1	1
			計	44	39	64

施設外研修

(戸越台)

年	月	日	研 修 会 名	人数 (人)	日数 (日)	延人数 (人)
2	7	1, 2	東京都地域包括支援センター 初任者研修	1	2	2
		29, 30	東京都地域包括支援センター 初任者研修	1	1	2
	8	5	品川福祉カレッジ 認知症ケア専門コース*	2	1	2
	9	8	品川福祉カレッジ 認知症ケア専門コース*	2	1	2
		19	生活支援記録法研修*	15	1	15
	10	3～	東京都主任介護支援専門員更新研修	1	8	8
		14	地域ケア会議実践者養成研修	2	1	2
		30	品川福祉カレッジ 認知症ケア専門コース 施設ケア研修*	2	2	4
	11	11	介護報酬請求事務に関する研修会 基礎編*	1	1	1
		19～	ケアマネジメント講座*	1	4	4
		11月～3月	事務職eラーニング研修*	2	4	8
	12	5	地域ケア会議実践者養成研修	1	1	1
		12	生活支援記録法研修*	1	1	1
		21	新型コロナウイルス感染症対策*	1	1	1
		23		品川福祉カレッジ 認知症ケア専門コース 施設ケア研修*	1	2
3	2	3	生活相談員リスクマネジメント研修*	1	1	1
		12	品川区高齢者虐待予防応用研修*	1	1	1
		15	高次脳機能障害者相談支援研修*	2	1	2
	3	3	品川福祉カレッジ 認知症ケア専門コース 施設ケア研修*	2	1	2
		22	高齢者結核対策*	1	1	1
			計	41	36	64

施設外研修

(荏原・小山)

年	月	日	研 修 会 名	人数 (人)	日数 (日)	延人数 (人)
2	5	13, 14	高齢者総合支援システム研修	2	2	4
			環境法令研修 *	1	1	1
	6	30	新任ケアマネ研修	1	1	1
			品川区高齢者虐待予防基礎研修	1	1	1
	7	14	品川福祉カレッジ認知症ケア専門コース施設ケア研修 (一部*)	2	5	14
			ショートステイあり方検討委員会*	1	2	2
	9	18	生活支援記録法研修*	7	2	14
			医療リハビリテーション講座*	2	1	2
	9	14	個別支援計画作成会議	2	1	2
			東京都主任介護支援専門員研修	1	10	10
	10	3~	東京都主任介護支援専門員更新研修	2	9	18
			地域ケア会議実践者養成研修	8	2	16
	10	7~	認知症介護者実践者研修・管理者研修	1	5	5
			メンタルヘルス社内研修の進め方	1	1	1
	11	9	地域援助技術・リーダー研修*	1	1	1
			ケアマネジメント講座	1	1	1
	11	16	高齢者虐待研修	1	1	1
			HOSPEX JAPAN 2020	1	1	1
	11	4	アウトリーチ支援研修	1	1	1
			公正採用選考に関する研修	1	1	1
	11	16	精神障害に対応した地域包括ケアシステムの構築	1	1	1
			新型コロナウイルス感染症発症施設事例報告会*	1	3	3
	11	11月~3月	事務職eラーニング研修*	2	4	8
			生きづらさを抱える方への支援を考える	2	1	2
	12	2	ゲートキーパー研修	1	1	1
			グリーフサポートについて理解し支援に活かす*	1	1	1
	3	1	引きこもり状態にある方とその家族の支援*	1	1	1
東京都入退院時連携強化研修			1	1	1	
3	27	アディクションを理解し支援に活かす動機付け面接法*	1	1	1	
		クライシスカウンセリングを学ぶ*	1	1	1	
3	11	障害者の高齢化の理解と地域共生のためのケアマネジメント	1	1	1	
		介護予防ケアマネジメント研修	1	1	1	
3	通年	社会福祉施設長資格認定講習*	1	1	1	
		計	53	67	120	

施設外研修

(平塚橋)

年	月	日	研 修 会 名	人数 (人)	日数 (日)	延人数 (人)
2	8	5, 9/8, 10/30, 12/2, 3/3	施設ケア研修*	2	5	10
	9	3	エコリンク研修	1	1	1
	10	14	甲種防火管理再講習	1	1	1
	11	10	高齢者虐待を学ぶ	1	1	1
		11月～3月	事務職eラーニング研修*	3	4	12
		16	高齢者虐待防止研修	1	1	1
	12	28	面会ソフト説明*	1	1	1
3	1	21	ハラスメント研修	1	1	1
		22	介護報酬請求事務に関する研修会*	1	1	1
		26, 27	ユニットケアユニットリーダー研修*	2	5	10
	2	5	コロナ時代における安全配慮義務と企業で取り組む従業員のメンタルヘルス対策	1	1	1
		10	処遇改善セミナー	1	1	1
	3	25	今話題の介護機器メーカーと連携による相乗効果を考える*	1	1	1
		26	介護報酬説明会*	2	1	2
			計	19	25	44

法人勉強会

(成幸・戸越台・荏原・平塚橋)

年	月	日	研修会名	内 容	担当・講師
2	9	4	法 人 勉 強 会	介護支援専門員受験対策講座 1	関根一春先生
		11	法 人 勉 強 会	介護支援専門員受験対策講座 2	関根一春先生
	12	7, 21, 1/18, 25	主任・副主任対象研修	人事マネジメント	末松清一先生
3	2	25	法 人 勉 強 会	福祉施設職員のストレスケア	関屋光泰先生

施設内研修

(成 幸)

年	月	日	研修会名	内 容	担当・講師
2	4	23	サービス研究会	令和2年度計画	施 設 長
		5	28	サービス研究会	職場における腰痛予防対策
	6	25	サービス研究会	食の衛生について	栄 養 室
	7	30	サービス研究会	人権・虐待防止	サ ー ビ ス 課 長
	8	27	サービス研究会	感染症予防対策について	医 務 室
	9	24	サービス研究会	看取り介護について	生活サービス室
	10	29	サービス研究会	個人情報とプライバシー保護	施 設 長
	11	6	施設内勉強会	次世代介護機器の活用について	生活サービス室
			サービス研究会	生活支援記録法 (F-SOAP)	支 援 セ ン タ ー
	12	2	施設内勉強会	新型コロナウイルス感染症対策	生活サービス室
	3	1	22	施設内勉強会	高齢者のスキンケアについて
28			サービス研究会	職場におけるハラスメントの防止に関する規程	事 務 室
2		25	サービス研究会	LIFEについて	サ ー ビ ス 課 長
3		4	施設内勉強会	褥瘡予防について	サ ー ビ ス 課 長
		25	サービス研究会	介護現場におけるハラスメント 職場におけるハラスメント	施 設 長

施設内研修

(戸越台)

年	月	日	研修会名	内 容	担当・講師
2	4	16	サービス研究会	令和2年度のサービス計画	施 設 長
	5	21	サービス研究会	高齢者福祉施設における接遇・マナーを学ぶ	施 設 長
	6	11	サービス研究会	新型コロナウイルスについて	医 務 訓 練 室
	7	16	サービス研究会	介護施設における食中毒対策	栄 養 室
		25	施設勉強会	身体拘束・事故予防・看取り・感染症対策 勉強会	生活サービス室
	8	20	サービス研究会	認知症対応型通所介護と認知症におけるBPSDへの対応について	デイサービスセンター
	9	17	サービス研究会	腰補助用 マッスルスーツについて	生活サービス室
	10	15	サービス研究会	養護者による高齢者虐待	戸越台支援センター
	11	19, 21	サービス研究会	いろいろな錠剤について	医 務 訓 練 室
		17, 18, 22	施設勉強会	感染症について(吐物の処理方法)	医 務 訓 練 室
	12	19	サービス研究会	在宅介護における地区ケア会議の役割 品川区の在宅介護支援センターにおける情報の共有について	杜松支援センター
		28, 29, 30, 31	施設勉強会	餅や異物がのどにつまった時の対応法	医 務 訓 練 室
3	1	21	サービス研究会	腰痛予防のための体操	医 務 訓 練 室
	2	18	サービス研究会	回想法について 新型コロナウイルス感染症対策について	デイサービスセンター 戸越台支援センター
	3	18	サービス研究会	認知症ケア実践報告	生活サービス室
		23	施設勉強会	身体拘束・事故予防・看取り・褥瘡予防 勉強会	生活サービス室

※毎週日曜日 介護技術勉強会実施

※火・水・金・土曜日 サービスマナー勉強会

※毎週月曜日・木曜日 ケア向上勉強会

施設内研修

(荏原)

年	月	日	研 修 会 名	内 容	担当・講師
2	4	23	サービス研究会	令和2年度の計画を決定	施 設 長
	5	28	サービス研究会	食中毒・感染症	栄 養 室
	6	25	サービス研究会	褥瘡について、急変時の対応、手洗い及びアルコール手指消毒の方法確認	医 務 室
	7	30	サービス研究会	職場でのハラスメントの防止に向けて	事 務 室
	8	27	サービス研究会	腰痛予防	訓 練 室
	9	24	サービス研究会	「介護と医療に繋がる記録」生活支援記録法（FSOAIP）とは	小山台支援センター
	10	29	サービス研究会	「その人らしさ」を大切にしたケア～高齢者虐待防止～	施 設 長
	11	26	サービス研究会	看取り介護、実際の対応、役割について	生 活 室
		28	サービス研究会	看取り介護について	生活サービス室
	12	24	サービス研究会	ACP(アドバンス・ケア・プランニング～人生会議～について)	荏原支援センター
3	1	28	サービス研究会	令和3年度介護報酬改定の主な事項について（2月実施）	デ イ サ ー ビ ス
	2	25	サービス研究会	「虐待の芽チェックリストの活用」について	ショートステイ
	3	25	サービス研究会	新型コロナウイルス感染症対応について	生活サービス室
			施設勉強会	身体拘束について（供覧）	生活サービス室
			施設勉強会	事故発生及び再発防止、介護事故とは（供覧）	生活サービス室
			施設勉強会	感染症について（供覧）	生活サービス室
			施設勉強会	ターミナルケア（供覧）	生活サービス室
			施設勉強会	身体拘束等廃止の取り組み、身体拘束は虐待（供覧）	生活サービス室

※施設勉強会は、感染症対応のため、資料供覧し実施。

施設内研修

(平塚橋)

年	月	日	研修会名	内 容	担当・講師
2	6	5	施設勉強会	マズローの5段階欲求から考える身体拘束、相手を不快にさせないサービスマナー	施設サービス課長
		25	サービス研究会	ハラスメントの定義、三徳会のハラスメントの防止に関する規定	施設長
	7	16	サービス研究会	身体拘束とリフレクション～より良い介護をするために～	施設サービス課長
		30	施設勉強会	事故防止	施設サービス課長
	8	20	サービス研究会	看取りケア	生活サービス室
	10	15	サービス研究会	褥瘡の基礎知識と予防法	医務訓練室
	11	19	サービス研究会	感染症～手洗いと汚物処理～	生活サービス室
	12	17	サービス研究会	スキンケア～弱くなった皮膚を守るために～	医務訓練室
		19, 23, 26	施設勉強会	感染症～汚物処理の実践～	生活サービス室
	3	1	21	サービス研究会	人権
2		18	サービス研究会	看取り～栄養の観点から～	栄養室
3	3	18	サービス研究会	事故防止～窒息への対処法～	施設サービス課長

※上記勉強会資料を各ユニットで回覧、休憩室に資料を設置。

2) 実習生受入れ

(単位：人)

区 分	延べ人数	福祉系大学 専門学校等		その他	
		人数	延人数	人数	延人数
成 幸	73	26	70	—	3
戸 越 台	202	9	92	20	110
荏 原	167	1	17	12	150
小山の家	23	4	8	3	15
平塚橋	37	3	37	—	—

区 分	主な実習依頼先
成 幸	品川介護福祉専門学校、東京医療保健大学、 昭和大学医学部附属看護専門学校
戸越台	品川介護福祉専門学校、品川区社会福祉協議会、淑徳短期大学、 東京医療保健大学、女子栄養大学、昭和大学医学部附属看護専門学校
荏 原	女子栄養大学、女子栄養大学短期大学部、東京医療保健大学、 東京聖栄大学、品川介護福祉専門学校
小山の家	昭和大学医学部附属看護専門学校、教職員職場体験
平塚橋	品川介護福祉専門学校、女子栄養大学、

※新型コロナウイルス感染症予防のため、例年受入れしている実習を制限した。

3) 見学

本年度中、訪れた見学者は、次の表に示す通りである。新型コロナウイルス感染症予防のため、状況によりビデオや写真で案内した。

<年間の見学・研修生>

(成 幸)

(単位：人)

年	月	個人・団体	人数
2	4	入所検討	2
	5	入所検討	2
	7	入所検討	2
	11	入所検討	3
		合 計	9

(戸越台)

(単位：人)

年	月	個人・団体	人数
2	5	入所検討	2
	6	入所検討	2
	7	入所検討	1
	8	入所検討	5
	9	入所検討	6
	10	入所検討	4
	11	入所検討	5
	12	入所検討	1
3	1	入所検討	1
	2	入所検討	2
	3	入所検討	2
		合 計	31

(荏 原)

(単位：人)

年	月	個人・団体	人数
2	8	入所検討	3
	9	就職検討	5
	11	入所検討	1
3	2	入所検討	1
		合 計	10

(小山の家)

(単位：人)

年	月	個人・団体	人数
2	4	サービス利用前見学	1
	6	サービス利用前見学	1
	7	サービス利用前見学	1
	9	サービス利用前見学	1
	10	サービス利用前見学	1
3	1	サービス利用前見学	1
	2	サービス利用前見学	1
	3	サービス利用前見学	1
		合 計	8

(平塚橋)

(単位：人)

年	月	個人・団体	人数
2	8	入居検討	1
	11	入居検討	2
3	1	入居検討	2
	2	入居検討	6
		合計	11

4) 近隣との交流

新型コロナウイルス感染予防のため、地域のイベントや交流事業が中止となった。

【実施した事業】

- 令和2年7月7日 第21回戸越台中学校との七夕交流会（戸越台ホーム）
7月17日 戸越台中学校市民科事業「特養ってどんなところ？認知症について」（戸越台ホーム）
令和3年3月16日 戸越台中学校「認知症サポーター養成講座レベルアップ事業」（戸越台ホーム）

【中止した主な事業】

- 地域事業：荏原第1・3地区区民まつり
みんな集まれ「ふくしまつり」
職場体験：戸越台中学校、荏原平塚学園、荏原第五中学校、荏原第六中学校
小・中学校交流事業：中延小学校、宮前小学校、小山小学校、戸越台中学校、荏原平塚学園
保育園交流：東戸越保育園、清水台保育園
地域交流：各町会祭礼（盆踊り、神輿）、戸越八幡神社、三谷八幡神社、戸越銀座商店街、平塚橋ゆうゆうプラザ

5) ボランティア事業報告

【ボランティア活動状況】

新型コロナウイルス感染症予防のため、年間を通してボランティアの受入れを見合わせた。ボランティア活動者へはホームページや「三徳だより」等を郵送するなど広報を行い、活動が可能になったら再開していただけるよう、ボランティア登録を継続している。

区分	行事名	参加人数（人）
成幸	成幸まつり	開催せず
	クリスマス会	—
戸越台	戸越台まつり	開催せず
	クリスマス会	—
荏原	荏原まつり	開催せず
	クリスマス会	—
平塚橋	合同作品展	開催せず

別表 ボランティア登録状況（定期）

施設名	活動内容	登録人数	活動回数
成 幸	リハビリ	3	週1～2回
	洗濯たたみ	2	週1～3回
	ホーム喫茶・バイキング（民生委員）	11	計11回
	ピアノとアコーディオン	4	月1回
	話し相手	1	週1回
	クラブ手伝い	1	月2回
	ピアノ演奏	1	週1回
戸 越 台	リハビリ	9	週1～2回
	ドライヤー	1	週1～2回
	夕食手伝い	1	週1回
	生花	1	月1回
	車いす清掃	12	月1回
	シーツ交換	4	月1回
	エレクtoon演奏	1	月1回
	三味線演奏紙芝居・歌	6	月1回
	ホーム喫茶（民生委員）	12	月1回
	昼食手伝い	3	週1回
	フロア清掃	5	週2回
	洗濯たたみ	5	週1～2回
	ホーム喫茶	5	月1回
荏 原	デイサービスお茶出し	2	週1回
	ショートステイ話し相手	1	週1回
	デイサービスカラオケ補助	1	週1回
	デイサービス下膳	6	週1回
	ピアノ演奏	3	週1～2回
	縫いもの	1	不定期
	紙芝居	1	週2回
	リハビリ手伝い	3	週1回
小山の家	昼食手伝い	3	なし
	おやつ手伝い	2	週2回
	食後の片づけ手伝い	1	週2回
	散歩介助	2	なし

6) 令和2年度行事表

(成 幸)

月	日	行 事	場 所
5	3～5	菖蒲湯	浴室
7	13～16	お盆	館内
8	22	デイサービス夏まつり	デイサービス
9	20	敬老式典	1階
	19～25	お彼岸	館内
12	20	クリスマス会	館内
	21～26	デイサービス クリスマス会	デイサービス
	20, 21, 22	ゆず湯	浴室
1	12	書初め	3・4階
2	3	節分	館内
3	17～23	お彼岸	館内

(戸越台)

月	日	行 事	場 所
5	4～8	菖蒲湯	浴室
	3	家族に手紙を書こう	5階
6		ミニ運動会	5階
	19	湯ふとぴあ	9階
7	1	職員による楽器演奏会	サービスセンター
	7	七夕(戸越台中学校来園)	5・6階
	9	ランチ会(デリバリー)	9階
8	6	職員による楽器演奏会	サービスセンター
	11	湯ふとぴあ	9階
	17	すいか割り	5階
	10	職員による楽器演奏会	サービスセンター
9	10	ランチ会(デリバリー)	9階
	20	敬老式典	8階
10	1	お月見	屋上
	18	外気浴	9階・屋上
11	12	ランチ会(デリバリー)	9階
	16	クリスマス会	サービスセンター
12	18～24	ゆず湯	浴室
	20	クリスマス会	8階
2	2	節分	5・6・7階

	3	豆まき節分	サービスセンター
3	26	職員による楽器演奏会	サービスセンター

(荏原・小山)

月	日	行 事	場 所
4	5/2～4	菖蒲湯 (デイ5/1～7)	各浴室
8	23	かき氷大会	特養フロア
9	20	敬老式典	荏原ホーム1階
10	21	荏原複合施設総合防災訓練	全館
12	21	特養クリスマス会	3・4階
	19～25	デイサービス クリスマス週間	デイサービスセンター
	19～21	ゆず湯 (デイ12/17～23)	特養、ショート、デイ
1	4～10, 1/4～9	デイサービス新春週間	デイサービスセンター
2	3	節分	3階

(平塚橋)

月	日	行 事	場 所
5	6～8	菖蒲湯	浴室
8	27	品川介護オープンキャンパス	館内 (オンライン)
9	9	敬老式典	1階ゆうゆうプラザ館内
10	11	合同防災訓練	全館
11	3	神輿連合渡御	町会
	3	お楽しみ会	館内 (ユニット)
	27	お楽しみ会	館内 (ユニット)
12	11	お楽しみ会	館内 (ユニット)
	2119～2321	柚子湯	浴室
	22	お楽しみ会	館内 (ユニット)
	24	クリスマス会	館内 (ユニット)
1	1	初詣	三谷八幡神社
	19	お楽しみ会	館内 (ユニット)
2	26	お楽しみ会	館内 (ユニット)
3	15	お楽しみ会	館内 (ユニット)
	30	合同防災訓練 (ビデオ視聴)	1階ゆうゆうプラザ館内

8. 事例報告

(1) 「笑顔は一生の宝」 ～コロナ禍のなかレクリエーションを再考する～ (成幸ホーム)

《はじめに》

令和2年は新型コロナウイルス感染症の世界的な流行により、利用者の生活に大きな影響が出た。クラブ活動やイベントなどは感染予防策を徹底しながらの開催となり、規模の縮小や中止にせざるを得ないこともあった。また、家族面会はほとんど対面で会うことができなくなり、オンラインで対応するなど日常生活に変化が生じていた。今まであたりまえだった日常は一変し、環境の変化をストレスと感じる利用者も多く見られた。

ある日、フロアのボードに「笑顔は一生の宝」という文字を見かけた。これは、ある利用者が書いた言葉であったが、生活の中で大切にしたいものは「笑顔」であることを実感し、私達はどのような状況でも利用者が笑顔で生活できる支援を考えるきっかけとなった。

《レクリエーションを通して多くの笑顔を》

生活の中では年間を通し、音楽リハビリ・クラブや習字クラブ、紙芝居の読み聞かせなど多くの外部ボランティアによる活動が中止になった。そこで職員が中心となりレクリエーションを実施しようと考え、感染対策のため人数が多くならないようにし、参加しやすい内容で継続的に行うことで利用者が自然と笑顔になっていただこうと取り組んだ。

《取り組みと実施内容》

1. 取り組み

①レクリエーションの位置づけ

日常生活の中に変化と心身のリフレッシュをもたらせるものとして位置づける。

実施内容については限定せず、各職員が参加する利用者や内容を決める。

②必要物品の準備と職員への周知

事前の職員調査で利用者の中に植木への水やりを以前行っていた方がおり、家庭菜園を行いたいとの希望があり場所の確保や物品の準備を行う。また、小人数で手軽にできるものとして、作品づくり、習字なども取り入れた。職員へ計画や実施方法の周知は連絡帳を活用。

③レクリエーションの実施

大人数にならず施設内で誰でも参加しやすい内容で行う。レクリエーションの実施時間は特に定めず、できる時間帯に無理なく行うようにした。その様子は写真に残し、職員間で情報を共有できるようにした。

2. 実施内容

①レクリエーション（一例）

- ・ベランダで家庭菜園：品川かぶ、ミニトマトなどを育てて収穫
- ・音楽、映画鑑賞：プロジェクターを使いミニシアターを再現
- ・作品づくり：季節感も取り入れて

- ・習字、ぬり絵：スペースと道具があれば実施可能
- ・入浴剤を使用した入浴：心身のリフレッシュ

②内容

家庭菜園では参加した利用者が日記を書いていたことからヒントを得て、絵日記にできるようノートを用意。作物の成長を気にされ、自ら菜園まで様子を見に行く姿が見られていた。収穫した品川かぶは栄養室に相談し食事の際に提供することができた。

音楽や映画鑑賞ではテレビやプロジェクターに映し大画面で楽しんでいただき、担当する職員が出勤すると「映画は今日もあるの？」などの発言が聞かれていた。他にも紙粘土を使用しての作品づくりなど、指先を動かしながら会話を楽しむ際は、参加者の笑顔が見られたり、「明日は何があるのかな」と笑顔を浮かべて話す利用者がいたことが印象深かった。

《実施後のアンケートより》

①利用者

- ・利用者は小人数だが、楽しかったとの声が上がっていた。また、次は好きな俳優が出ている映画が観たいなどの希望も聞くことができた。

②職員

- ・利用者が思っていた以上にできることが多かったとの意見に対して、提供したレクリエーションが難しい利用者もいたとの意見もあった。
- ・事前準備も含め、無理なく空いた時間で行うには、3，4人程度の参加人数が実施しやすかった。
- ・利用者の笑顔が見られ今後も少人数で気軽にできるレクリエーションを実施していこうと思うとの意見もあり、職員の協力を得られた。

《考察》

今回の取り組みで利用者の笑顔が多く見られたことにより、職員が行うレクリエーションも日常生活を送るご利用者の楽しみにつながることを改めて実感できた。レクリエーションは日常生活の中に変化と心身のリフレッシュをもたらせるものと幅広く位置づけたことで、形に捉われない自由な発想が生まれた。また、職員自身が趣味や特技を生かして得意分野を発揮したことで、職員同士が協力しあい変化に富んだレクリエーションができた。

今回はコロナ禍で恒例であったイベントの縮小や中止が相次いだなか、日常生活に変化を持ち、利用者自らが「笑顔は一生の宝」だと感じるために、どのように支援をするかを模索しながら取り組んだ。今後も感染対策に十分配慮しながらレクリエーションを継続していきたい。

(2) 新入所者へのチームアプローチによるADLの改善

(戸越台ホーム)

《はじめに》

ホームに入所される利用者の中には、医療的なニーズを抱えている方が大勢いる。今回、踵に褥瘡ができていた状態で入所された利用者に、専門職のアプローチによりADLの改善が見られた取り組みを紹介する。

《ケース紹介》

M様 93歳 女性 要介護度4

既往歴：褥瘡、鉄欠乏性貧血、慢性心不全、高血圧、尿路感染症、認知症

移動：車いす全介助 食事：一部介助 排泄：昼夜おむつ交換 更衣：一部介助

会話：その場限りで可能

入所前、自宅においてホットカーペット上で動かずにいたところ、左右踵部が低温やけどになってしまい、その後、悪化して褥瘡になった。

《支援の経過①》

<入所時の暫定処遇>

【生活サービス室】ベッドマットはエアマットを使用。

シーティング・ポジショニングや定時体位変換を行い、褥瘡部位の除圧に努めた。

食事は自力摂取可能であったが、声かけや、自力摂取しやすいよう環境を整えた。

【医務室】1日1回、石鹼洗浄を行い、軟膏を塗布後、ガーゼと包帯で保護した。

【訓練室】関節可動域訓練、マッサージを実施。シーティング・ポジショニングの検討。

【栄養室】入所前は介護老人保健施設に入所され、Hb9.9で貧血食を摂食していた。当施設入所時では、アルブミン3.2、Hb10.0であり、腎機能に異常のないことから褥瘡、鉄欠乏性貧血の改善を目的とし、エネルギー200kcal、たんぱく10g、ビタミン、ミネラルを追加した食事を提供した。

《支援の経過②》

令和2年2月19日・・・褥瘡の大きさ：左踵部7cm×5cm（右踵部は入所前に完治）

黒色で臭気、浸出液あり

褥瘡のステージ（DESIGN-R）：D4—E6s8I3G5N6P0 28点

処置内容：石鹼洗浄後ユーパスタ+ガーゼ+包帯

令和2年2月21日に細菌培養、3月3日に培養結果をふまえて処置内容に、ゲンタシン軟膏を追加した。

令和2年2月27日～令和2年6月25日（計5回）褥瘡対策委員会を開催

各セクションが改善計画表に基づき、状態把握と今後の対応について検討を重ねた。

令和2年3月26日・・・褥瘡の大きさ：左踵部4cm×1.5cm

褥瘡ステージ：D3—e3s6i1G4N3p0 17点 体重：38.6kg BMI：15

令和2年5月28日・・・褥瘡の大きさ：左踵部2.5cm×0.5cm

褥瘡ステージ：d1—e1s6i0g1n0p0 8点 体重：41.8kg BMI：16.3

令和6月21日・・・褥瘡ステージ：d0—e0s0i0g0n0p0 0点 体重：41.8kg BMI：16.3

褥瘡は治癒したが、部位を保護するため保清後ワセリン+ガーゼ保護処置は継続

令和6月27日 左踵部の褥瘡完治 処置終了

《支援の経過③》

＜ご本人の状態や生活の変化＞

食事：取り組み中はエネルギー約1500kcal、たんぱく質63gを摂食された。

入所時は、体重39.1kg、BMI15.3であったが、令和2年7月頃には体重43.1kg、BMI16.8と推移し、通常食とした。9月ではアルブミン3.5、Hb11.2となった。入所当時は一品食であったが、皿を手前によせ、麺やパンなどは食べやすい大きさにカットすることで、自力で摂取される姿が見られた。

入浴：入所時はミスト浴で、シャワーの勢いに注意し、洗身時はプラスチックグローブを装着し、褥瘡部位を傷つけないよう、なでるように擦り洗いをした。褥瘡完治により、6月20日から寝台浴へと変更し、湯に浸かれるようになった。

排泄：入所時は昼夜オムツ交換であったが、褥瘡の改善、完治を経て、9月頃から日中は職員2人介助にてトイレ誘導を行い、トイレでの排泄が可能となった。

移乗：褥瘡が完治し、足に力を入れることができるようになり、9月頃からトイレ時の便座への移動、ベッドや車いすへの移乗が行えるようになった。訓練内容も平行棒内での立位保持訓練へと移行した。10月には数歩、歩ける状態が見られた。

活動：栄養状態の改善や、体力がついたことで離床時間が伸びてテレビを観て文字を読み上げるなど、発語や会話が増えた。クラブやホーム喫茶など行事への参加もしている。

《まとめ》

入所当時のM様は、踵に褥瘡があることで自分の足で立ち、歩くことができず、入浴も満足に浸かることができないなど、いくつもの活動制限を受けていた。病院で専門的な褥瘡治療を受けるのではなく、生活の場であるホームでの暮らしを続けながら褥瘡を完治させ、M様らしい生活を取り戻される姿に寄り添い支援してきた。

各専門職がチームアプローチにより、本人の「生きようとされる力」に働きかけることで状態の改善に留まらず、その方の暮らしぶりや、本人の姿がより豊かな方向へと変化していくことができる。さらに、「多職種の連携・協働」を強化して取り組んでいきたい。

(3) 戸越台複合施設の事業再開後のリハビリについて

(戸越台在宅サービスセンター)

《はじめに》

平成30年10月に戸越台在宅サービスセンターは、戸越台複合施設の大規模改修工事のため東中延1丁目の賃貸マンション1階に移転していたが、改修工事が令和2年8月で終了し、同年9月14日から戸越台複合施設での事業が再開となった。

移転先は、戸越台複合施設よりも狭い空間であったが、そこを利点と捉えながらサービスの見直しを図り、2年間業務にあたった。改修工事が完了し、広いスペースの戸越台複合施設に戻ったことで、再度リハビリ内容の見直しに向け取り組んだ。

《移転先（東中延）でのリハビリ》

移転先は、小さな場所であったためテーブルやイスも移動できず、平行棒や滑車などの専門的なリハビリ器具は設置できなかった。そのため利用者が普段過ごしている場所で、体操を午前と午後を実施。その他、室内の歩行練習や、手すりを使用したスクワット・片足立ちなどの個別訓練、天気が良い日は近隣に屋外歩行訓練に出かけていた。

《戸越台複合施設の事業再開後のリハビリ》

戸越台在宅サービスセンターは戸越台複合施設の8階にあり、1階から8階への往復移動がある。また、リハビリ時はダイルームから廊下を通ってフロア内の移動が必要である。食堂と浴室も9階にあるため、8階から9階への往復移動もあり、利用者の生活の中での移動距離は以前よりかなり増加した。

個別リハビリでは平行棒、滑車、階段昇降や肋木などの専門器具を使用できるようになった。専門器具を使用する際は、使用する目的を意識しながらリハビリを行っている。利用者送迎時、実際に介護職員や機能訓練指導員が自宅を訪問し、『自宅内に階段があり使用している』『上がり框が高い』『玄関前に段差がある』などを確認し、それに応じた階段昇降運動を行っていることを利用者に説明し、実施している。また、さまざまな専門器具を使用できるようになったことにより、「運動している」と実感できている利用者も増えた。

ある利用者（車椅子全介助、つかまり立ち可）の歩行訓練では、移転先では職員による肘引き介助にて5m程の歩行であったが、現在では平行棒を使用し安心して歩行できるため、平行棒内を1～2往復（7～14m）歩行可能となった。

午後には集団体操と共に、レクリエーションを取り入れながらのリハビリを実施している。パラリンピックの正式種目でもあるボッチャを実施しており、ボッチャには脳トレの要素やグループで競い合うゲーム的な要素もあるためモチベーションも上がり、利用者は一喜一憂し、楽しみながら参加している。疲れもありリハビリの途中でいつも帰られていた方が、ボッチャに参加したいと帰宅時間を遅らせるようになった。

移転先で行っていた『屋外歩行』ができなくなり、『屋外歩行』を楽しみにリハビリを行っ

ていた利用者からは少し残念な声が聞かれていたため、代わりに『ベランダ歩行』『屋上散策』を積極的に取り入れた。歩行中は「私の家はあのマンションの隣なの」「終戦後にあの辺にはバラックがあったのよ」「昔は大崎にはあんなに高い建物はなかった」などのお話しが聞かれ、8階や屋上からの眺めの良い景色という特性を生かし、楽しみながら歩行している。また、ベランダと屋上庭園では季節の花や植栽をたくさん見ることができ、利用者の関心事の一つとなっている。

《他職種との連携》

移転先での狭い空間で培った、他職種間でのこまめな申し送りや情報共有を活かし、戸越台複合施設に戻ってからも、介護職員と機能訓練指導員はより柔軟にお互いをフォローできるようになった。

コロナ禍で、リハビリのボランティアも不在となってしまったが、その代わりに介護職員がリハビリ中のお茶出しや、歩行訓練等の個別リハビリをフォローするようになった。それ以外の時間でも、一日の生活の中で歩行訓練などの声かけをし、実施している。一方で、機能訓練指導員も利用者の来園時に1階まで迎えに行き、昼食時の利用者の8階と9階の往復も、介護職員と機能訓練指導員が協力して行っている。利用者の歩行状態を把握し共有することで、移動による転倒のリスクも減っている。

一日を通した相互の連携の中で得た利用者の『変化』や『気づき』もこまめに申し送り、情報共有している。その中で、利用者一人ひとりの楽しみや興味があることを引き出し、考えながらサービスを提供するよう努めている。

《考察》

移転先では気軽に屋外歩行ができたので、外出するということに楽しみを持っている方が多かった。身だしなみに気をつけて季節に合わせて服装を考え、その日によって地面の凹凸や段差があるルートのどこを歩くか考えることや、店舗の前を歩くことも利用者にとって楽しみでありプラスだったことに気づかされた。狭い空間であったが、利用者を観察して得た『気づき』を他職種間でこまめに情報共有し、次回につなげることの効果を学び、実感した。

戸越台複合施設においては、生活のなかでの移動距離はかなり増えたが、ただ廊下を何往復と決めて歩いているだけでは、少し味気ないものになってしまう。利用者の運動量を向上させていくためには、決められた距離を歩くだけではなく、『ベランダ歩行』、『屋上散策』のように、ベランダにある植栽の水やりや屋上にいるメダカに餌をあげに行くなど、その楽しみに加えて目的意識を持ってもらうことで、より生き生きとリハビリを行うことができる。在宅訪問をとおして利用者の生きるための課題を把握、介護職員と機能訓練指導員の連携により目的をもったリハビリを実施し、今後も利用者一人ひとりの自立支援に取り組んでいく。

(4) 皆で作るクラブ活動 ～自己決定を支援する～

(荏原在宅サービスセンター)

《はじめに》

利用者のデイサービスでの過ごし方は様々で、入浴・リハビリ・クラブ活動等、計画書に基づいてサービスを提供している。荏原在宅サービスセンターの場合は、午後にクラブ活動の時間があり、曜日によって内容が決まっていた。

クラブ活動参加者から「私は手芸をやってみたい」という希望があり、3年前よりこれまでのクラブ活動に加えて、従来の活動とは別に個別クラブとして、第2・4火曜日手芸、第3火曜日切り紙、毎週水曜日作品作りを行うことになった（定員1回6～10名）

《内容の検討》

個別クラブを開始するにあたり、利用者とともにクラブ活動の内容を決める話し合いを2回行った。

1回目 利用者でどのようなクラブをやりたいか意見を出し合う。

（意見）手芸、ペン字、絵画、写経等

2回目 利用者がそれぞれ出した意見から、手芸（個別）クラブに決定する。

***決定後**

参加者予定者の中には脳梗塞等により片麻痺の方もいた。その方の言葉として「片手でできることをやりたい」「みんなに迷惑をかけるかもしれないが手芸をやりたい」とあった。片麻痺の方が一緒に参加できるようにするにはどうしたらよいか、利用者、ボランティア、職員のみinnで話し合う。「〇〇さんの事はみんなの手伝いながらやっていきたい」と、他利用者から声があがった。

《開始当初から現在まで》

利用者はそれぞれ心身の状況が異なる。そのため参加しやすくするために、必ず職員が見本となる完成品を作る。そして利用者がそれを見ながら作成。縫物の作品作りの場合は、始めの一針二針は参加者の目の前で、実際に職員が縫いながら説明を行った。

開始当初は昔の勘を取り戻すのに時間がかかったが「昔取った杵柄だ」と徐々に上手に縫われるようになってきた。

1年が経過したあたりから参加者ができることが多くなり、難度の高い作品（エコバック・ショルダーバッグ等）に取りかかれるようになった。そのため、作り方もさらに縫い目を細かく丁寧を心掛け作業を進めるように変化が見られた。

完成品はサービスセンターのロビーに展示。他利用者や職員、来客者からの評判も良く、「どのように作ったの?」「売ってくれないかしら?」等の言葉が聞かれるようになった。

《利用者間交流》

参加者が自分自身でやりたいことを決め、開拓した個別クラブがスタートして数か月は職員やボランティアが手伝う場面が多かった。しかし、少しずつ参加者間で「あなたできる?」

「大丈夫？」等の声掛けや助け合いが見られるようになる。

現在、個別クラブの最高年齢の方は103歳だが、縫う作業や貼る作業は今もご自身で行う。他の参加者は職員に対して「あんたのも作ってやろうか？」等、以前より意欲的な発言も聞かれるようになった。また作品をロビーに展示することにより、創作意欲の向上や、参加していない利用者に参加者が作品の説明をしたり、逆に作り方を参加者に聞いたり、利用者間の交流が個別クラブを通して見られるようになった。

《まとめ》

本人の意思や、その人らしさに触れ合いながら関りができることで、クラブ活動の様子から利用者のその日の気分や、精神状態が作品を通して知ることができることに気づく。

例えば、いつも明るい色彩を使っている人が暗い色を使う、いつも規則的に作品作りをする人の並べ方が規則的ではない、几帳面な方の、のり付け方が雑等、その方の精神面等の変化が作品に表れることが見られた。

「自分で決める」ということは、本人の意欲を向上させ、他者への配慮、手助けという、その人の本来の姿が見えて来る。また、潜在能力を引き出すことにより、自分でできることが増える。そのことにより、自信を取り戻し、日常生活に良い影響も出る。

今では年に2回程度、職員の配置や座席に工夫をして、個別クラブ以外のクラブ参加者が全員作品作りに参加できるようにしている。引き続きクラブ活動を通して、参加者の様子を知ることが出来るように、また楽しく参加していただけるように取り組んでいる。



(5) 人とのつながりが自立を支える

～コロナ禍における生きがいを支援することとは～

(荏原在宅介護支援センター)

《はじめに》

現在も続く新型コロナウイルス感染拡大。不要不急の外出自粛により、高齢者の体力、筋力低下が懸念される声が多く聞かれる。振り返れば、東日本大震災後の生活不活発病による心身機能の低下により、支援を要する高齢者が増加したことは記憶に新しい。本事例は新型コロナウイルス感染拡大という、一種の災害とも取れる社会情勢の中、人とのつながりが切れてしまったことにより不安や焦燥感を感じながらも人とのつながりを取り戻し、自立を目指した事例である。

《事例紹介》

S・S様 79才 女性 要支援2 障害高齢者の日常生活自立度 J 1
認知症高齢者の日常生活自立度 II a

夫とは死別。未婚の次女と同居

既往歴:くも膜下出血

平成29年7月卓球の試合中、くも膜下出血のため救急搬送。術後の状態は食事もとれず点滴のみで対応。言葉が出ない状態であったが、その後の経過は良好で回復期病院へ転院。平成30年2月退院。くも膜下出血の後遺症で高次脳機能障害が残る。退院後は通所リハビリテーションを利用。平成3年11月より、担当理学療法士の提案・検討により訪問リハビリテーションを導入。高次脳機能障害による記憶力の低下はあるが、自宅での生活はほぼ自立。入院前に通っていた卓球教室は短時間ではあるが再開。令和3年1月末の更新で、要介護1から要支援2の認定となる。

《支援経過》

【令和2年2月】

要支援2となり、介護予防給付によるマネジメント開始。

Aリハビリテーション病院による通所リハビリテーション及び訪問リハビリテーションを継続。担当理学療法士とサービス担当者会議において、通所では集団でのリハビリテーションを行い、訪問では集団によるリハビリテーションでは補えない高次脳機能障害に対する個別アプローチでリハビリテーションをしていく必要があると確認。

【令和2年3月～6月】

新型コロナウイルス感染症流行の影響で、生き甲斐でもあった卓球ができない生活が始まる。4月になると緊急事態宣言が発出され、卓球教室に行けない生活になっただけでなく、日々の買い物や日課としていた散歩の減少等、明らかに活動量の低下が見られる。この状況は6月になっても変わらず、この頃から「買い物に行ったら、沢山の人がレジに行列をなしていて気分が悪くなった。なんだか、街中がワサワサしている感覚で、様変わりしたみたい。」と、話されていた。Aリハビリテーション病院の通所や訪問がある事で気持ちも紛れ、

心のザワツキが一時的には解消されている。

【令和2年7月～8月】

7月のモニタリングにて本人より「うつ状態みたい。死んでしまいたい。ニュースを見ているだけでも不安になる」。8月のモニタリングでは、開口一番「私、うつになりました」と言われる。医師による確定診断を受けては無いが、普段よりも声は暗く、会話の反応も鈍くなっている。専門医への受診の促しをするが反応悪く受診には繋がらず。通所・訪問リハビリテーションによる理学療法士の関わりにより、精神状態の改善を図る為に、理学療法士への情報提供と連携を、一層密にすることとした。

【令和2年9月～11月】

9月になり卓球を再開できるようになる。8月のうつ状態の時とは全く別人のように明るい声で「仲間と一緒に卓球ができること、話ができることが本当に楽しい」と報告を受ける。活動的な生活が少しずつ始まり、これを契機に10月で訪問リハビリテーションを終了。

【令和2年12月～令和3年4月】

12月モニタリング面接。卓球教室と通所リハビリテーションに継続的に参加されていることを確認。この頃、膝に痛みが出てきているが、卓球は休まず参加。4月になると、状態の安定により通所リハビリテーションから終了の提案がある。「これからも卓球を続けていくから大丈夫よ」と本人の意向も確認をして、介護保険サービス全てが終了となる。

《考察》

くも膜下出血後遺症による高次脳機能障害となり、記憶の保持が困難となる。調理中の火の扱いや常にメモを取る等自分なりに工夫をしながら現在も生活をされている。

卓球教室参加を目標にリハビリテーションを続け運動機能の向上を図ってきた。目標達成後は、参加の継続と最終目標である「卓球の試合に出たい」という気持ちを支援してきた。新型コロナウイルス感染拡大に伴う様々な活動自粛により、卓球の練習も休止。街中の様子が変わって行くこと、マスメディアによる報道の煽りにより、本人の気持ちは大きく揺さぶられ、不安が大きくなり、生きることへの意欲すら低下し、うつ状態になってしまった。

この状況の改善を図るため、本人はもちろん、家族とも面談を重ね、理学療法士との連携も取りながら支えることができたケースである。卓球の練習の再開と共に本人の気持ちも落ち着き、意欲の向上が見られ、リハビリテーションの卒業を検討提案されるまでになったが、本人の自信回復につながったと考える。今後は、卓球を続けていきたいという気持ちが維持できるような働きかけをしていくことが必要だと考える。本人の気持ちや目標を多職種で共有をしながら支援することができたケースであった。全てが上手くいくケースばかりではないが、今回のケースワークを今後の支援に活かしていきたいと考える。

最後に、今後首都直下型地震等、未曾有の災害が起こる可能性がある。その際、クライアントの意欲低下を予防しリハビリテーションを考えていくことは非常に重要なことであり、そのためには、アセスメントによる本人の希望や生き甲斐を確認しておくことが重要である。加えて、品川区地域防災計画を基盤にした、リハビリテーション計画の構築が必要であると考え。

(7) 突然始まった不本意な生活から、「この人がいるから」の生活への変化 (平塚橋ホーム)

《はじめに》

一生懸命に働き、子供たちとも良好な関係を保ちながら一人暮らしを続けていた。デイサービスなどの介護保険のサービスはご本人の意向で利用していなかったが、一人暮らしを続けたい気持ちに反して特別養護老人ホームに入居することになった方の事例を報告する。

《ケース紹介》

T様 入居時 94歳 女性 要介護3 認知症高齢者の日常生活自立度 IIIa
入居日 令和2年7月 入居前の既往歴 左上腕骨折、認知症

アパートの2階に住んでおり、身体機能の衰えによって階段昇降が難しくなり、自宅に閉じこもりがちになった。身の回りの世話は家族が通いながら行い、ケアマネジャーと様々なサービスを試してきたが、人の世話になるのを好まないためサービスの継続が難しく、サービスは週1回の訪問介護のみであった。容姿は髪がボサボサで目やにがついており、尿で汚れた衣類を着ているなどの状態で入浴もほとんどしていなかった。一人暮らしが限界になってきたため、特別養護老人ホームに入居することになった。

《入居後の経過》

入居当日、居室で各職員が交代で話をしながら過ごしていただいていたが、そのうち「もう帰ろうと思います。どこから出るの?」と出口を探して歩かれていた。家族を見るとより強い帰宅願望が出る可能性があるため、家族と相談して会わずに帰っていただいた。

入居前の情報として社交辞令的に他の方と話すことはでき、問題なく社会生活を営んでいたとのことだったため、話好きな他利用者と同じテーブルになるように席を配置した。さらに状況を理解し協力してくれそうな利用者A様に、「初めて来てつらく寂しい思いをしていると思うので積極的に話しかけ、できれば友達のようになっていただけるとありがたい」と協力をお願いする。当初はケアワーカーが間に入り自己紹介をしていろいろ話をしてみるが、とても落ち込まれていたため、ほとんど話をされなかった。その後ケアワーカーはその場を離れるが、A様は継続的、積極的に話しかけ、つらい思いを聞いてくださっていた。

食事は渋々半分ほど食べられていたが、就寝時間になりフロアから人がいなくなると「家に帰してください!なんでこんな意地悪するの!」と叫びはじめた。居室で休むよう勧めるが強く拒まれ、時には出口を探して歩き、疲れて床に座りこむこともあった。ケアワーカーは強く制することはせず、本人の気持ちに「そうですね」と寄り添いながら見守っていた。2日間はほぼ眠ることなく過ごされた。

日中はずっと話しかけてくださっているA様といるときは、少しずつではあるが入居当日よりは穏やかに話されるようになってきていた。ケアワーカーの話しかけには警戒し話を断られることが続くが、洗濯物たたみなど、A様を通じてお願いをすると「手伝おうか?」と自ら手を伸ばし手伝うこともあり、徐々に打ち解けてきた様子が見られた。A様の側で椅子に座って傾眠されることがあったが、睡眠はその短い時間だけという日が続いた。

A様を経由する形であればケアワーカーと話すということも、日を迫うごとに増えていくようになってきた。A様はT様が落ち着かないときには家族のことや、入浴を嫌がる際は入浴の促し、食事を嫌がる際には「おいしいから食べてみたら」と数多く話しかけられていた。

2週間ほど経った頃、A様への仲間意識が生まれた様子で「一緒に行こう」や「この人がいるから」などの言葉も聞かれるようになっており、仲の良くなったA様をご自身の居室に招いて2人だけで談笑されている場面も見られた。

協力をお願いしたA様の気持ちや関係などにも気を配り、折に触れて感謝を伝え、困られたことなどないか、継続して協力していただけるかの確認を行っていた。「あの人が話すと、意外に冗談も言うのよ、娘さんのことはすごく自慢みたいよ、そんな話もいいかもね」など教えてくださる。

この頃から居室を指し「私の名前が書いてあるところに連れて行って」と言われるようになり、持参された家具を見て「私のなの、私の部屋？」とご自分の部屋という認識ができてきた。

睡眠については様々な声かけ、方法を試していた。当初よりベッドで休まれることはなかったが、入居17日目、この日は居室で休まれることを提案するとベッドに座られた。時間をおいて様子をうかがうと横になり眠られていた。その後、徐々に居室で睡眠をとることが多くなり、食事量、清潔もある程度保てるようになっていった。その他のこともさらに長い期間をかけ、少しずつ慣れていくように支援した。

現在はA様以外の方とも話し、日中フロアで皆さんと一緒に体操、洗濯物たたみなど積極的に行っている。ケアワーカーの話しかけには「本当？嘘ついてない？」と疑いながらも話に応じ、夕食後フロアに人が少なくなると「そろそろ部屋に戻る」と自ら就寝準備をする姿も見られるようになった。入浴と爪切りは、変わらず拒まれることが多くあるが、声かけの工夫などでなんとか協力していただいている。

《考察》

本人の気持ちに反して、身体状況、家庭環境などから施設に入らなければならず、自身では解決できない状況に陥ってしまった。その気持ちに寄り添い、施設のルールを性急に押し付けることなく、日を重ねることで少しずつ施設の生活に慣れていくことができた。ケアワーカーの根気強い見守り、声かけ、様子観察も重要だが、初日より継続的、積極的に話しかけて下さったA様の貢献は大変大きかった。

本人の希望で施設に入居される方はほとんどいない。また、認知症という病態において、施設に入らなければならないという理解が難しくなっている。本人の気持ちに寄り添いながら、焦らずに様々なことを数多く試すのは重要だが、自分がいてよい場所、自分の話を聞いてくれる仲間という意識を持っていただけるよう、他利用者と協力してコミュニティーに入りやすい環境を作ることが大切なことだと再認識した。

社会福祉法人 三 徳 会
令和 2 年度事業報告書

令和 3 年 6 月 25 日発行
〒142-0053 東京都品川区中延1-8-7
TEL. 03 (3787) 3616 (代表)

